

木津川市まち・ひと・しごと創生
「人口ビジョン」・「総合戦略」
(案)

資 料 編

京都府木津川市

平成 27 年 10 月

※本書に記載の数値は、原則として数値の単位未満を四捨五入したことにより、
総数と内訳の計が一致しない場合があります。

= 目 次 =

1. まち・ひと・しごと創生にかかる市民意識調査結果	1
1.1 アンケート実施概要	1
1.2 地域別、ライフステージ別、新旧住民別、就労地別の集計区分について	3
1.3 属性	4
1.4 就職	13
1.5 結婚	17
1.6 出産・子育てについて	25
1.7 お住まいについて	38
1.8 市内での定住意向について	43
1.9 老後の暮らし方について	45
1.10 木津川市の将来について	48
1.11 調査に用いた調査票	66
2. まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るワークショップ	74
2.1 ワークショップ実施概要	74
2.2 ワークショップからの意見	75
3. 本市の社会経済の状況	82
3.1 人口	82
3.2 周辺市町との比較	91
4. まち・ひと・しごと創生法の概要	103
5. まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像	103
6. 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会条例	104

1. まち・ひと・しごと創生にかかる市民意識調査結果

1.1 アンケート実施概要

1.1.1 調査の目的

○木津川市は、現在人口が増加しているものの、一層魅力あるまちとして発展し続けるために、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方創生の取り組みとして、地域の課題を解決し、市が目指すべき方向やそれを実現するための施策を示した総合戦略の策定を行いますが、策定にあたり、市民の意識や意見、地域別の課題などを把握するための調査を行いました。

1.1.2 調査実施概要

○調査実施概要を以下に示します。

表 1-1 調査の概要

項目	詳細
調査の名称	木津川市のまち・ひと・しごと創生総合戦略に係る 市民アンケート調査
調査主体	木津川市 市長公室 学研企画課
母集団	市内在住の満 18 歳以上の方※ ※平成 27 年 4 月 1 日現在 約 57,000 人
サンプリングの方法	住民基本台帳から無作為抽出法
配布回収方法	郵送配布、郵送回収
調査実施期間	平成27年5月29日(金)～6月16日(火) ※7月9日(木)到着分までを有効票として集計している。
主な質問項目	■個人属性 ■就業状況 ■結婚状況 ■出産・子育て状況 ■居住の状況 ■定住意向 ■老後の暮らし方 ■木津川市の将来に必要な支援策 ■木津川市が他市に比べて誇れるところ・不足しているところ

表 1-2 調査の配布・回収状況

項目	詳細
配布数	5,500件
有効回収件数(回収率)	2,138件
回収率	38.9%

1.1.3 調査項目

主な調査項目は、下表に示す通り。

表 主な調査項目

項目	No.	設問内容
属性	問01	性別
	問02	年齢
	問03	居住地
	問04	同居家族
	問05	最終学歴
	問06	就業状況
	問07	現在の仕事内容
	問08	勤務地
	問09	就業形態、正社員でない理由
就業	問10	就業希望の有無
	問11	市内での就業希望、市外へ就業したい理由
	問12	希望する仕事内容
	問13	就職で重視する点
	問14	市内で就職を増やすための支援策
結婚	問15	結婚の有無、配偶者の就業形態
	問16	将来の結婚意向、結婚しない理由
	問17	結婚したい年齢
	問18	結婚の際に障害となること
	問19	結婚促進のための支援策
出産・子育て	問20	現在の子どもの人数
	問21	最終的な子どもの人数
	問22	理想の子どもの人数
	問23	子育て環境
	問24	子育てのために行政に望む支援策
	問25	妊娠・出産・子育てで困っていること<自由記述>
お住まい	問26	市内での居住年数
	問27	居住形態
	問28	現在のお住まいでの居住年数
	問29	現在のお住まいでの居住歴、居住理由、住まいを決めた要因
定住意向	問30	今後の定住意向
老後の暮らし方	問31	理想の老後の暮らし方
	問32	老後の暮らしへの不安
	問33	老後の暮らしで不安に感じる点
木津川市の将来	問34	安定した仕事につけるまちづくりのための支援策
	問35	市内外の人が交流できるまちづくりのための支援策
	問36	結婚・出産・子育てしやすいまちづくりのための支援策
	問37	定住しやすいまちづくりのための支援策
	問38	活力のあるまちづくりに取り組む人・地域を育てるための支援策
	問39	他都市に比べて誇れるところ<自由記述>
	問40	他都市に比べて不足している点<自由記述>
	問41	市の魅力を高めるアイデアなど<自由記述>

1.2 地域別、ライフステージ別、新旧住民別、就労地別の集計区分について

調査結果は、必要に応じて、地域別、ライフステージ別の集計についても、以下のよう
に集計区分を整理・集約して行う。

■地域区分

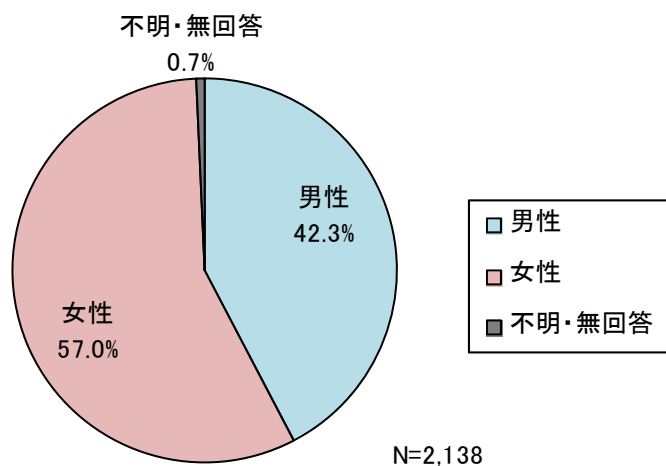
木津	鹿背山、梅谷、市坂、木津、木津町、吐師、相楽
木津 ニュータウン	梅美台、州見台、城山台、相楽台、兜台、木津川台
加茂	加茂町銭司、加茂町井平尾、加茂町岡崎、加茂町河原、加茂町西、 加茂町例幣、加茂町奥畑、加茂町山田、加茂町兎並、加茂町北、 加茂町北下手、加茂町南下手、加茂町森、加茂町勝風、加茂町高去、 加茂町尻枝、加茂町辻、加茂町大畑、加茂町岩船、加茂町東小、 加茂町西小、加茂町大門、加茂町法花寺野、加茂町大野、 加茂町観音寺、加茂町高田、加茂町美浪、加茂町里、加茂町駅西、加 茂町駅東
加茂 ニュータウン	南加茂台
山城	山城町綺田、山城町平尾、山城町神童子、山城町上粕、山城町椿井、 山城町北河原

■ライフステージ区分

ヤング	19 歳以下の回答者
ヤングミドル 単身	20～49 歳の単身の回答者
ヤングミドル 子育て・共働き (夫婦とも正規雇用)	20～49 歳の子どもがいる世帯で、共働き（夫婦 とも正規雇用）の回答者
ヤングミドル 子育て・共働き (一方が非正規雇用)	20～49 歳の子どもがいる世帯で、共働き（どち らかが非正規雇用）の回答者
ヤングミドル 子育て・専業主婦等	20～49 歳の子どもがいる世帯で、共働き以外の 回答者
ヤングミドル その他	20～49 歳で、単身以外の子どもがいない世帯の 回答者
シニア 単身	50～64 歳で単身の回答者
シニア ファミリー	50～64 歳で単身以外の回答者
シルバー 単身	65 歳以上で単身の回答者
シルバー ファミリー	65 歳以上で単身以外の回答者

1.3 属性

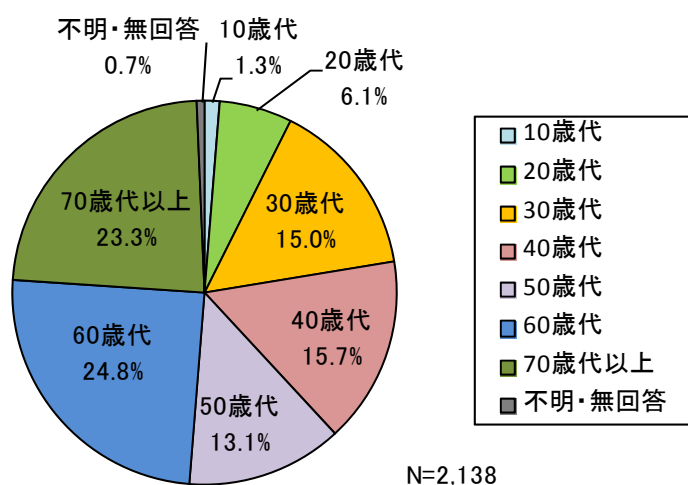
問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○)



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	男性	905	42.3
2	女性	1,218	57.0
	不明・無回答	15	0.7
合 計		2,138	100.0

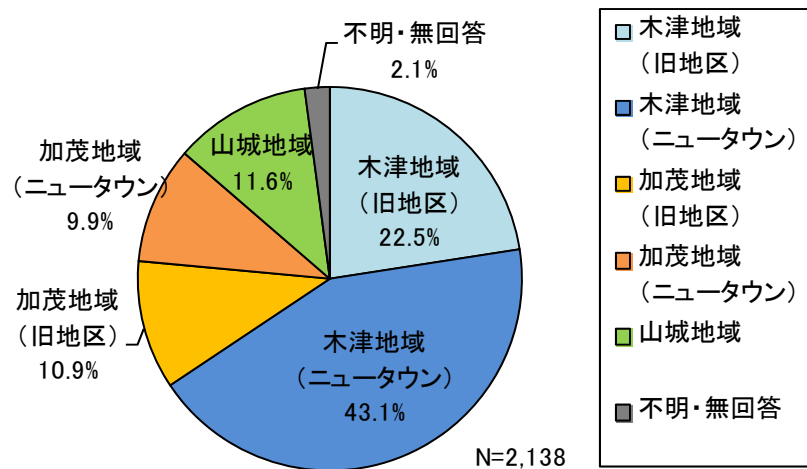
図中の【N=〇〇】とは、その設問における回答の全件数を表します。

問2 あなたの年齢をお答えください。



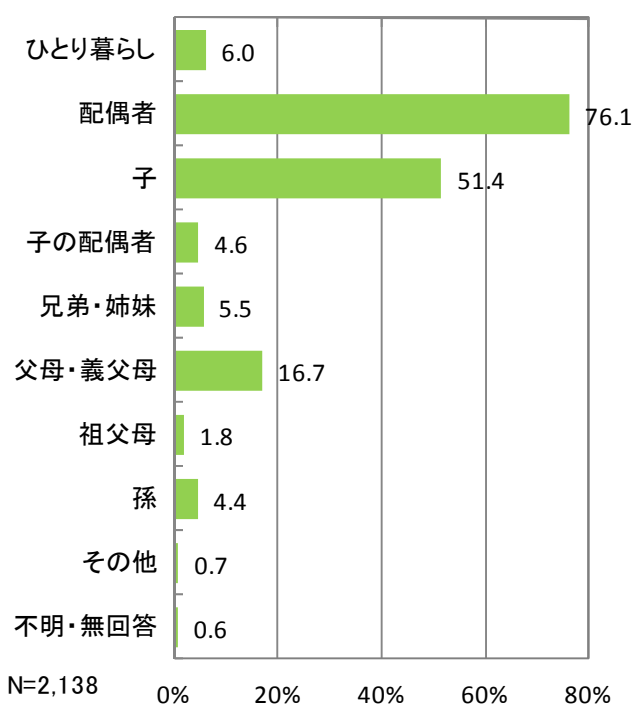
選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	10歳代	27	1.3
2	20歳代	131	6.1
3	30歳代	321	15.0
4	40歳代	336	15.7
5	50歳代	281	13.1
6	60歳代	530	24.8
7	70歳代以上	498	23.3
	不明・無回答	14	0.7
合 計		2,138	100.0

問3 あなたがお住まいの郵便番号（下4桁）をお答えください。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	木津地域(旧地区)	482	22.5
2	木津地域(ニュータウン)	921	43.1
3	加茂地域(旧地区)	232	10.9
4	加茂地域(ニュータウン)	211	9.9
5	山城地域	247	11.6
	不明・無回答	45	2.1
合 計		2138	100

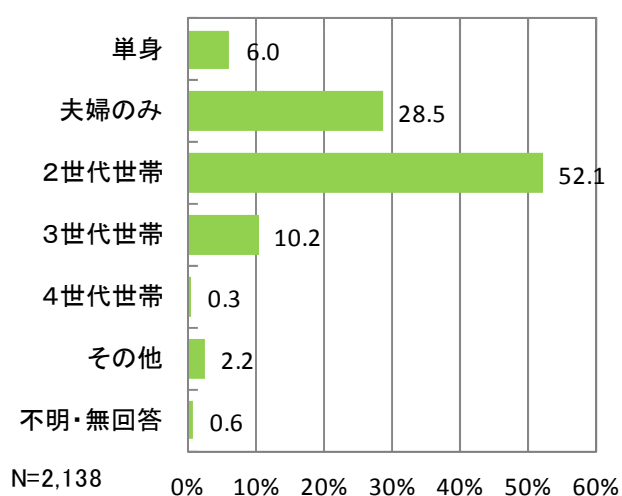
問4 同居されている方をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



選択肢	回答数 (件)	割合 (%)
1 ひとり暮らし	128	6.0
2 配偶者	1,627	76.1
3 子	1,100	51.4
4 子の配偶者	99	4.6
5 兄弟・姉妹	117	5.5
6 父母・義父母	358	16.7
7 祖父母	39	1.8
8 孫	95	4.4
9 その他	16	0.7
不明・無回答	13	0.6
合 計	2,138	100.0

①世帯類型分類

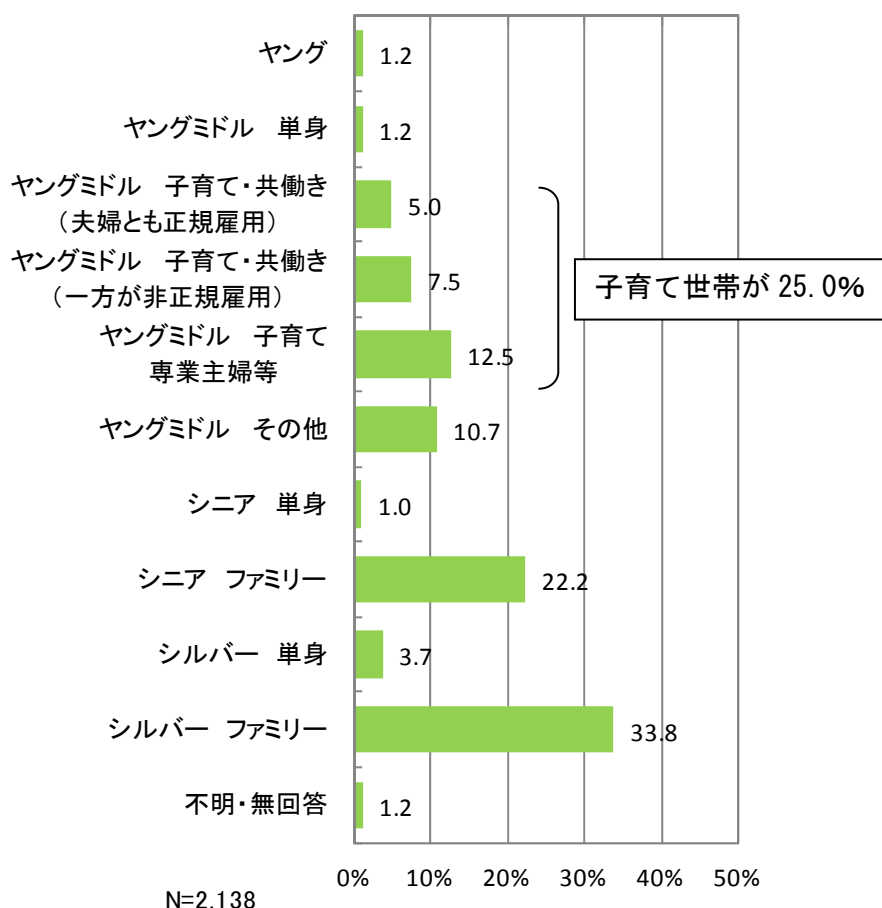
- 同居家族の回答をもとに、世帯類型で分類した。
- 親と子の2世代世帯が52.1%と半数を占めており、夫婦のみの世帯も約3割と多い。多世代世帯は1割と少なく、核家族化傾向にある。



選択肢	回答数 (件)	割合 (%)
1 単身	128	6.0
2 夫婦のみ	610	28.5
3 2世代世帯	1,114	52.1
4 3世代世帯	218	10.2
5 4世代世帯	7	0.3
7 その他	48	2.2
不明・無回答	13	0.6
合 計	2,138	100.0

②ライフステージ分類

- 回答者の生活環境による傾向を明らかとするため、子育て世代に着目して、夫婦の就業状況を考慮し、ライフステージを設定し、分析を行った。
- 回答者の年齢層が高いため、シニア・シルバー層が多くなっているが、ヤングミドル世代に注目すると、子どものいる子育て世帯は25.0%となっており、そのうち、共働き世帯と専業主婦世帯がそれぞれ半々となっている。

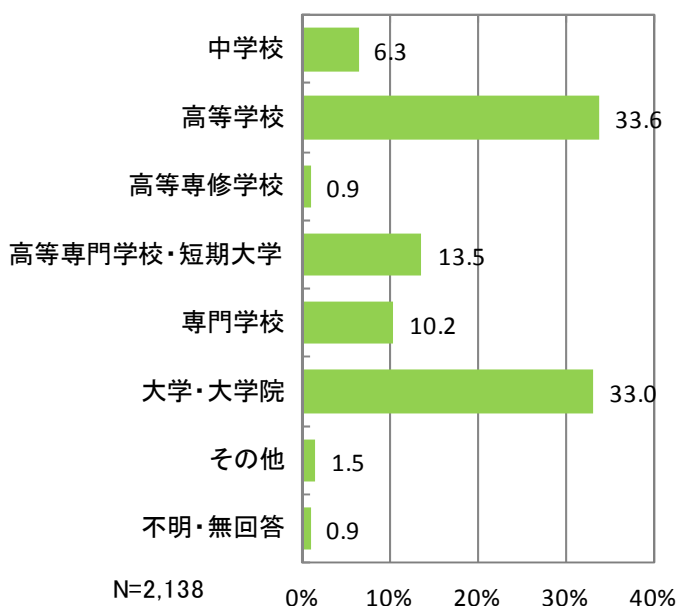


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	ヤング	27	1.2
2	ヤングミドル 単身	25	1.2
3	ヤングミドル 子育て・共働き(夫婦とも正規雇用)	106	5.0
4	ヤングミドル 子育て・共働き(一方が非正規雇用)	160	7.5
5	ヤングミドル 子育て・専業主婦等	268	12.5
6	ヤングミドル その他	229	10.7
7	シニア 単身	22	1.0
8	シニア ファミリー	475	22.2
9	シルバー 単身	80	3.7
10	シルバー ファミリー	722	33.8
	不明・無回答	25	1.2
	合 計	2,138	100.0

問5 あなたが最後に卒業した学校をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※学生の方は、現在通っている学校をお答えください。

- 最終学歴は、「高等学校」が最も多く33.6%、「大学・大学院」(33.0%)が続く。



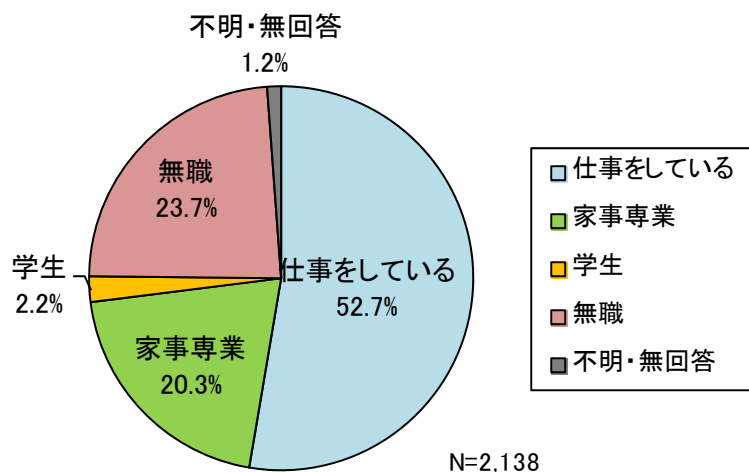
選択肢	回答数 (件)	割合 (%)
1 中学校	135	6.3
2 高等学校	719	33.6
3 高等専修学校	20	0.9
4 高等専門学校・短期大学	289	13.5
5 専門学校	219	10.2
6 大学・大学院	705	33.0
7 その他	32	1.5
不明・無回答	19	0.9
合 計	2,138	100.0

問6 あなたは現在、収入を伴う仕事をしていますか。(あてはまるもの1つに○)

※現在、産休・育休・病休の方は「1. 仕事をしている」を選んでください。

※学生アルバイトは除きます。

- 仕事をしているが52.7%と半数以上。

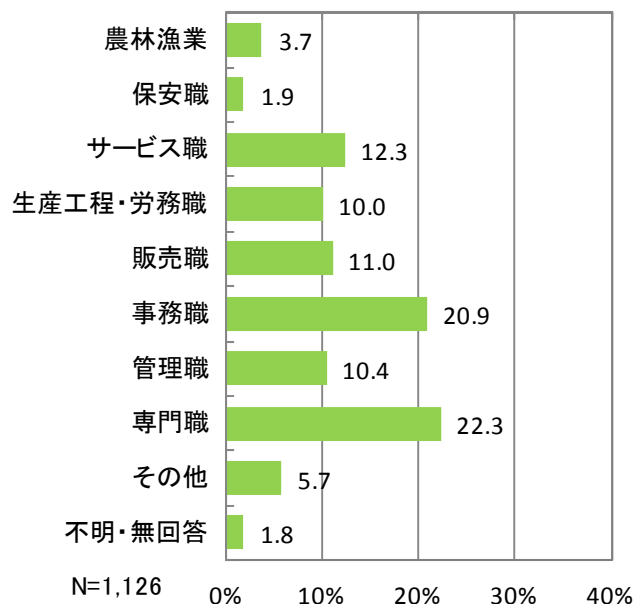


選択肢	回答数 (件)	割合 (%)
1 仕事をしている	1,126	52.7
2 家事専業	435	20.3
3 学生	46	2.2
4 無職	506	23.7
不明・無回答	25	1.2
合 計	2,138	100.0

問7 あなたの現在の仕事内容をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※問6で仕事をしていると回答した人のみ

- 「専門職」が22.3%と最も多く、「事務職」(20.9%)と続く。

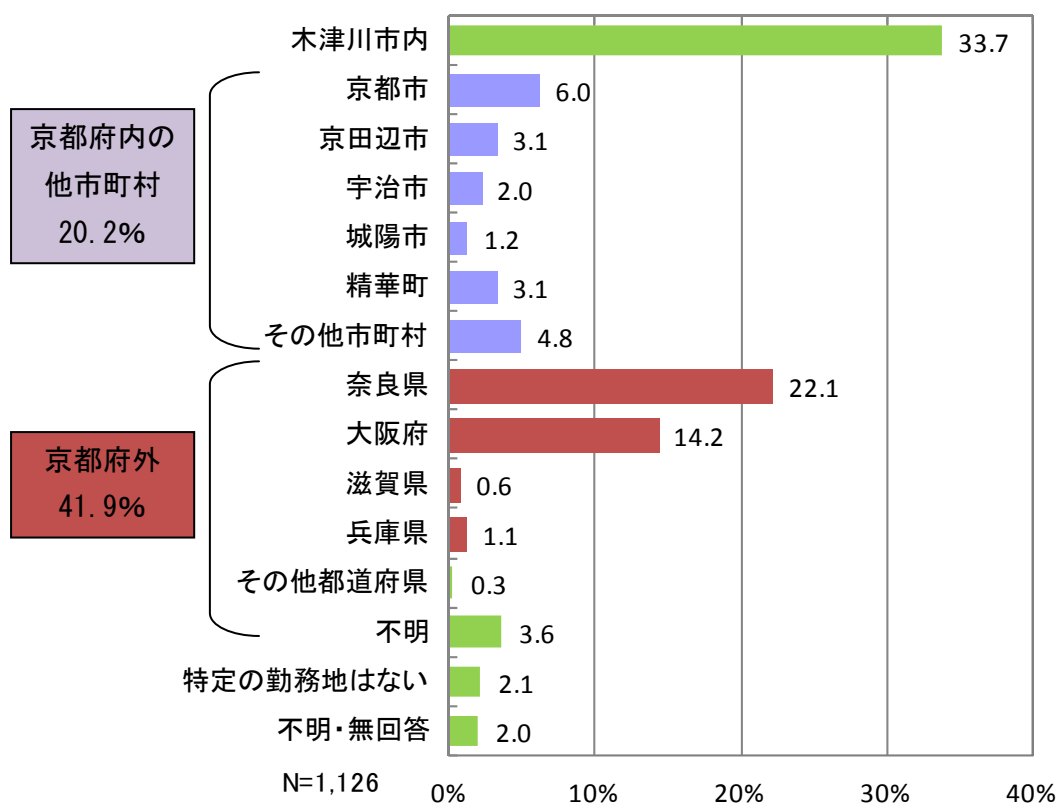


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	農林漁業	42	3.7
2	保安職	21	1.9
3	サービス職	139	12.3
4	生産工程・労務職	113	10.0
5	販売職	124	11.0
6	事務職	235	20.9
7	管理職	117	10.4
8	専門職	251	22.3
9	その他	64	5.7
	不明・無回答	20	1.8
合 計		1,126	100.0

問8 あなたの勤務地をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※問6で仕事をしていると回答した人のみ

- 「木津川市内」は33.7%で、京都府内の他町村が20.2%、京都府外が41.9%で市外が6割を超えている。隣接する「奈良県」(22.1%)や「大阪府」(14.2%)が多い。

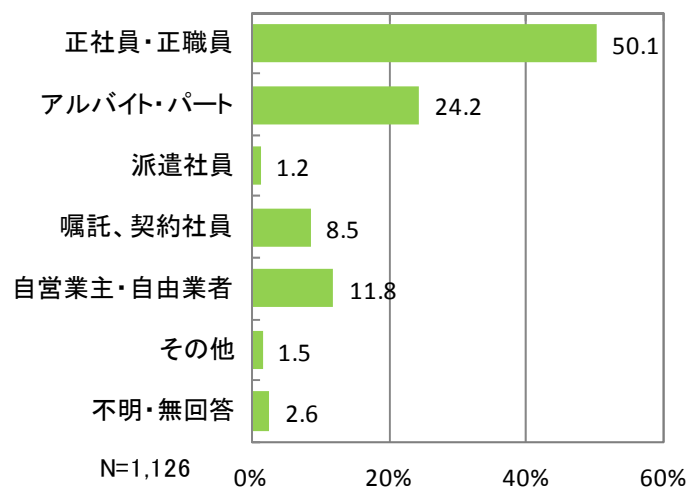


	選択肢	回答数(件)	割合 (%)
1	木津川市内	380	33.7
2	京都府内の他市町村	228	20.2
	京都市	68	6.0
	京田辺市	35	3.1
	宇治市	23	2.0
	城陽市	13	1.2
	精華町	35	3.1
	その他市町村	54	4.8
3	京都府外	472	41.9
	奈良県	249	22.1
	大阪府	160	14.2
	滋賀県	7	0.6
	兵庫県	12	1.1
	その他都道府県	3	0.3
	不明	40	3.6
4	特定の勤務地はない	24	2.1
	不明・無回答	22	2.0

問9 あなたの就業形態をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※問6で仕事をしていると回答した人のみ

- 「正社員・正職員」が最も多く5割を占めている。

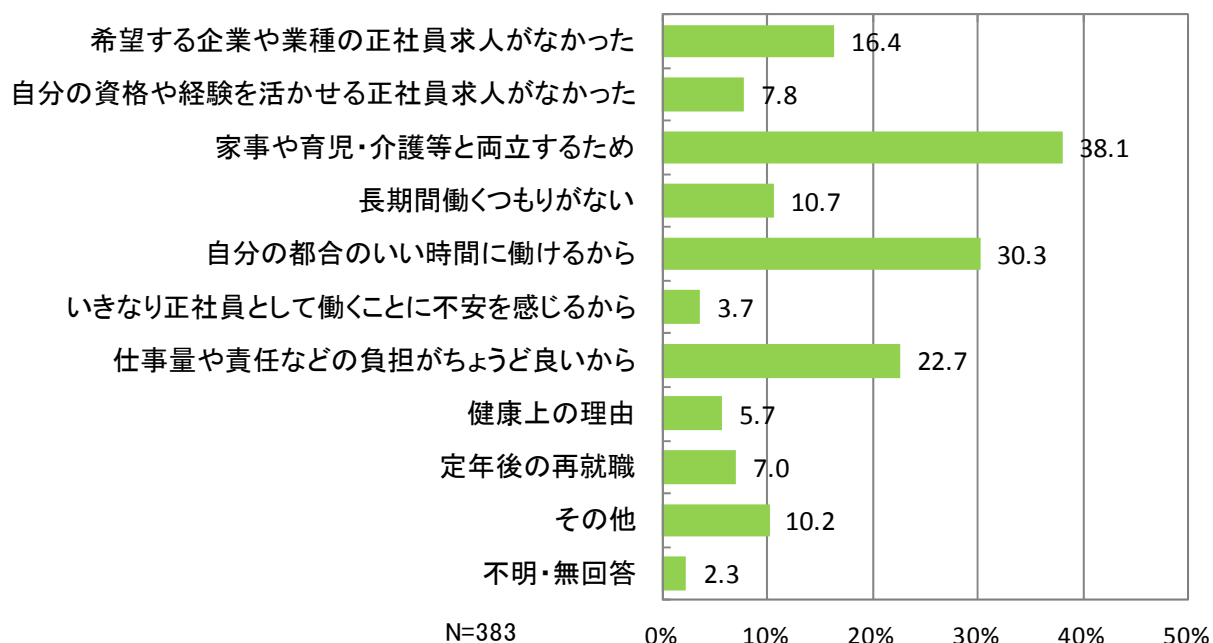


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	正社員・正職員	564	50.1
2	アルバイト・パート	273	24.2
3	派遣社員	14	1.2
4	嘱託、契約社員	96	8.5
5	自営業主・自由業者	133	11.8
6	その他	17	1.5
	不明・無回答	29	2.6
	合 計	1,126	100.0

副問 9-1 正社員として就業しなかった理由は何ですか。（あてはまるもの3つまでに○）

※問 9 でアルバイト・パート、派遣社員、嘱託・契約社員と回答した人のみ

- 「家事や育児・介護等と両立するため」が38.1%と最も多く、次いで「自分の都合のいい時間に働けるから」が30.3%となっている。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	希望する企業や業種の正社員求人がなかった	63	16.4
2	自分の資格や経験を活かせる正社員求人がなかった	30	7.8
3	家事や育児・介護等と両立するため	146	38.1
4	長期間働くつもりがない	41	10.7
5	自分の都合のいい時間に働けるから	116	30.3
6	いきなり正社員として働くことに不安を感じるから	14	3.7
7	仕事量や責任などの負担がちょうど良いから	87	22.7
8	健康上の理由	22	5.7
9	定年後の再就職	27	7.0
10	その他	39	10.2
	不明・無回答	9	2.3
合 計		383	100.0

その他の意見としては、

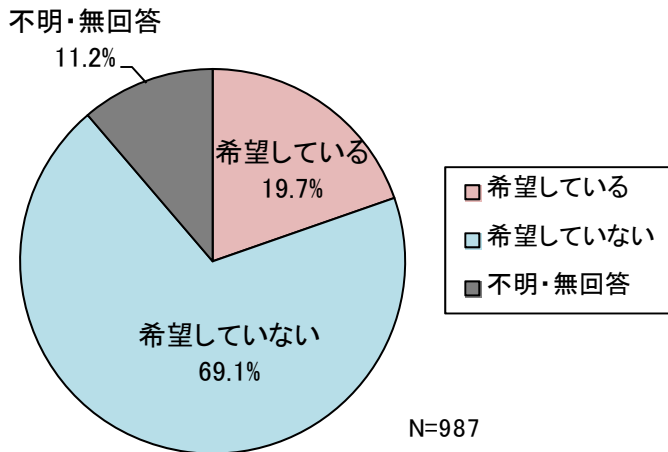
「年齢による」が（15 件）と多くなっている

1.4 就職

問 10 あなたは就職を希望していますか。(あてはまるもの1つに○)

※問 6 で仕事をしていないと回答した人のみ

- 「希望している」が 19.7%で、7 割近くが「希望していない」と回答。

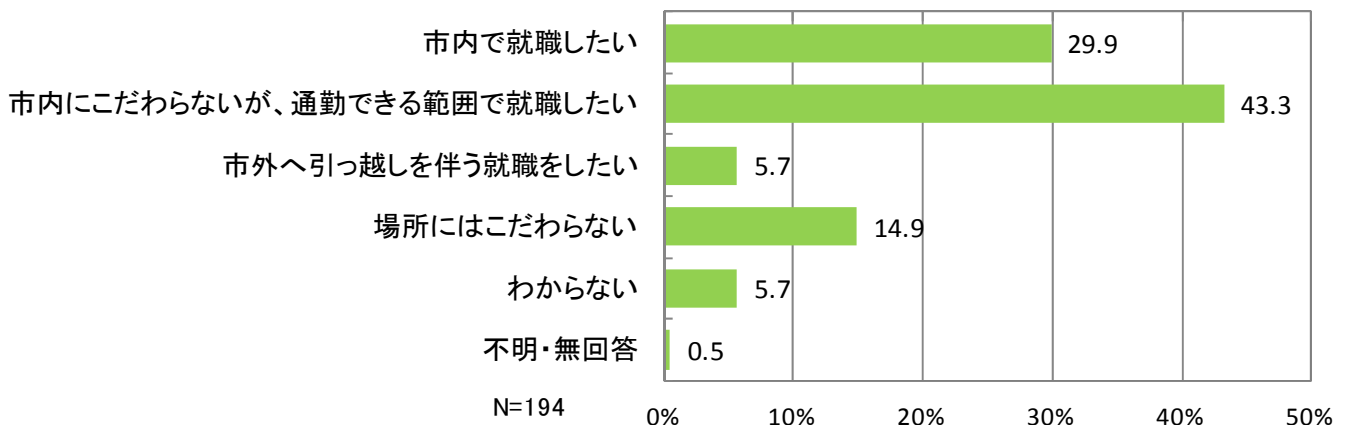


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	希望している	194	19.7
2	希望していない	682	69.1
	不明・無回答	111	11.2
合 計		987	100.0

問 11 あなたは、木津川市内で就職したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

※問 10 で就職を希望していると回答した人のみ

- 「市内にこだわらないが、通勤できる範囲で就職したい」が 43.3%、「市内で就職したい」が 29.9%。

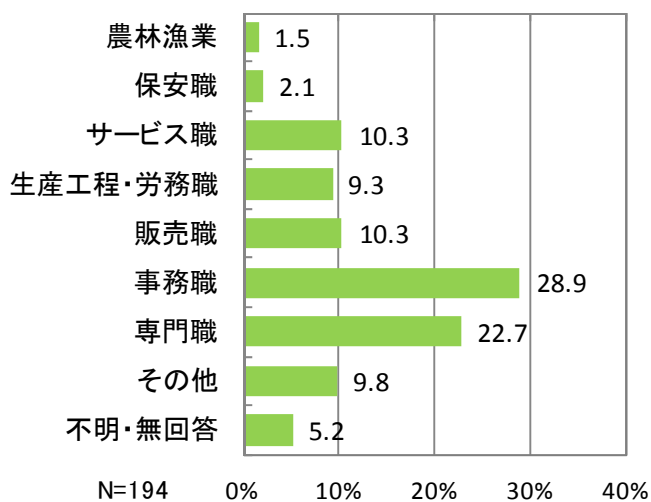


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	木津川市内で就職したい	58	29.9
2	木津川市内にこだわらないが、市内から通勤できる範囲で就職したい	84	43.3
3	木津川市外へ引っ越しを伴う就職をしたい	11	5.7
4	場所にはこだわらない	29	14.9
5	わからない	11	5.7
	不明・無回答	1	0.5
合 計		194	100.0

問 12 あなたが、最も希望する仕事内容をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※問 10 で就職を希望していると回答した人のみ

- 「事務職」が28.9%で「専門職」が22.7%と続く。

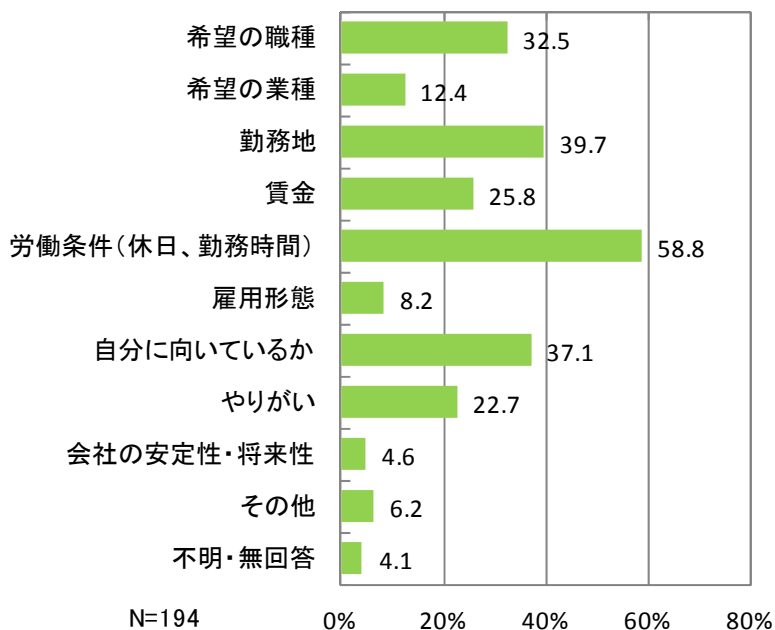


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	農林漁業	3	1.5
2	保安職	4	2.1
3	サービス職	20	10.3
4	生産工程・労務職	18	9.3
5	販売職	20	10.3
6	事務職	56	28.9
7	専門職	44	22.7
8	その他	19	9.8
	不明・無回答	10	5.2
合 計		194	100.0

問 13 あなたが就職を考える際に重視する点をお答えください。(あてはまるもの3つまでに○)

※問 10 で就職を希望していると回答した人のみ

- 「労働条件(休日、勤務時間)」が 58.8%と多く、「勤務地」(39.7%)、「自分に向いているか」(37.1%)と続く。

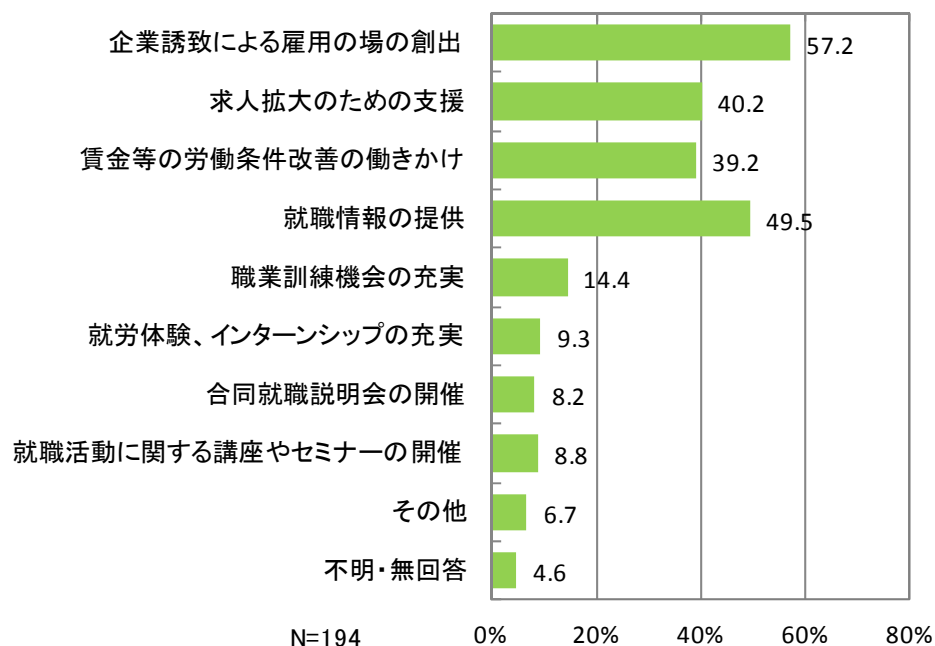


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	希望の職種	63	32.5
2	希望の業種	24	12.4
3	勤務地	77	39.7
4	賃金	50	25.8
5	労働条件(休日、勤務時間)	114	58.8
6	雇用形態	16	8.2
7	自分に向いているか	72	37.1
8	やりがい	44	22.7
9	会社の安定性・将来性	9	4.6
10	その他	12	6.2
	不明・無回答	8	4.1
合 計		194	100.0

問 14 木津川市内での就職を増やすために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

※問 10 で就職を希望していると回答した人のみ

- 「企業誘致による雇用の創出」が57.2%と多く、「就職情報の提供」（49.5%）と続く。

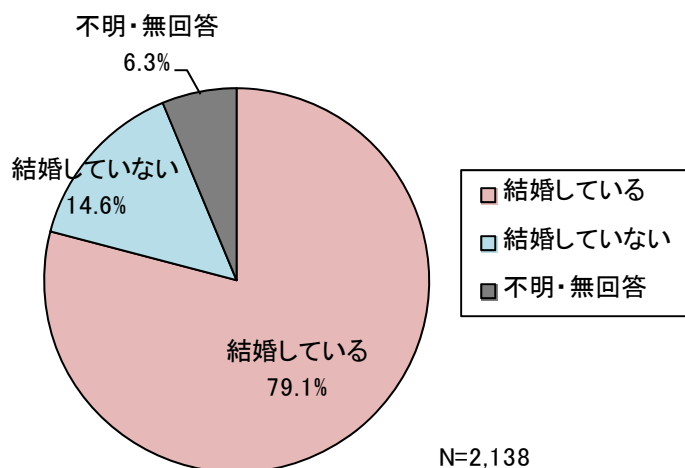


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	企業誘致による雇用の場の創出	111	57.2
2	求人拡大のための支援	78	40.2
3	賃金等の労働条件改善の働きかけ	76	39.2
4	就職情報の提供	96	49.5
5	職業訓練機会の充実	28	14.4
6	就労体験、インターンシップの充実	18	9.3
7	合同就職説明会の開催	16	8.2
8	就職活動に関する講座やセミナーの開催	17	8.8
9	その他	13	6.7
	不明・無回答	9	4.6
合 計		194	100.0

1.5 結婚

問 15 あなたは、現在結婚していますか。（あてはまるもの1つに○）

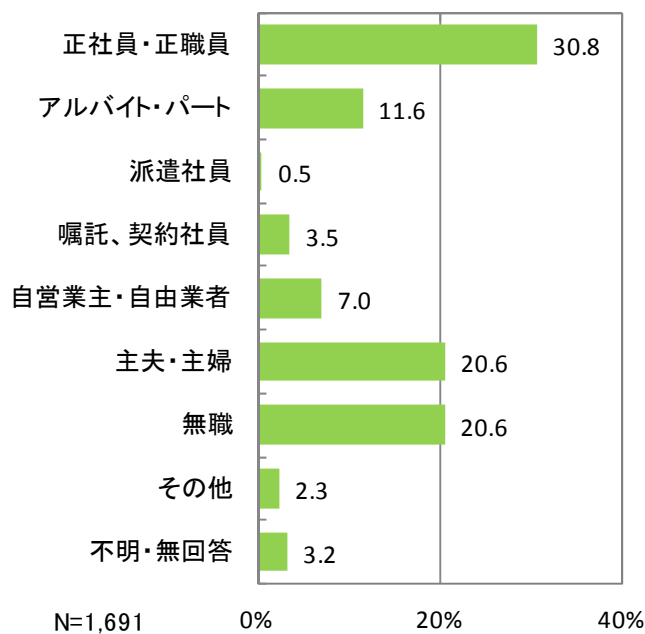
- 既婚が79.1%となっている。



副問 15-1 あなたの配偶者の就業形態をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

※問 15 で結婚していると回答した人のみ

- 「正社員・正職員」が30.8%、回答者の年齢層が高いため無職も多い。

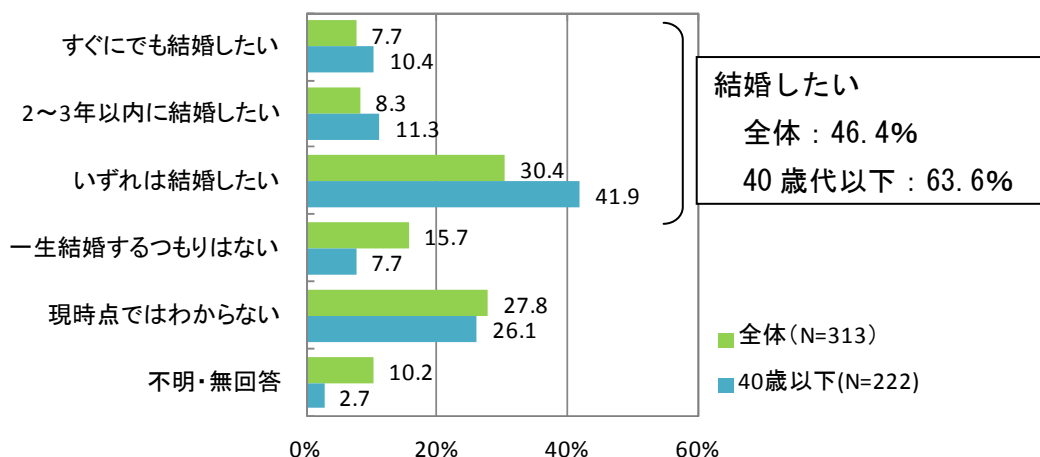


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	正社員・正職員	520	30.8
2	アルバイト・パート	196	11.6
3	派遣社員	8	0.5
4	嘱託、契約社員	59	3.5
5	自営業主・自由業者	118	7.0
6	主夫・主婦	349	20.6
7	無職	348	20.6
8	その他	39	2.3
	不明・無回答	54	3.2
合 計		1,691	100.0

問 16 あなたは、将来結婚したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

※問 15 で結婚していないと回答した人のみ

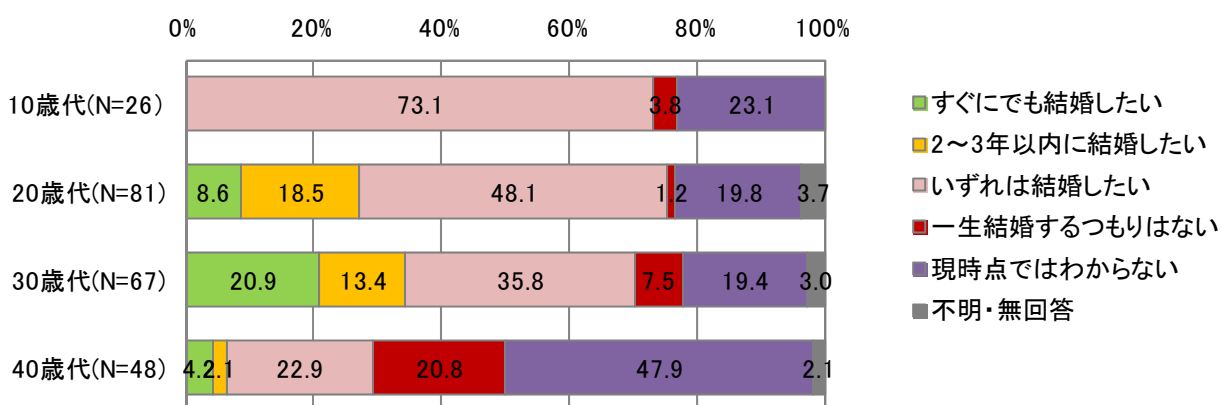
- 「いずれは結婚したい」が30.4%で、46.4%が結婚を希望している。
- 40歳代以下では、「一生結婚するつもりはない」は7.7%と少なく、63.6%が結婚を希望している。



選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 すぐにでも結婚したい	24	7.7	23	10.4
2 2～3年以内に結婚したい	26	8.3	25	11.3
3 いずれは結婚したい	95	30.4	93	41.9
4 一生結婚するつもりはない	49	15.7	17	7.7
5 現時点ではわからない	87	27.8	58	26.1
不明・無回答	32	10.2	6	2.7
合 計	313	100.0	222	100.0

40歳以下のみ集計

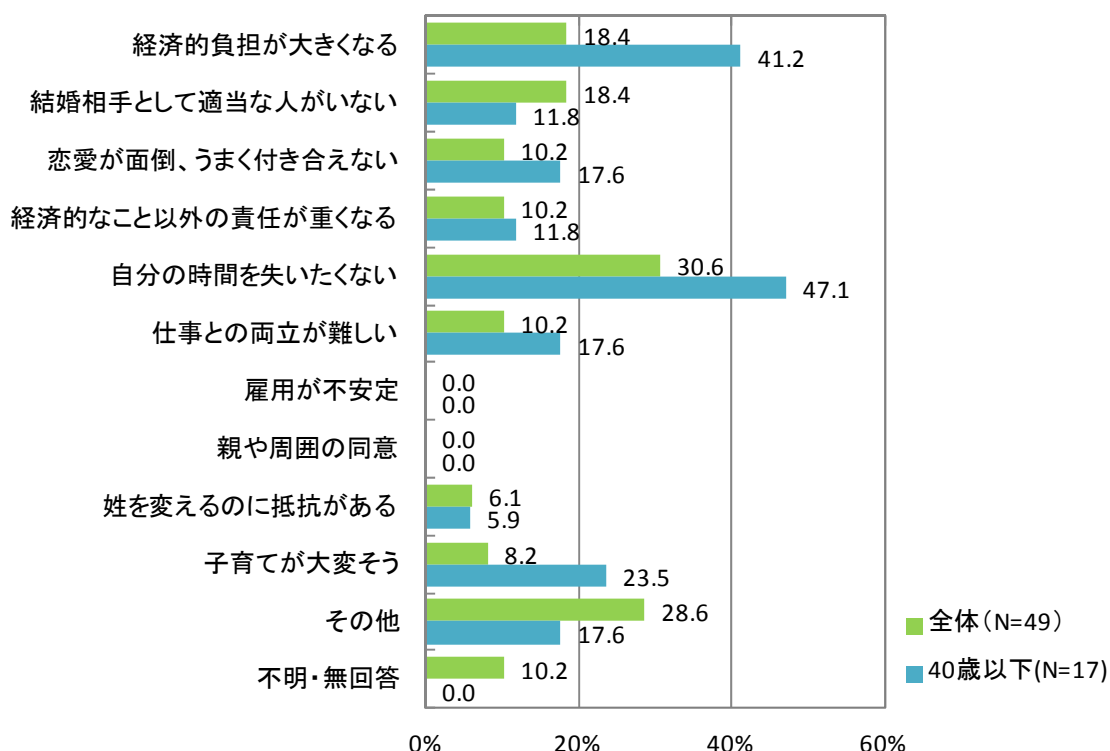
<年代別>



副問 16-1 あなたが、一生結婚するつもりがない理由をお答えください。（あてはまるもの3つまでに○）

※問 16 で一生結婚するつもりはないと回答した人のみ

- 「自分の時間を失いたくない」が30.6%。
- 40歳代以下では、「自分の時間を失いたくない」が47.1%、「経済的負担が大きくなる」が41.2%と高い。



選択肢		全体		40歳代以下	
		回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1	経済的負担が大きくなる	9	18.4	7	41.2
2	結婚相手として適当な人がいない	9	18.4	2	11.8
3	恋愛が面倒、うまく付き合えない	5	10.2	3	17.6
4	経済的なこと以外の責任が重くなる	5	10.2	2	11.8
5	自分の時間を失いたくない	15	30.6	8	47.1
6	仕事との両立が難しい	5	10.2	3	17.6
7	雇用が不安定	0	0.0	0	0.0
8	親や周囲の同意	0	0.0	0	0.0
9	姓を変えるのに抵抗がある	3	6.1	1	5.9
10	子育てが大変そう	4	8.2	4	23.5
11	その他	14	28.6	3	17.6
	不明・無回答	5	10.2	0	0.0
合 計		49	100.0	17	100.0

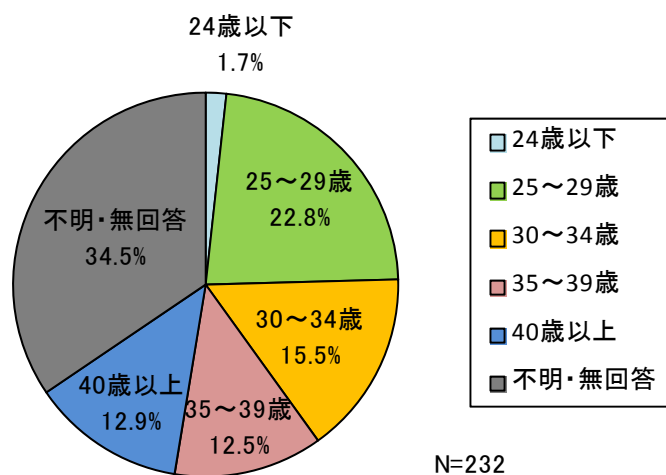
その他の意見としては、

「高齢による」が（7件）と多くなっている

問 17 あなたは、何歳くらいで結婚したいと思いますか。

※問 16 で結婚したい、現時点では分からないと回答した人のみ

- 平均年齢は 33.4 歳で、10～40 歳代の平均は 32.6 歳となっている。



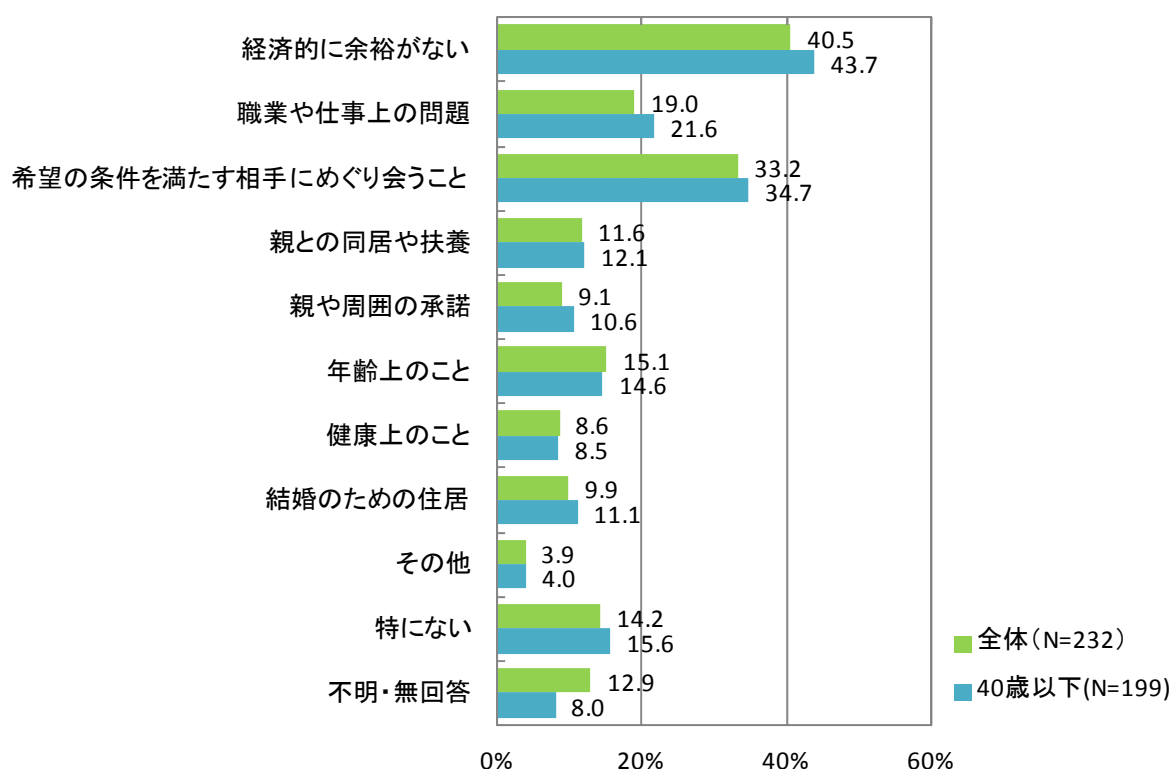
選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	24歳以下	4	1.7
2	25～29歳	53	22.8
3	30～34歳	36	15.5
4	35～39歳	29	12.5
5	40歳以上	30	12.9
	不明・無回答	80	34.5
合 計		232	100.0

選択肢		平均年齢 (歳)
1	10歳代	26.2
2	20歳代	28.7
3	30歳代	36.9
4	40歳代	47.4
	10～40歳代平均	32.6
	全世代計	33.4

問 18 結婚をする際に障害となると思われることをお答えください。(あてはまるもの3つまでに○)

※問 16 で結婚したい、現時点では分からないと回答した人のみ

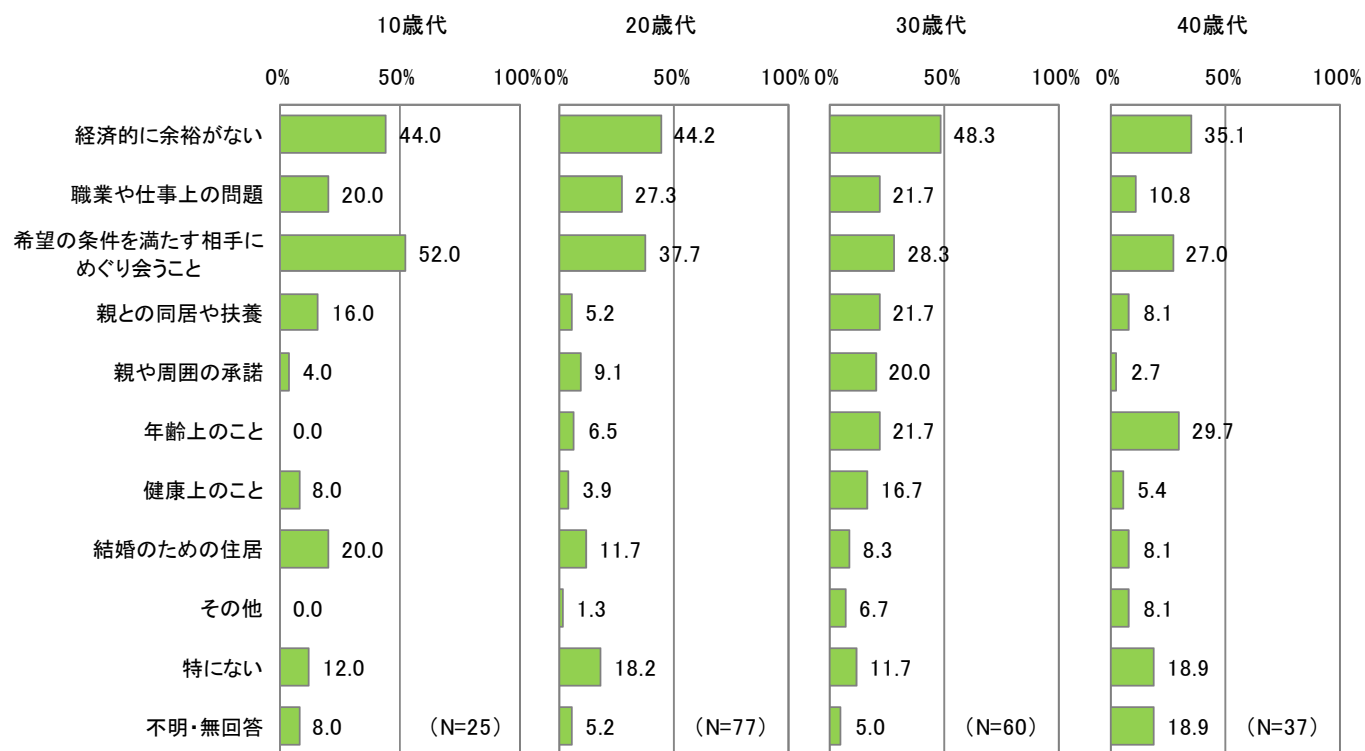
- 全体、40 歳代以下とも同様の傾向で、「経済的に余裕がない」が最も多く、次いで「希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと」、「職業や仕事上の問題」の順となっており、仕事や職業、収入が結婚の障害になっているケースが少なくないことが伺える。
- 年代別にみると、全ての世代で「経済的に余裕がない」が最も多いが、30 歳代では「経済的に余裕がない」が半数近くとなっている。



選 択 肢		全 体		40歳代以下	
		回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1	経済的に余裕がない	94	40.5	87	43.7
2	職業や仕事上の問題	44	19.0	43	21.6
3	希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと	77	33.2	69	34.7
4	親との同居や扶養	27	11.6	24	12.1
5	親や周囲の承諾	21	9.1	21	10.6
6	年齢上的こと	35	15.1	29	14.6
7	健康上的こと	20	8.6	17	8.5
8	結婚のための住居	23	9.9	22	11.1
9	その他	9	3.9	8	4.0
10	特にない	33	14.2	31	15.6
	不明・無回答	30	12.9	16	8.0
合 計		232	100.0	199	100.0

40 歳以下のみ集計

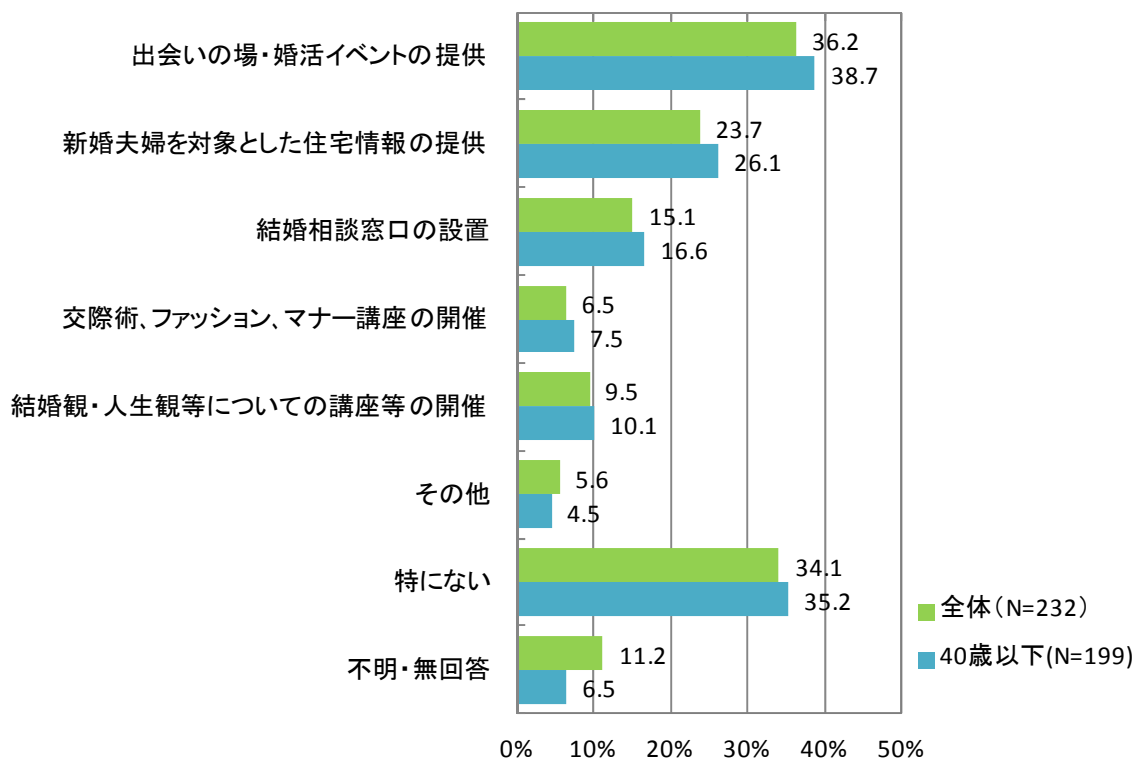
<年代別>



問 19 結婚を促進するために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

※問 16 で結婚したい、現時点では分からないと回答した人のみ

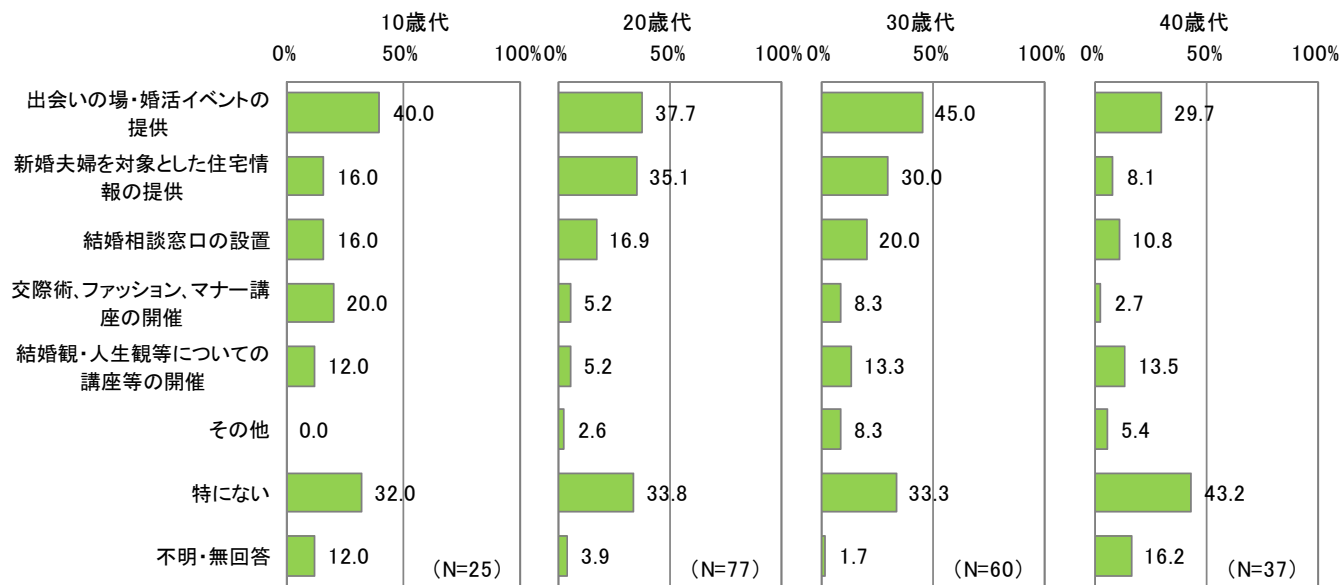
- 全体、40 歳代以下とも同様の傾向で、「出会いの場・婚活イベントの提供」が最も多いが、「特にない」も3割を占める。



選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 出会いの場・婚活イベントの提供	84	36.2	77	38.7
2 新婚夫婦を対象とした住宅情報の提供	55	23.7	52	26.1
3 結婚相談窓口の設置	35	15.1	33	16.6
4 交際術、ファッション、マナー講座の開催	15	6.5	15	7.5
5 結婚観・人生観等についての講座等の開催	22	9.5	20	10.1
6 その他	13	5.6	9	4.5
7 特にない	79	34.1	70	35.2
不明・無回答	26	11.2	13	6.5
合 計	232	100.0	199	100.0

40 歳以下のみ集計

<年代別>

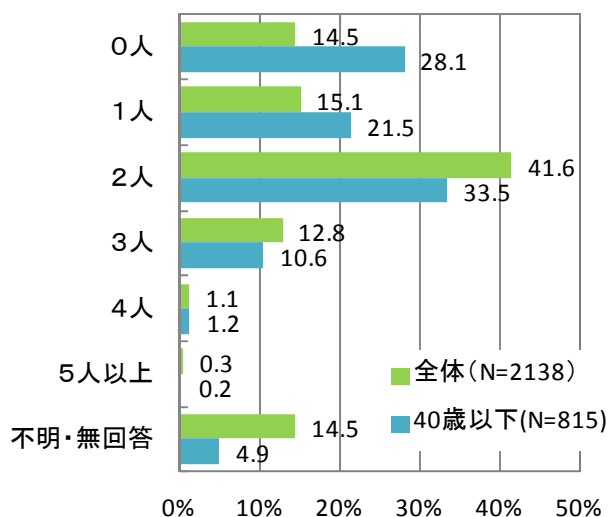


1.6 出産・子育てについて

問 20 あなたには、現在何人のお子さんがいますか。

※お子さんがいない方は、「0」とお答えください。

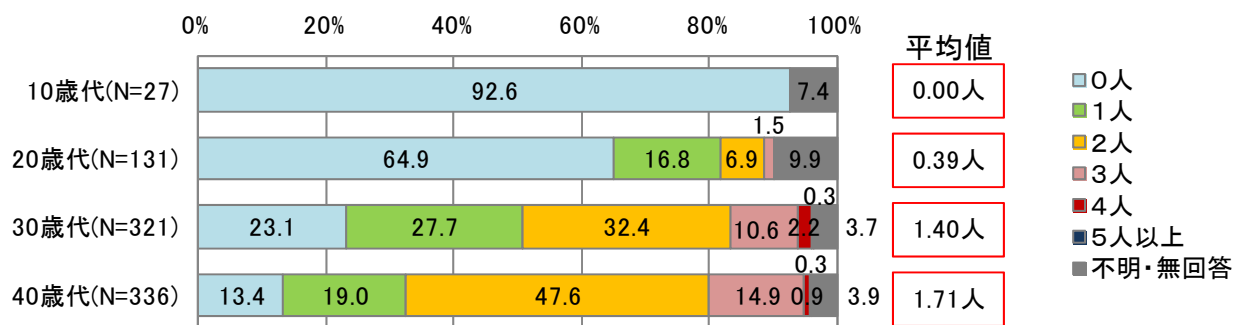
- 回答者全体の平均的な子どもの数は 1.67 人であるが、40 歳代以下では 1.33 人となっている。
- ライフスタイル別では、ヤングミドル 子育て・共働き世帯（女性非正規雇用）で 2.06 人と一番多くなっている。



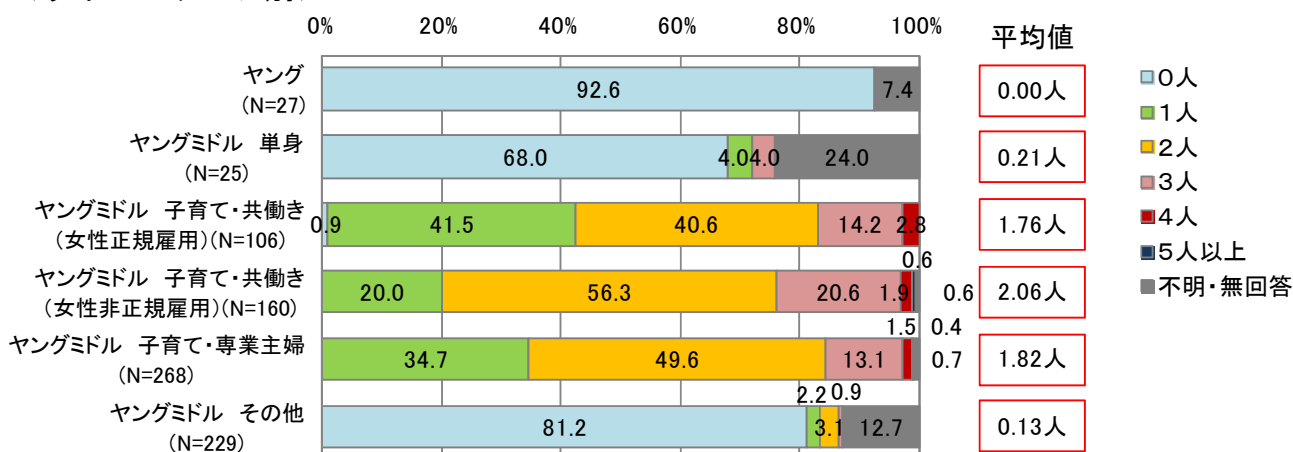
選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答 数 (件)	割合 (%)
1 0人	311	14.5	229	28.1
2 1人	323	15.1	175	21.5
3 2人	889	41.6	273	33.5
4 3人	274	12.8	86	10.6
5 4人	24	1.1	10	1.2
6 5人以上	7	0.3	2	0.2
不明・無回答	310	14.5	40	4.9
合 計	2,138	100.0	815	100.0
平均人数	1.67人		1.33人	

40 歳以下のみ集計

<年代別>



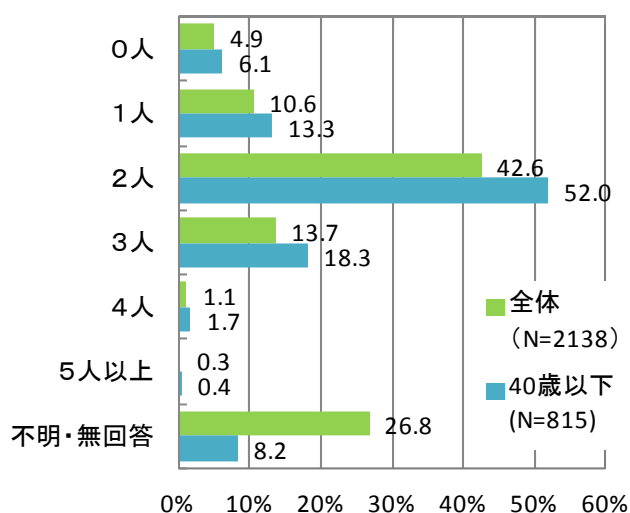
<ライフステージ別>



問 21 あなたは、最終的に何人のお子さんを持つ予定ですか。現在いるお子さんも含めた数をお答えください。

※子どもを持つつもりがない方は、「0」とお答えください。

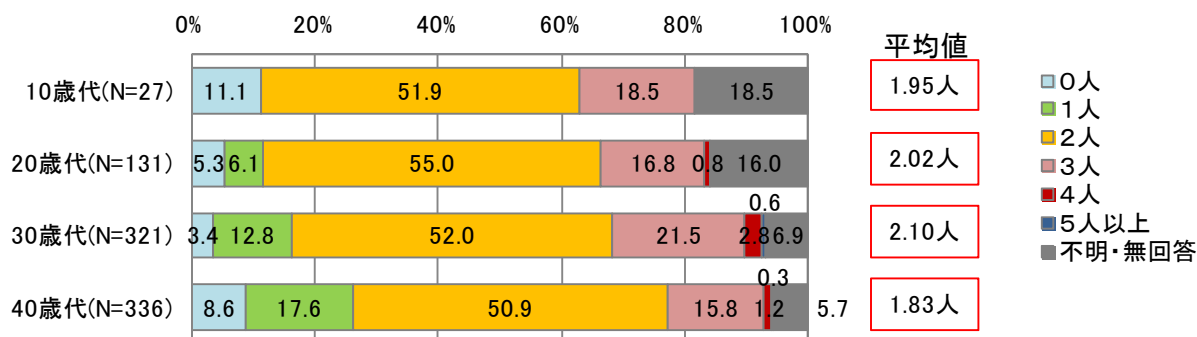
- 全体では 1.95 人であるが、40 歳代以下では 1.97 人と全体を少し上回っている。
- ライフスタイル別では、ヤングミドル・子育て・共働き（女性非正規雇用）世帯で 2.18 人と一番多くなっている。



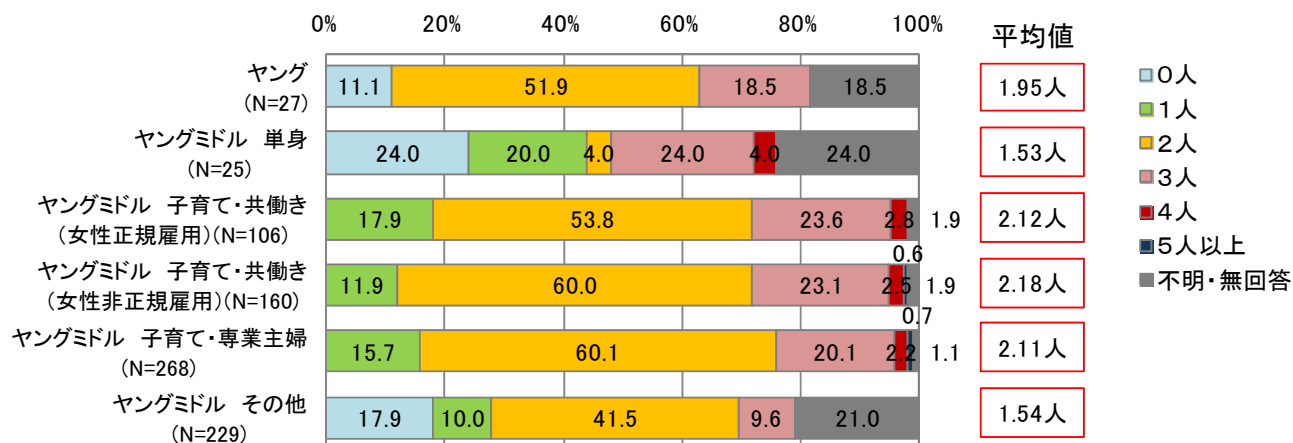
選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 0人	105	4.9	50	6.1
2 1人	227	10.6	108	13.3
3 2人	910	42.6	424	52.0
4 3人	293	13.7	149	18.3
5 4人	24	1.1	14	1.7
6 5人以上	6	0.3	3	0.4
不明・無回答	573	26.8	67	8.2
合 計	2,138	100.0	815	100.0
平均人数	1.95人		1.97人	

40 歳以下のみ集計

<年代別>

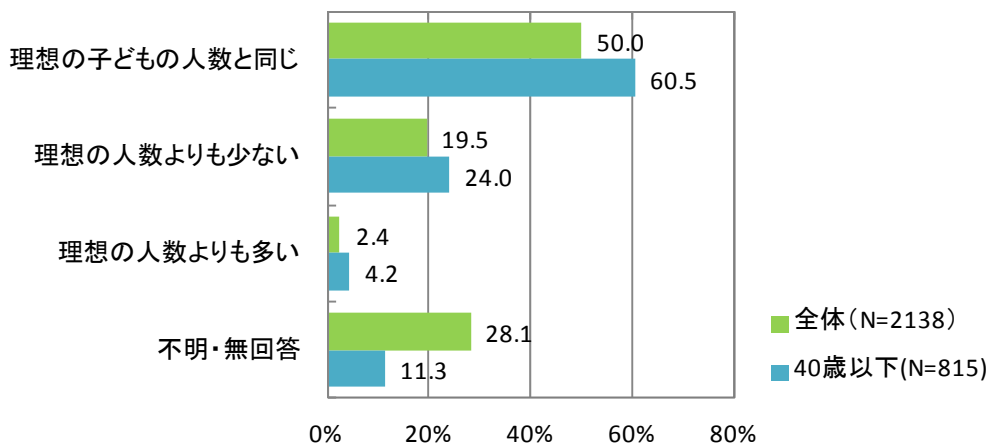


<ライフステージ別>



問 22 問 21 でお答えになったお子さんの数は、理想の数ですか。

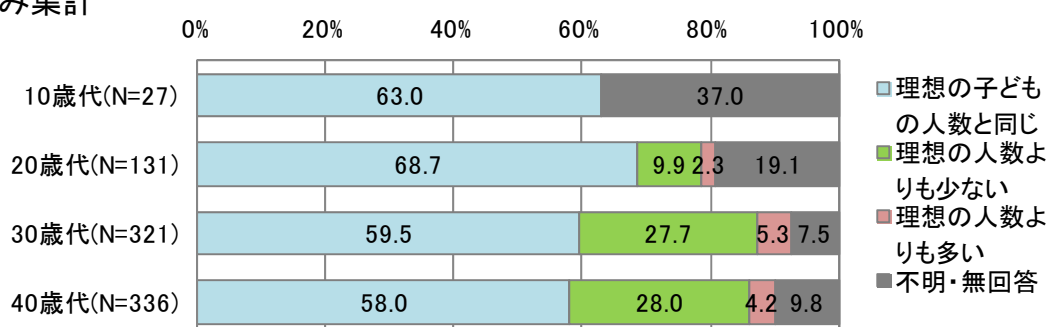
- 「理想の子どもの人数と同じ」が50.0%と半数。
- ライフスタイル別では、ヤングミドル・子育て・共働き（女性非正規雇用）世帯で理想の人数よりも少ないとの回答が多くなっている。



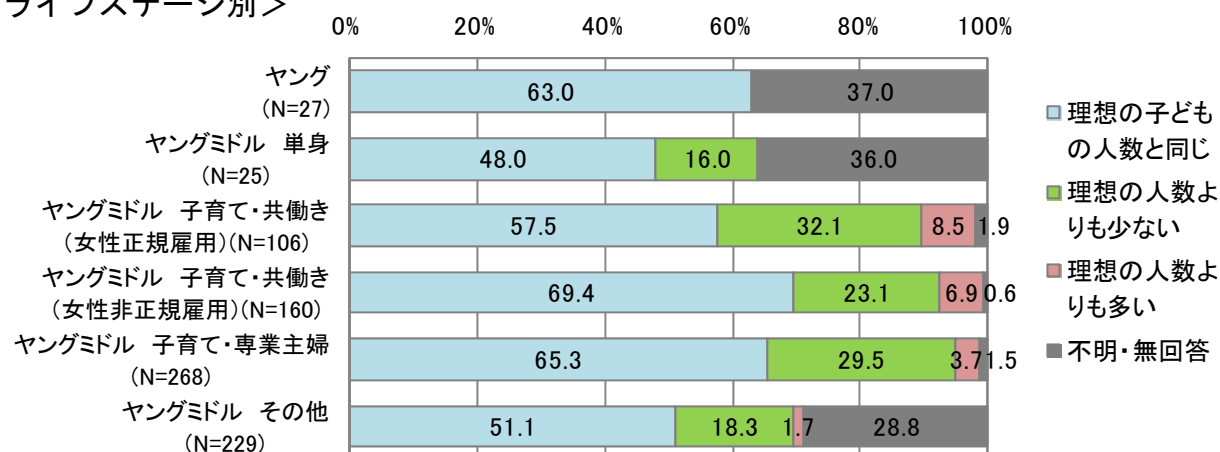
選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 理想の子どもの人数と同じ	1,069	50.0	493	60.5
2 理想の人数よりも少ない	416	19.5	196	24.0
3 理想の人数よりも多い	52	2.4	34	4.2
不明・無回答	601	28.1	92	11.3
合 計	2,138	100.0	815	100.0

40 歳以下のみ集計

<年代別>

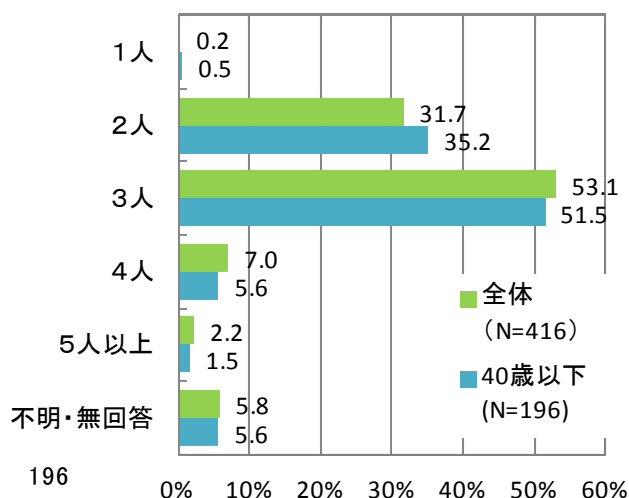


<ライフステージ別>



副問 22-1 あなたが考える理想なお子さんの数をお答えください。

※問 22 で最終的に持つ子どもの数が理想の人数よりも少ないと回答した人のみ



選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 1人	1	0.2	1	0.5
2 2人	132	31.7	69	35.2
3 3人	221	53.1	101	51.5
4 4人	29	7.0	11	5.6
5 5人以上	9	2.2	3	1.5
不明・無回答	24	5.8	11	5.6
合 計	416	100.0	196	100.0

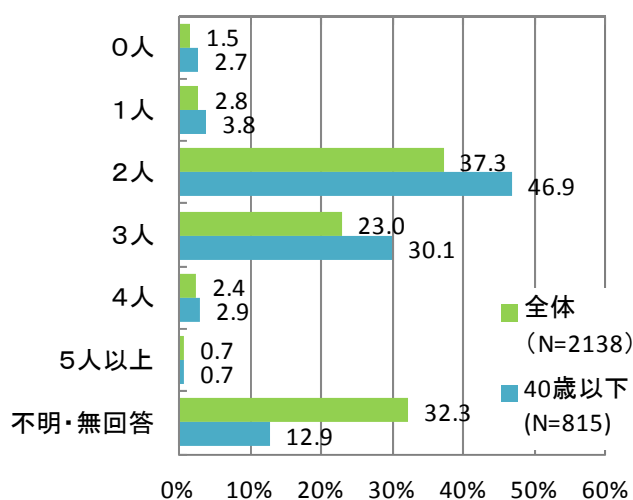
①回答者全体の理想の子どもの数

上記の副問 22-1 は、最終的に持つ予定の子どもの数が理想よりも少ない人の回答である。よって、回答者全体の理想の子どもの数を以下のように集計した。

最終的に持つ予定の子どもの数が

- ・理想の数よりも少ない場合は、理想の子ども人数を集計
- ・それ以外は、最終的に持つ予定の子どもの数を集計

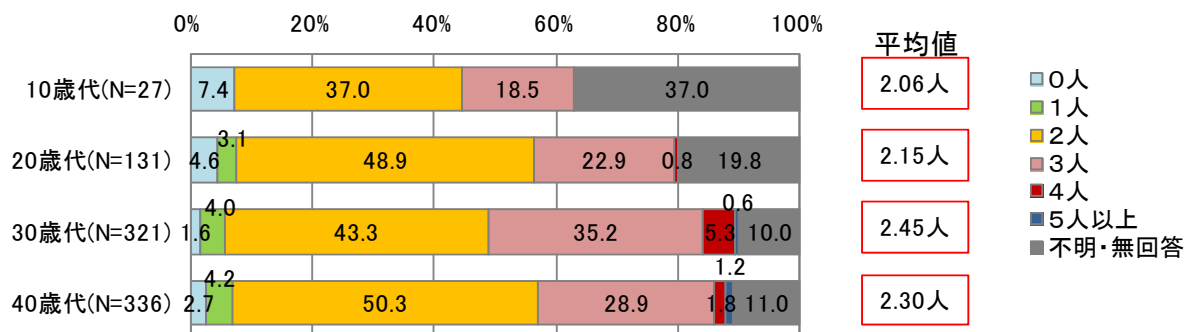
- 理想の子どもの数は 2.36 人で、40 歳代以下では 2.33 人となっている。
- ライフスタイル別では、ヤングミドル単身世帯やその他の世代で高くなっている。



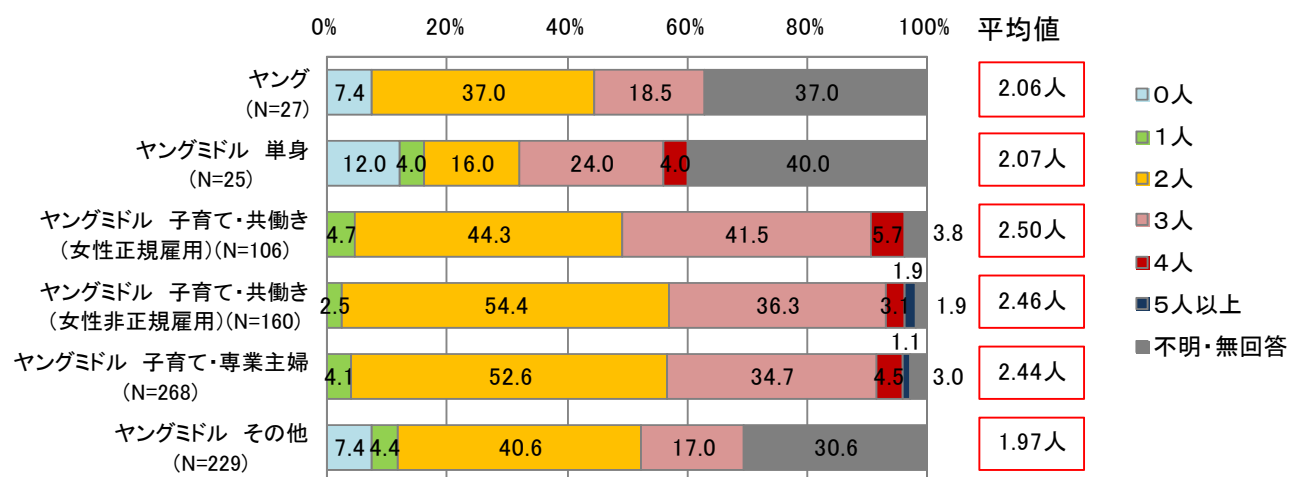
選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 0人	33	1.5	22	2.7
2 1人	59	2.8	31	3.8
3 2人	797	37.3	382	46.9
4 3人	492	23.0	245	30.1
5 4人	51	2.4	24	2.9
6 5人以上	15	0.7	6	0.7
不明・無回答	691	32.3	105	12.9
合 計	2,138	100.0	815	100.0
平均人数	2.36人		2.33人	

40 歳以下のみ集計

<年代別>



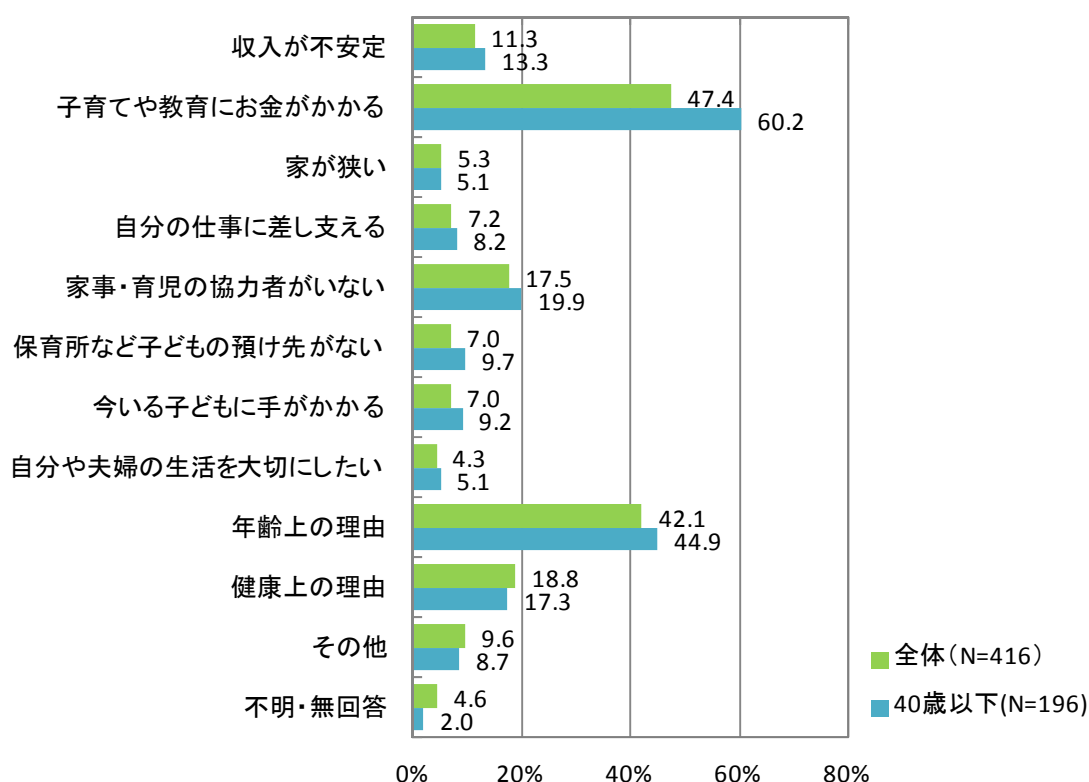
<ライフステージ別>



副問 22-2 実際に予定するお子さんの数（問 21）が、理想的なお子さんの数（副問 22-1）よりも少ない原因として近いものをお答えください。（あてはまるもの 3 つまでに○）

※問 22 で最終的に持つ子どもの数が理想の人数よりも少ないと回答した人のみ

- 「子育てや教育にお金がかかる」が最も多く、「年齢上の理由」が続く。20～30 代では、大多数が「子育てや教育にお金がかかる」と回答し、40 歳代では「年齢上の理由」が半数を超えている。若い世代で、子育てに対する経済的負担が大きいと考えている人が多いことが伺える。



選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 収入が不安定	47	11.3	26	13.3
2 子育てや教育にお金がかかる	197	47.4	118	60.2
3 家が狭い	22	5.3	10	5.1
4 自分の仕事に差し支える	30	7.2	16	8.2
5 家事・育児の協力者がいない	73	17.5	39	19.9
6 保育所など子どもの預け先がない	29	7.0	19	9.7
7 今いる子どもに手がかかる	29	7.0	18	9.2
8 自分や夫婦の生活を大切にしたい	18	4.3	10	5.1
9 年齢上の理由	175	42.1	88	44.9
10 健康上の理由	78	18.8	34	17.3
11 その他	40	9.6	17	8.7
不明・無回答	19	4.6	4	2.0
合 計	416	100.0	196	100.0

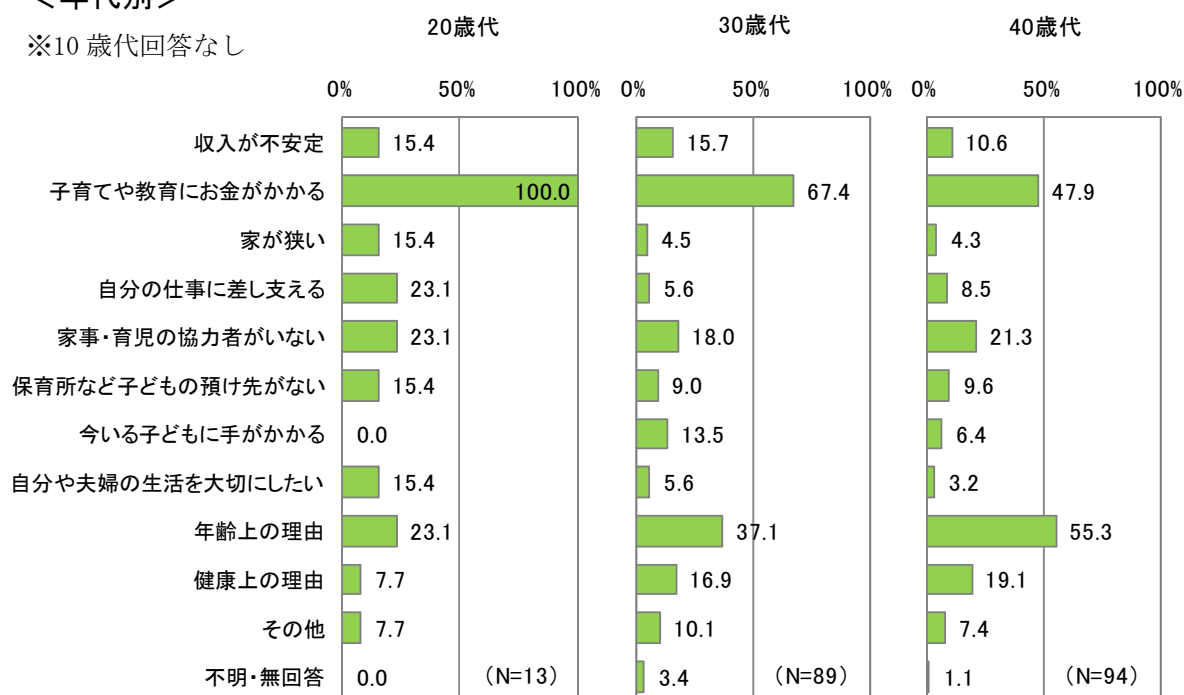
その他の意見としては、

「できなかった」が（10 件）、「夫婦の意見の相違」が（5 件）、「子育てに不安がある」が（4 件）となっている

40 歳以下のみ集計

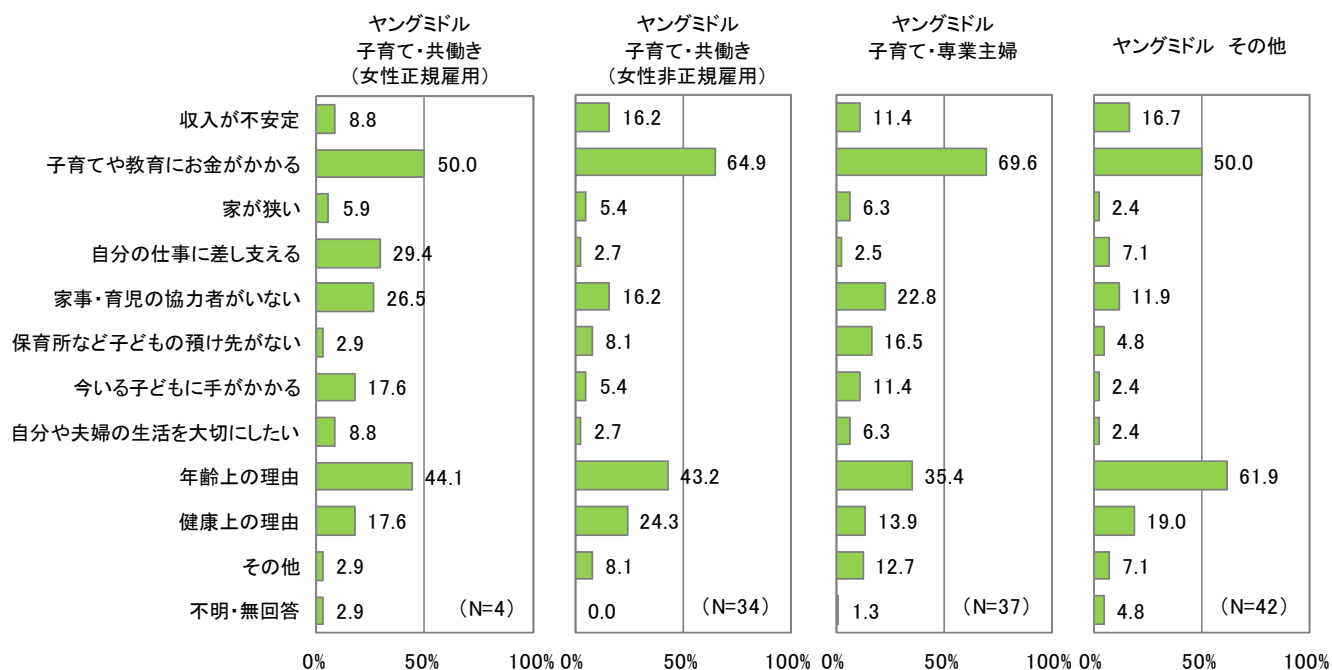
<年代別>

※10 歳代回答なし



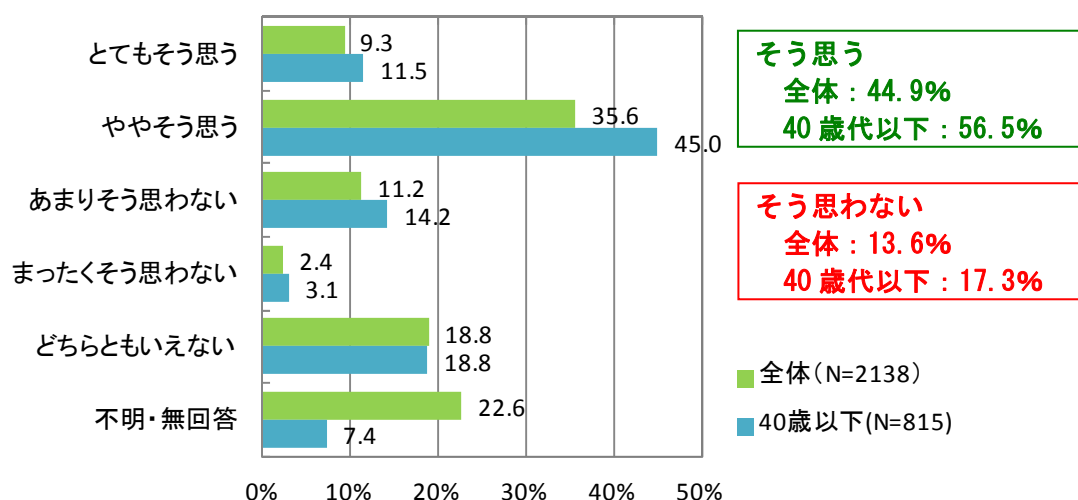
<ライフステージ別>

※ヤングは回答なし、ヤングミドル単身はサンプル数が少ないため集計しない



問 23 木津川市は一般的に子育てがしやすい環境だと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

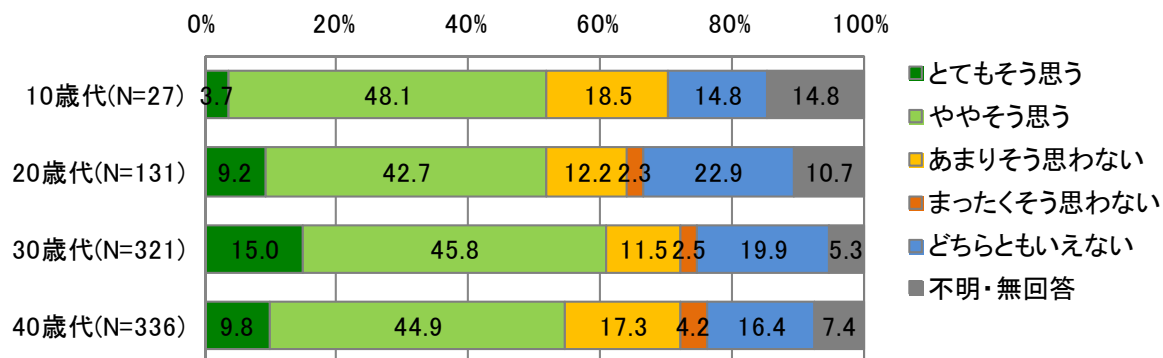
- 「そう思う」「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計) が 44.9%で、「そう
思わない」「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計) の 13.6%
を大きく上回っている。
- 40 歳代以下でみると、子育てしやすいと感じている人は 56.5%と5割を超えてお
り、また、子どものいる世帯のみでは、64.2%と6割を超えており、子育て世帯の
満足度は高い。



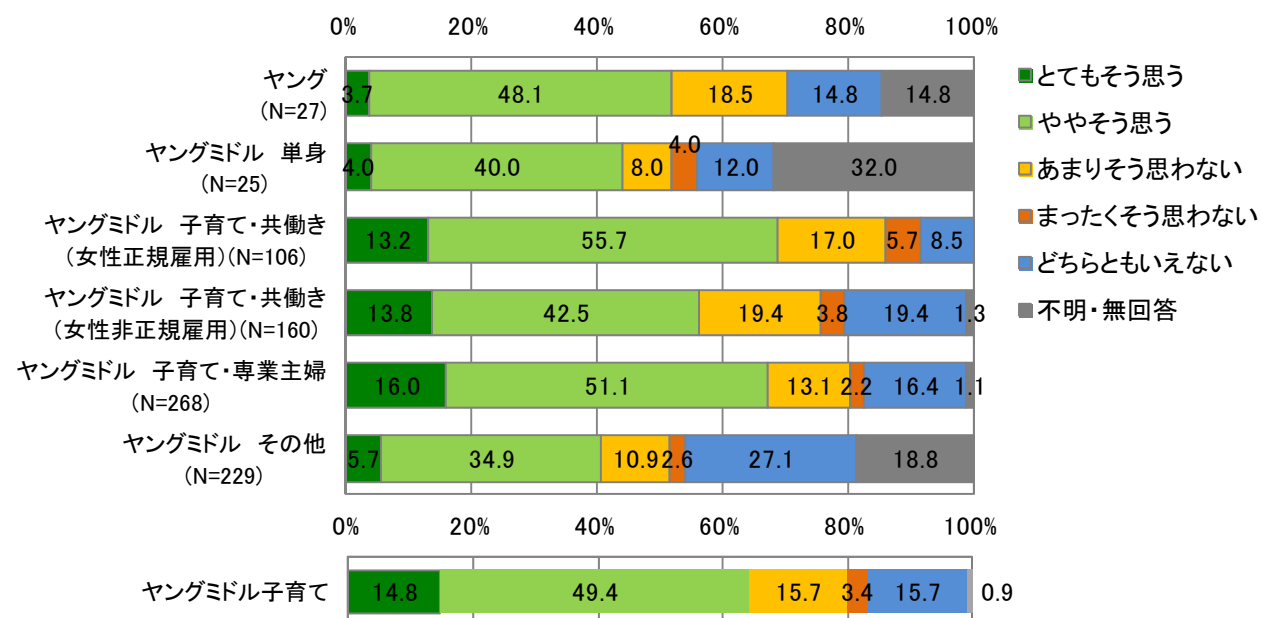
選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 とてもそう思う	199	9.3	94	11.5
2 ややそう思う	761	35.6	367	45.0
3 あまりそう思わない	240	11.2	116	14.2
4 まったくそう思わない	51	2.4	25	3.1
5 どちらともいえない	403	18.8	153	18.8
不明・無回答	484	22.6	60	7.4
合 計	2,138	100.0	815	100.0

40 歳以下のみ集計

<年代別>

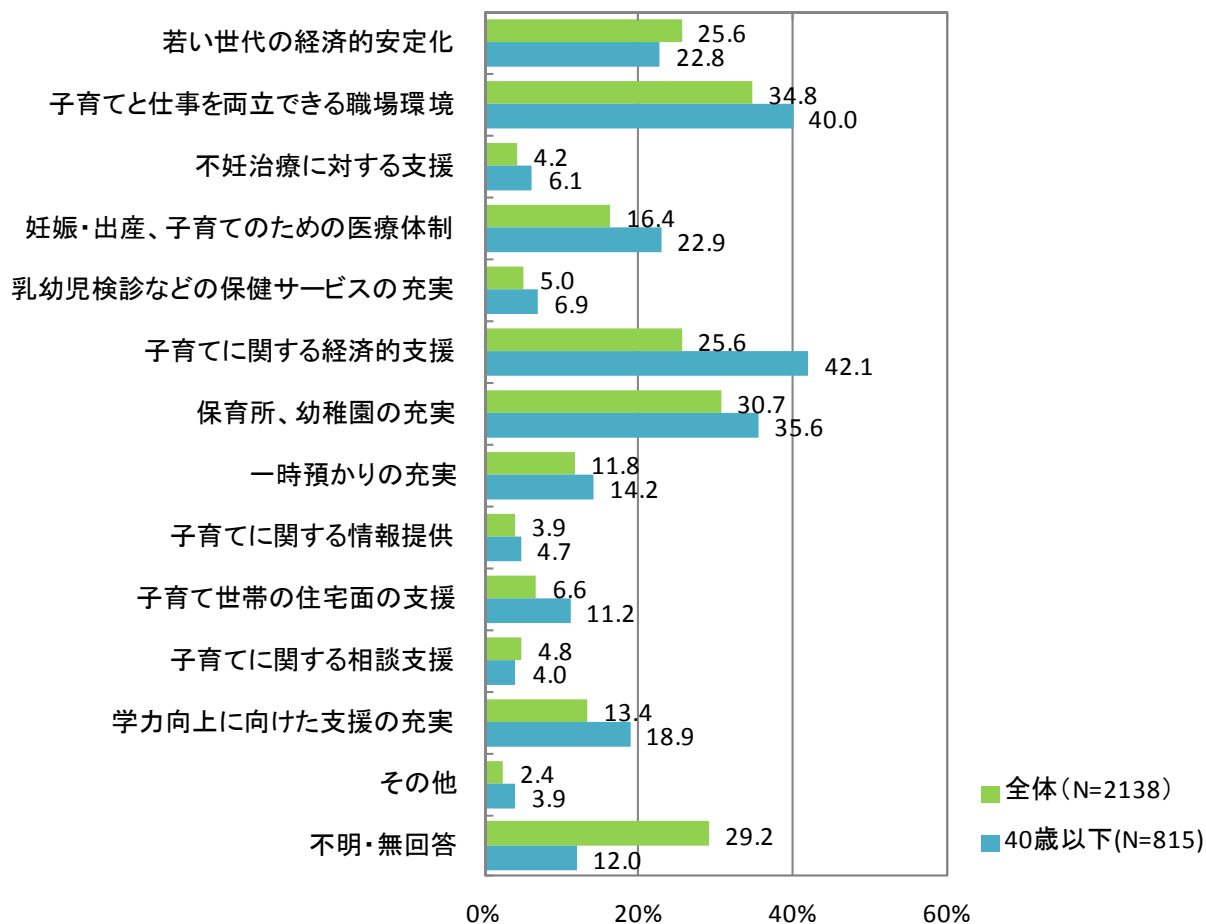


<ライフステージ別>



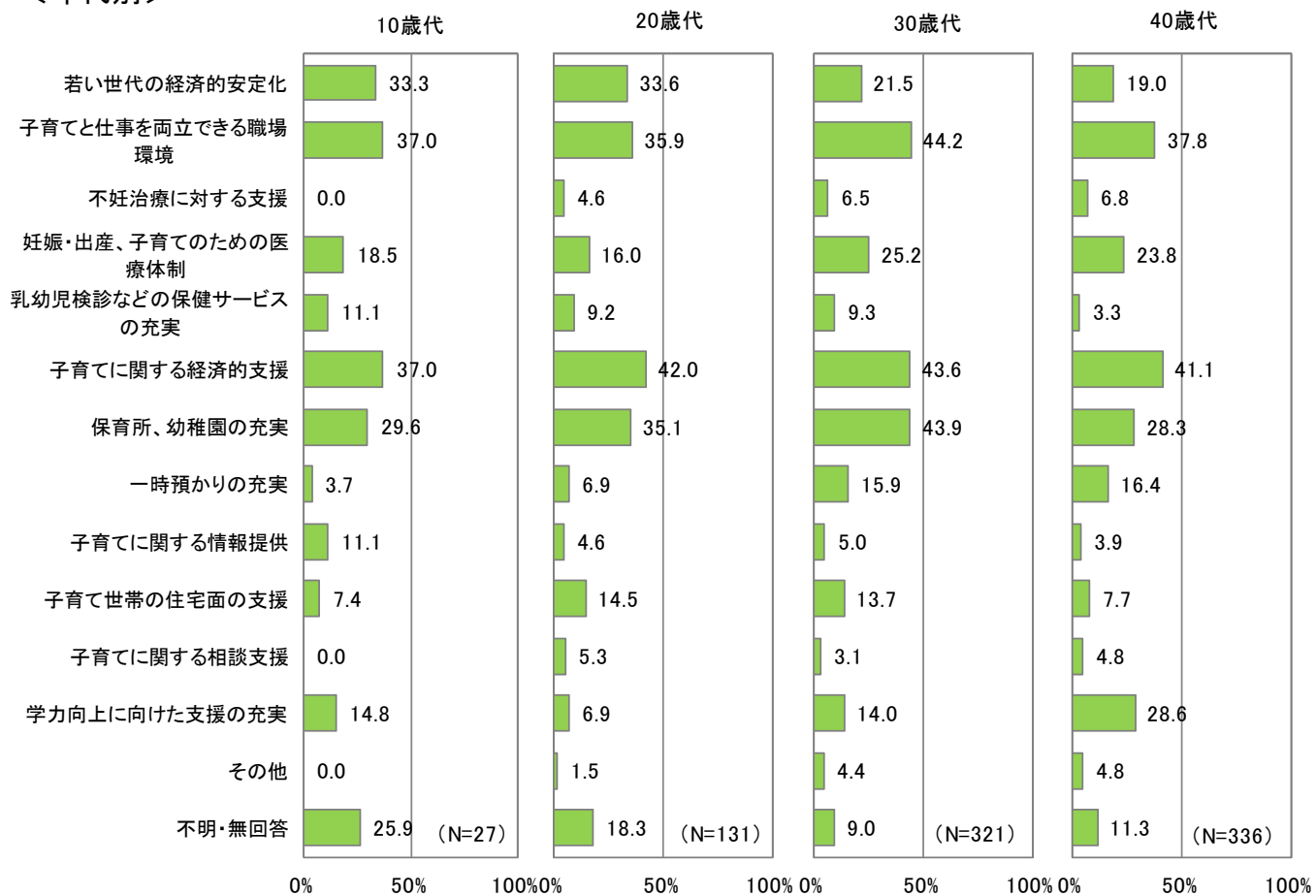
問 24 妊娠・出産や子育てのために、あなたが行政に望む支援策をお答えください。（あてはまるもの3つまでに○）

- 「子育てと仕事を両立できる職場環境」が 34.8%となっており、「保育所、幼稚園の充実」30.7%と続く。
- 40 歳代以下では、「子育てに関する経済的支援」が最も多く、「子育てと仕事を両立できる職場環境」、「保育所、幼稚園の充実」と続く。

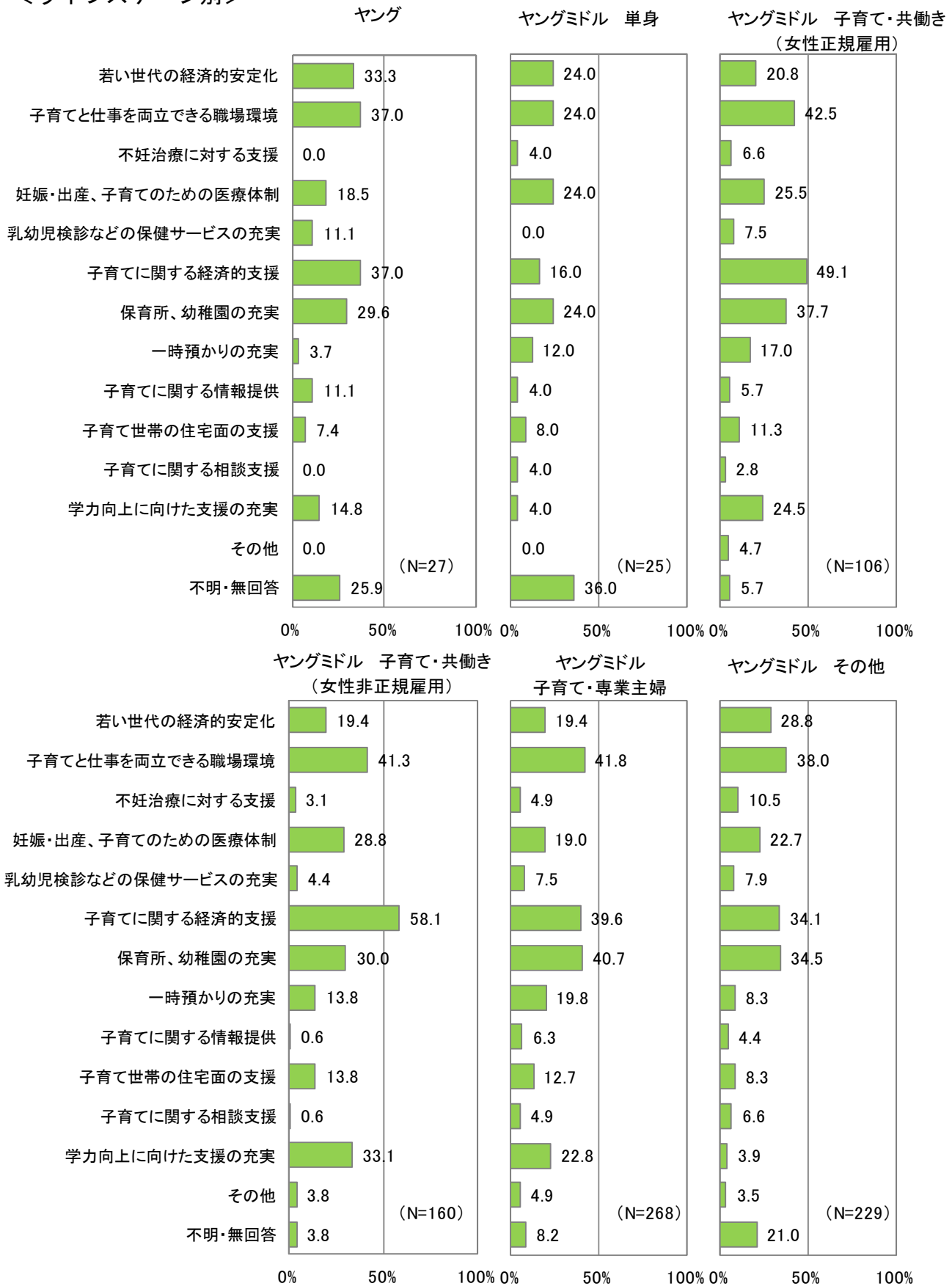


選択肢	全体		40歳代以下	
	回答数 (件)	割合 (%)	回答数 (件)	割合 (%)
1 若い世代の経済的安定化	547	25.6	186	22.8
2 子育てと仕事を両立できる職場環境	744	34.8	326	40.0
3 不妊治療に対する支援	90	4.2	50	6.1
4 妊娠・出産、子育てのための医療体制	350	16.4	187	22.9
5 乳幼児検診などの保健サービスの充実	107	5.0	56	6.9
6 子育てに関する経済的支援	548	25.6	343	42.1
7 保育所、幼稚園の充実	657	30.7	290	35.6
8 一時預かりの充実	252	11.8	116	14.2
9 子育てに関する情報提供	84	3.9	38	4.7
10 子育て世帯の住宅面の支援	142	6.6	91	11.2
11 子育てに関する相談支援	102	4.8	33	4.0
12 学力向上に向けた支援の充実	287	13.4	154	18.9
13 その他	52	2.4	32	3.9
不明・無回答	624	29.2	98	12.0
合 計	2,138	100.0	815	100.0

<年代別>



＜ライフステージ別＞



問 25 妊娠・出産や子育てのために、あなたが困っていることがありましたら、お書きください。

【自由記述】

回答件数：219 件

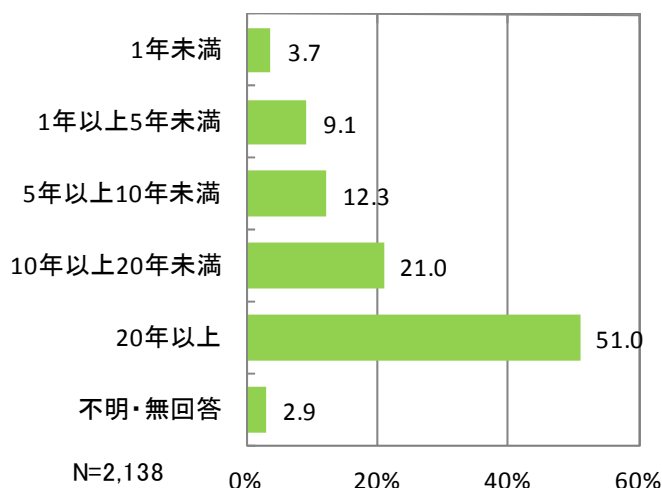
※回答内容は、複数の分野にまたがっているため、件数の合計は回答件数と一致しない。

分 野	件数
保育園・幼稚園・学校が遠い、少ない	27
子育て支援全般について	25
その他幼稚園、保育園、預け先について	22
公共交通・道路整備について	20
子どもの遊び場がない	18
職場環境、仕事探し	17
経済面（学費など）	16
妊娠・出産について	14
医療体制、病児保育について	12
幼稚園・保育園の定員が少ない	12
教育内容、制度について	11
精神的、体力的不安	11
子育て情報、交流の場が少ない	10
将来の結婚・出産について	8
放課後児童クラブについて	6
その他	32

1.7 お住まいについて

問 26 あなたは、木津川市にお住まいになって何年になりますか。（あてはまるもの1つに○）

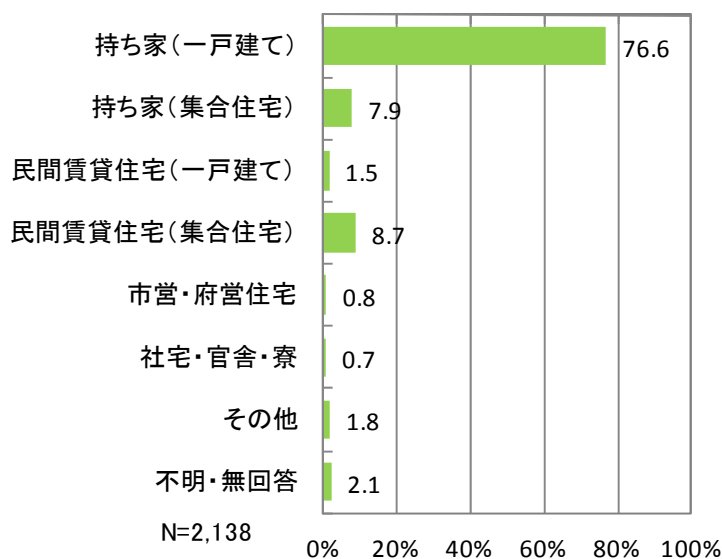
- 「20年以上」が半数を超え、居住年数は長い。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	1年未満	79	3.7
2	1年以上5年未満	195	9.1
3	5年以上10年未満	262	12.3
4	10年以上20年未満	449	21.0
5	20年以上	1,091	51.0
	不明・無回答	62	2.9
合 計		2,138	100.0

問 27 現在のお住まいの形態をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

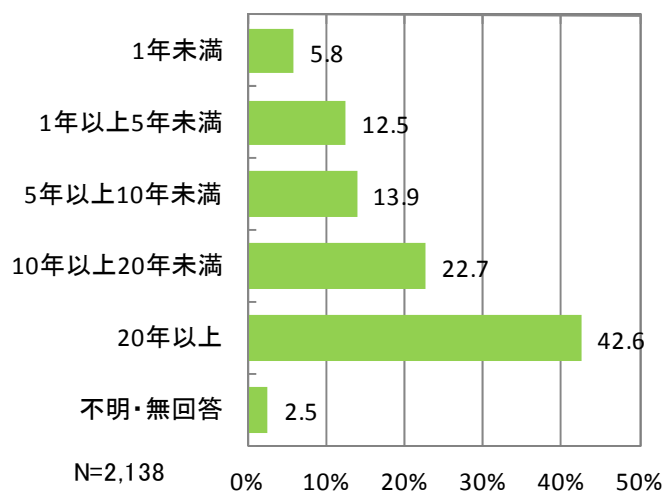
- 「持ち家（一戸建て）」が76.6%と大多数を占める。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	持ち家(一戸建て)	1,637	76.6
2	持ち家(集合住宅)	168	7.9
3	民間賃貸住宅(一戸建て)	32	1.5
4	民間賃貸住宅(集合住宅)	187	8.7
5	市営・府営住宅	17	0.8
6	社宅・官舎・寮	14	0.7
7	その他	38	1.8
	不明・無回答	45	2.1
合 計		2,138	100.0

問 28 現在のお住まいに生活されて何年になりますか。(あてはまるもの1つに○)

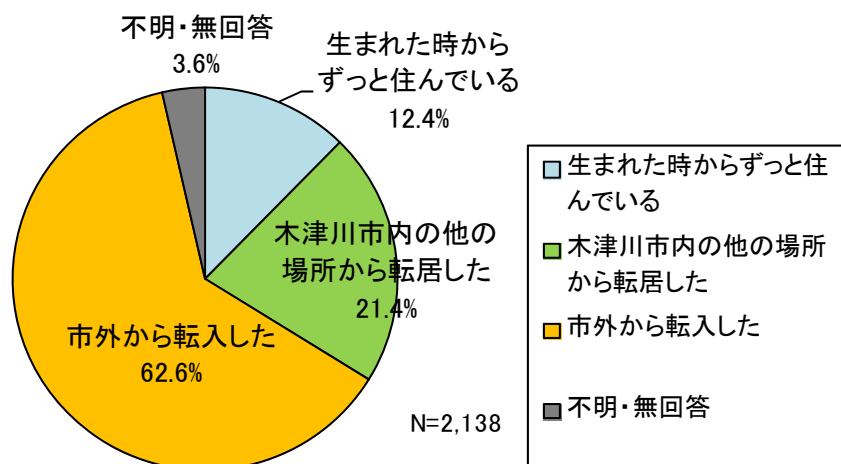
- 「20年以上」が42.6%と高くなっている。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	1年未満	123	5.8
2	1年以上5年未満	268	12.5
3	5年以上10年未満	297	13.9
4	10年以上20年未満	486	22.7
5	20年以上	911	42.6
	不明・無回答	53	2.5
合 計		2,138	100.0

問 29 現在のお住まいについてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

- 「市外から転入した」が62.6%と6割を超える。

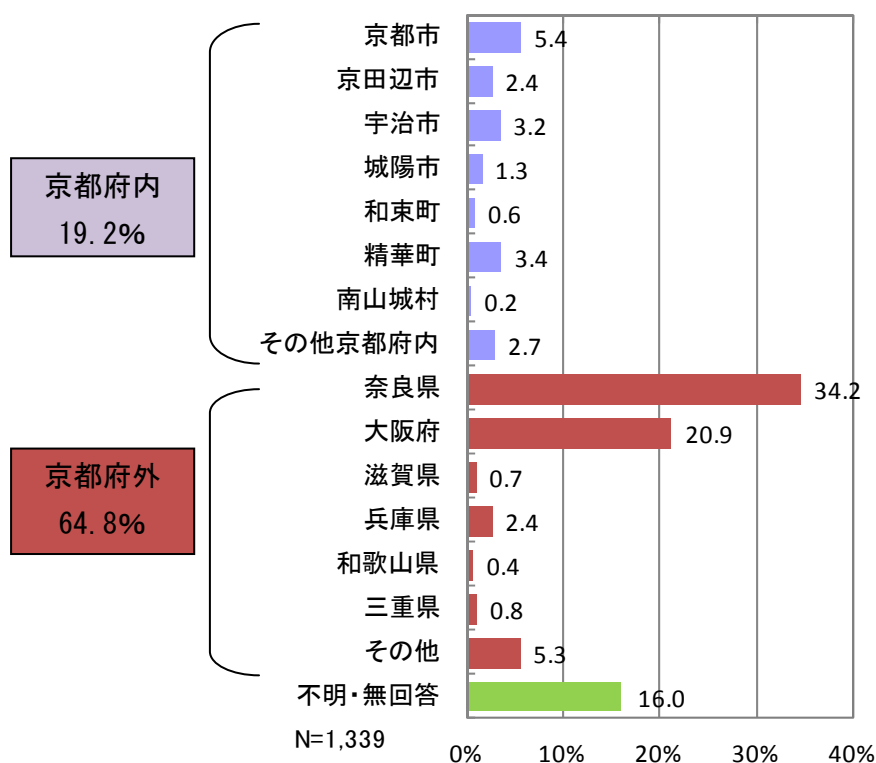


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	生まれた時からずっと住んでいる	265	12.4
2	木津川市内の他の場所から転居した	457	21.4
3	市外から転入した	1,339	62.6
	不明・無回答	77	3.6
合 計		2,138	100.0

問 29 市外からの転入前の居住地

※問 29 で市内の他の場所から転居した、市外から転入したと回答した人のみ

- 「奈良県」が34.2%と最も多く、次いで「大阪府」が20.9%となっている。「京都府内」からの転入は19.2%と少ない。

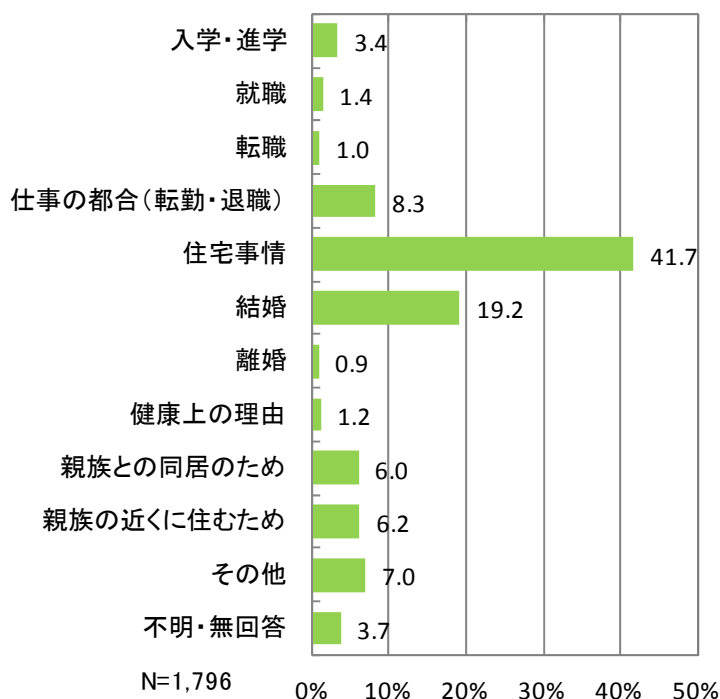


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	京都市	72	5.4
2	京田辺市	32	2.4
3	宇治市	43	3.2
4	城陽市	18	1.3
5	和束町	8	0.6
6	精華町	45	3.4
7	南山城村	3	0.2
8	その他京都府内	36	2.7
9	奈良県	458	34.2
10	大阪府	280	20.9
11	滋賀県	10	0.7
12	兵庫県	32	2.4
13	和歌山県	6	0.4
14	三重県	11	0.8
15	その他	71	5.3
	不明・無回答	214	16.0
	合 計	1,339	100.0

副問 29-1 現在のお住まいに転居された理由は何ですか。（あてはまるもの1つに○）

※問 29 で市内の他の場所から転居した、市外から転入したと回答した人のみ

- 「住宅事情」が41.7%と最も多く、次いで「結婚」（19.2%）となっている。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	入学・進学	61	3.4
2	就職	26	1.4
3	転職	18	1.0
4	仕事の都合(転勤・退職)	149	8.3
5	住宅事情	749	41.7
6	結婚	344	19.2
7	離婚	16	0.9
8	健康上の理由	21	1.2
9	親族との同居のため	108	6.0
10	親族の近くに住むため	112	6.2
11	その他	125	7.0
	不明・無回答	67	3.7
	合 計	1,796	100.0

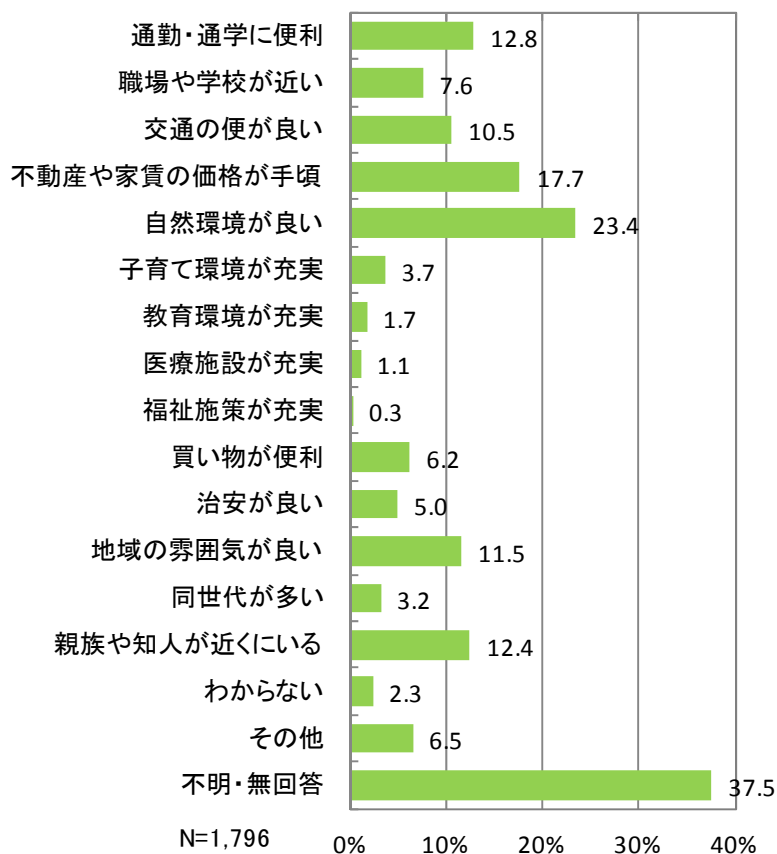
その他の意見としては、

「自然・住環境がよいため」が（36 件）、「出産・子育てのため」が（15 件）となっている

副問 29-2 現在のお住まいに住まわれることを決めた要因は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

※問 29 で市内の他の場所から転居した、市外から転入したと回答した人のみ

- 「自然環境が良い」が23.4%と最も多く、「不動産屋家賃の価格が手頃」が17.7%と続く。



選択肢	回答数 (件)	割合 (%)
1 通勤・通学に便利	230	12.8
2 職場や学校が近い	137	7.6
3 交通の便が良い	189	10.5
4 不動産や家賃の価格が手頃	317	17.7
5 自然環境が良い	420	23.4
6 子育て環境が充実	66	3.7
7 教育環境が充実	31	1.7
8 医療施設が充実	20	1.1
9 福祉施策が充実	5	0.3
10 買い物が便利	112	6.2
11 治安が良い	89	5.0
12 地域の雰囲気が良い	207	11.5
13 同世代が多い	57	3.2
14 親族や知人が近くにいる	223	12.4
15 わからない	42	2.3
16 その他	117	6.5
不明・無回答	674	37.5
合 計	1,796	100.0

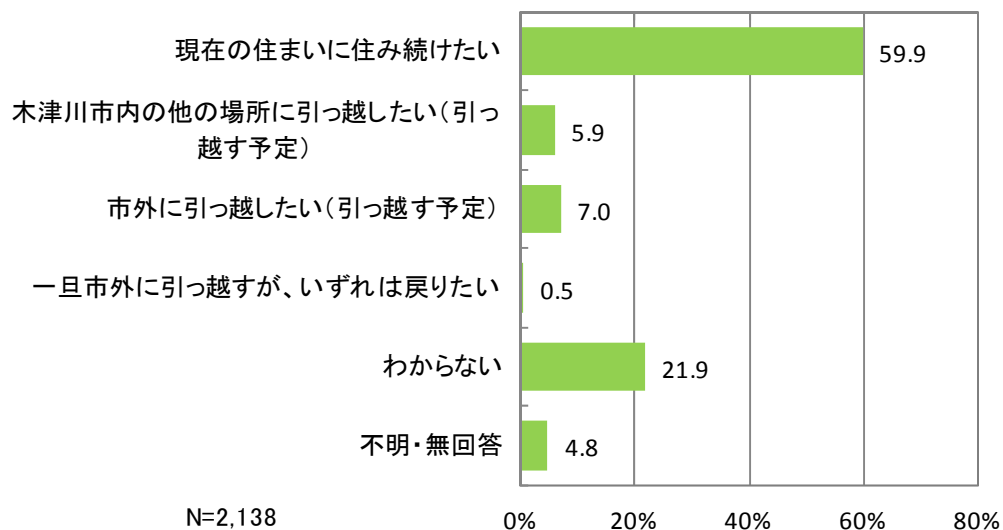
その他の主な意見は、
「家や土地があった」(19 件)
「同居のため」(17 件)
「住居購入のため」(12 件)
「結婚による」(11 件)
「土地や部屋が広い」(6 件)
「同一学区のため」(5 件)

となっている

1.8 市内での定住意向について

問 30 あなたは、今後のお住まいについてどのようにお考えですか。（あてはまるもの１つに○）

- 「現在の住まいに住み続けたい」が59.9%で定住意向は高い。



選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	現在の住まいに住み続けたい	1,280	59.9
2	木津川市内の他の場所に引っ越したい(引っ越す予定)	127	5.9
3	市外に引っ越したい(引っ越す予定)	149	7.0
4	一旦市外に引っ越すが、いずれは戻りたい	11	0.5
5	わからない	468	21.9
	不明・無回答	103	4.8
	合 計	2,138	100.0

副問 30-1 その理由をできるだけ詳しくお答えください。【自由記述】

※問 30 でわからないと回答した以外の人のみ

(1) 現在の住まいに住み続けたい理由 回答件数：979 件

分 野	件数
環境（自然・生活・交通）がよい、便利だから	333
持ち家だから、生家だから、土地・墓があるから	208
住み慣れたから、住みやすいから、好きだから	146
友人・知人がいるから、近所づきあいが良好	76
引っ越す理由がない、行く所がない、環境を変えたくない	62
年齢的理由	58
子どものため	54
親族がいるから	48
経済的理由	33
職場に近いから	14
その他	48

(2) 木津川市内の他の場所に引っ越したい理由 回答件数：116 件

分 野	件数
環境（生活・交通）が悪い、不便だから	32
住居・土地を購入した、購入したい	31
住宅事情（古い、狭い等）	15
結婚・独立のため	8
通勤・通学のため	5
その他	25

(3) 市外に引っ越したい理由 回答件数：133 件

分 野	件数
環境（生活・交通）が悪い、不便だから	51
親族との同居・近居、帰郷	21
就職・通勤・通学のため	20
支援や税に対する不満	9
愛着がない、魅力がない	8
結婚・独立のため	5
その他	22

(4) 一旦市外に引っ越すが、いずれは戻りたい理由 回答件数：9 件

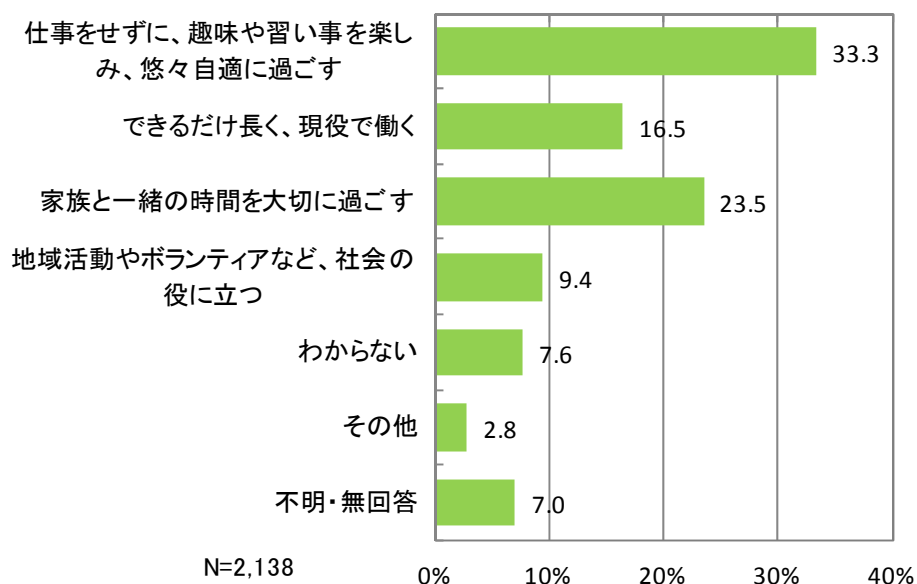
分 野	件数
仕事の都合	4
その他	6

※回答内容は、複数の分野にまたがっているため、件数の合計は回答件数と一致しない。

1.9 老後の暮らし方について

問 31 あなたが理想とする老後（65 歳以降）の暮らし方をお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

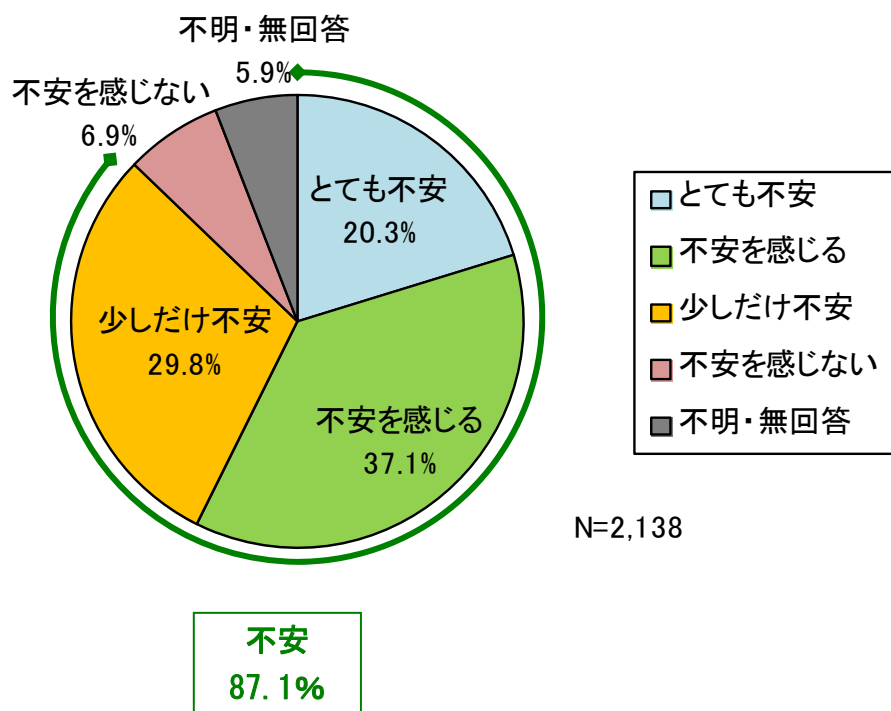
- 「仕事をせずに、趣味や習い事を楽しみ、悠々自適に過ごす」が 33.3%となっている。



選択肢	回答数 (件)	割合 (%)
1 仕事をせずに、趣味や習い事を楽しみ、悠々自適に過ごす	713	33.3
2 できるだけ長く、現役で働く	352	16.5
3 家族と一緒に時間を大切に過ごす	502	23.5
4 地域活動やボランティアなど、社会の役に立つ	200	9.4
5 わからない	163	7.6
6 その他	59	2.8
不明・無回答	149	7.0
合 計	2,138	100.0

問 32 あなたは、老後の暮らしに不安を感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

- 「不安」(「とても不安」、「不安を感じる」、「少しでも不安」の合計)が87.1%と大多数の方が不安に感じている。

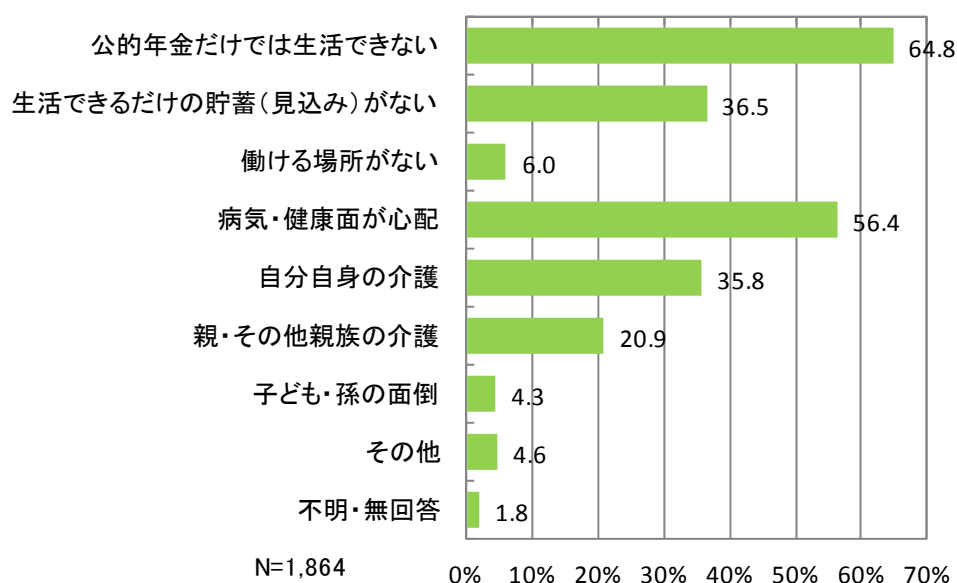


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	とても不安	433	20.3
2	不安を感じる	793	37.1
3	少しでも不安	638	29.8
4	不安を感じない	148	6.9
	不明・無回答	126	5.9
合 計		2,138	100.0

問 33 あなたが、老後の暮らしで不安に感じることは何ですか。（あてはまるもの 3 つまでに○）

※問 32 で不安に感じる人（とても不安＋不安を感じる＋少しだけ不安の合計）のみ回答

- 「公的年金だけでは生活できない」が 64.8%と最も多く、「病気・健康面が心配」が 56.4%と続く。

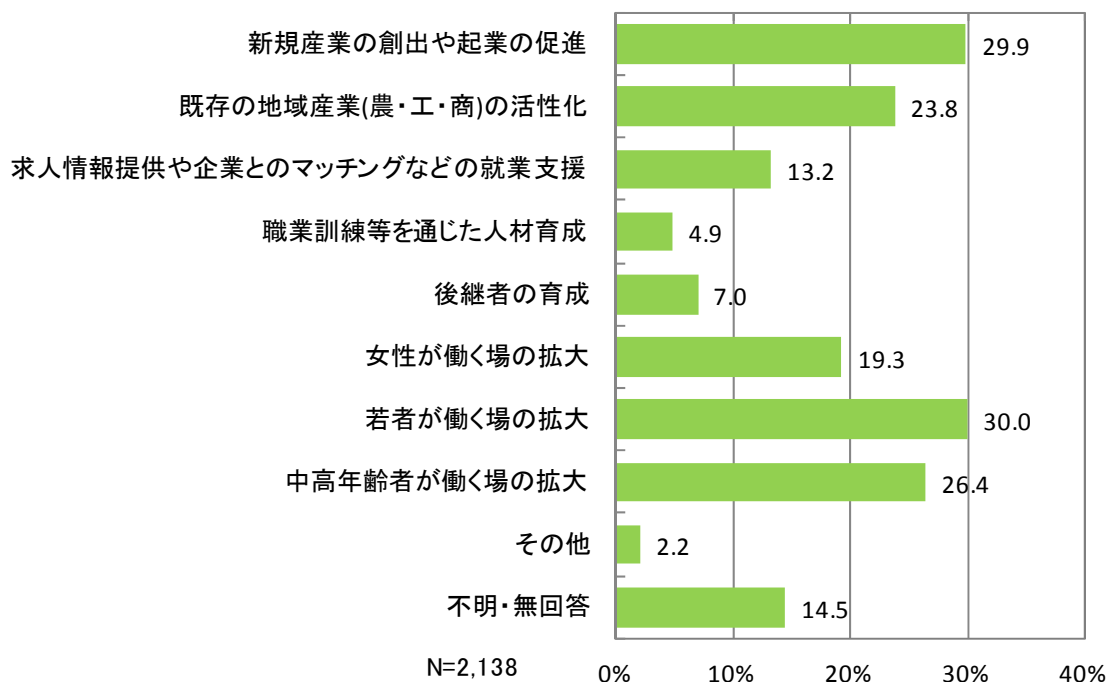


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	公的年金だけでは生活できない	1,208	64.8
2	生活できるだけの貯蓄(見込み)がない	680	36.5
3	働ける場所がない	111	6.0
4	病気・健康面が心配	1,051	56.4
5	自分自身の介護	667	35.8
6	親・その他親族の介護	390	20.9
7	子ども・孫の面倒	80	4.3
8	その他	85	4.6
	不明・無回答	34	1.8
合 計		1,864	100.0

1.10 木津川市の将来について

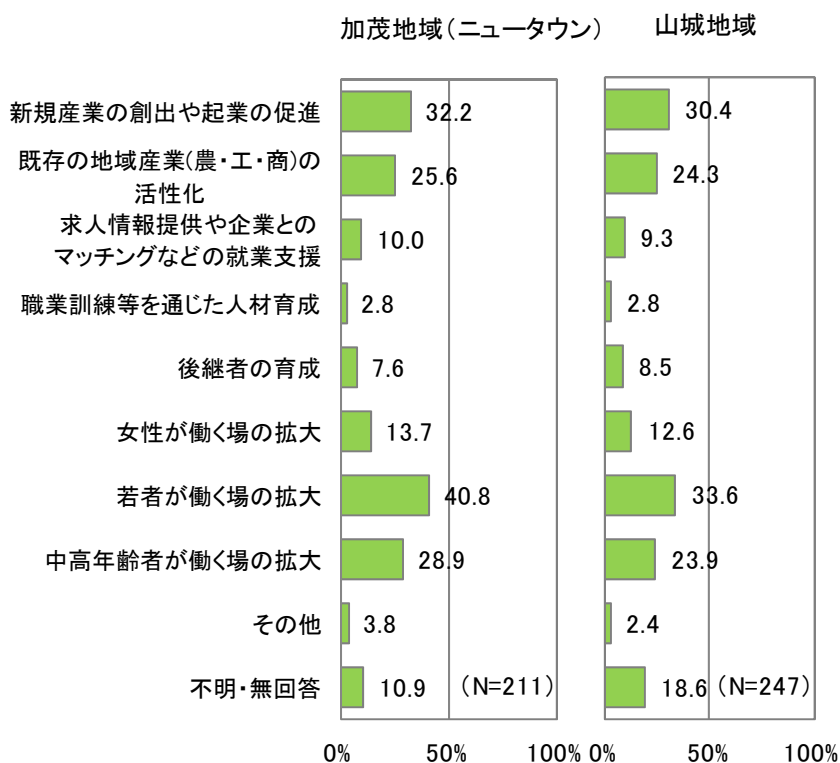
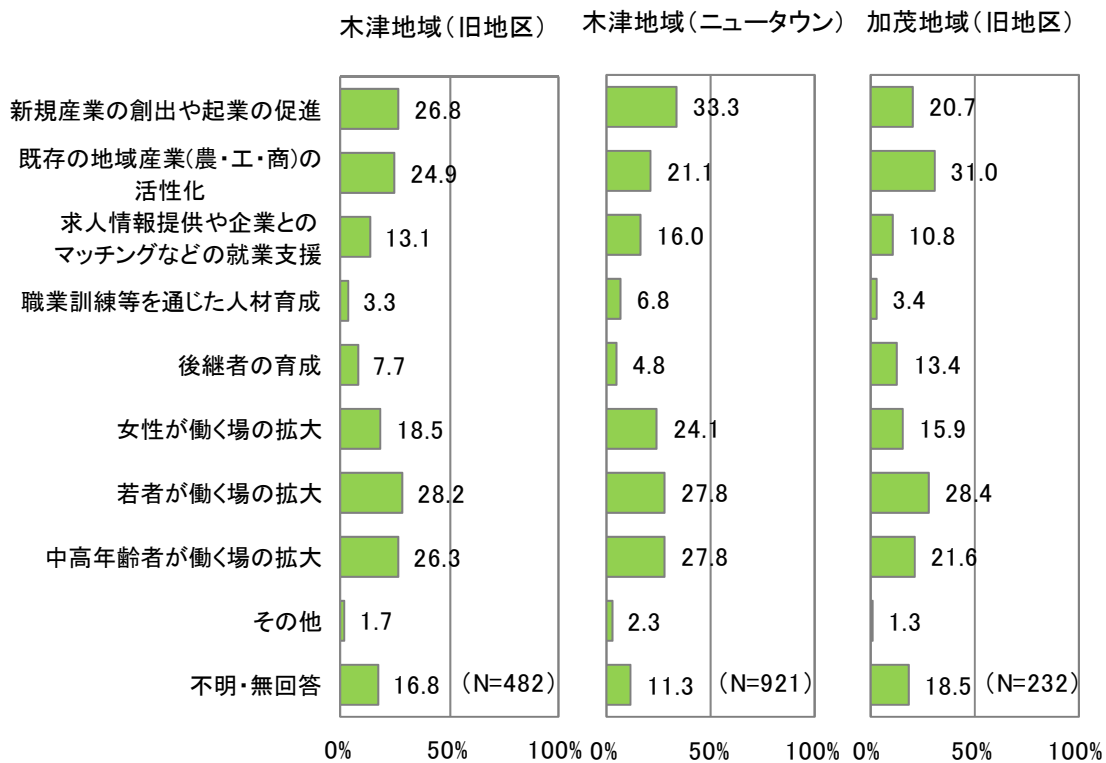
問 34 安定した仕事につくことのできるまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるもの2つまでに○）

- 「若者が働く場の拡大」（30.0%）、「新規産業の創出や起業の促進」（29.9%）が多くなっている。
- 子育て世代では「女性が働く場の拡大」が多く、ヤングやシルバーシニア世代では「若者が働く場の拡大」が多い。

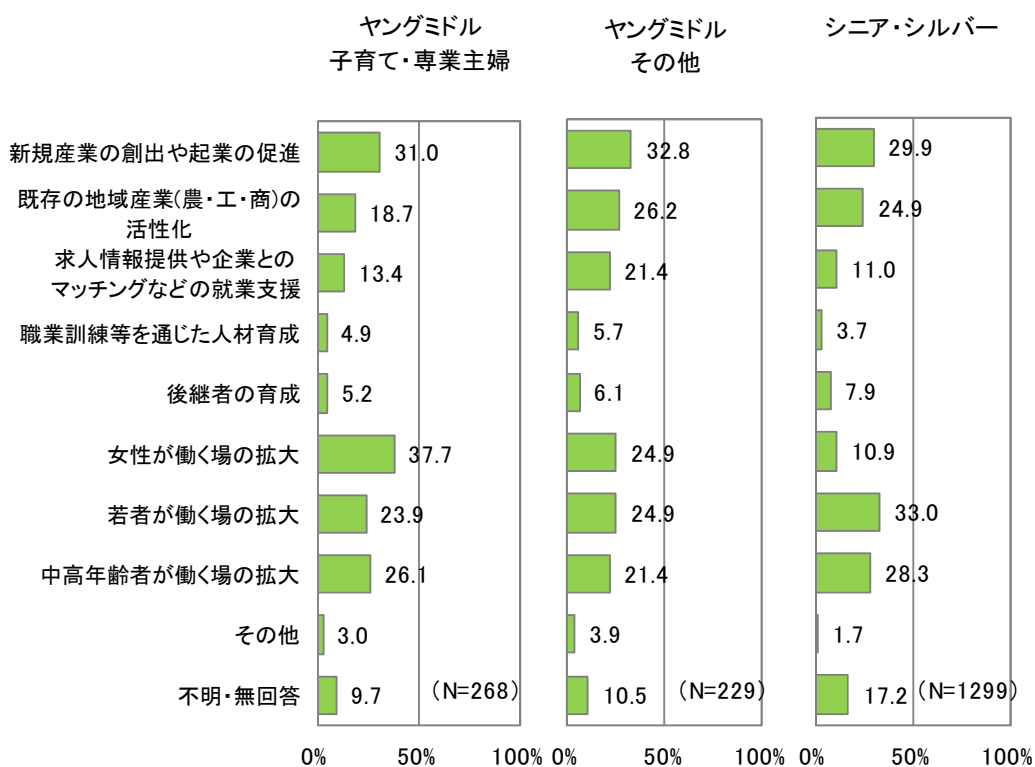
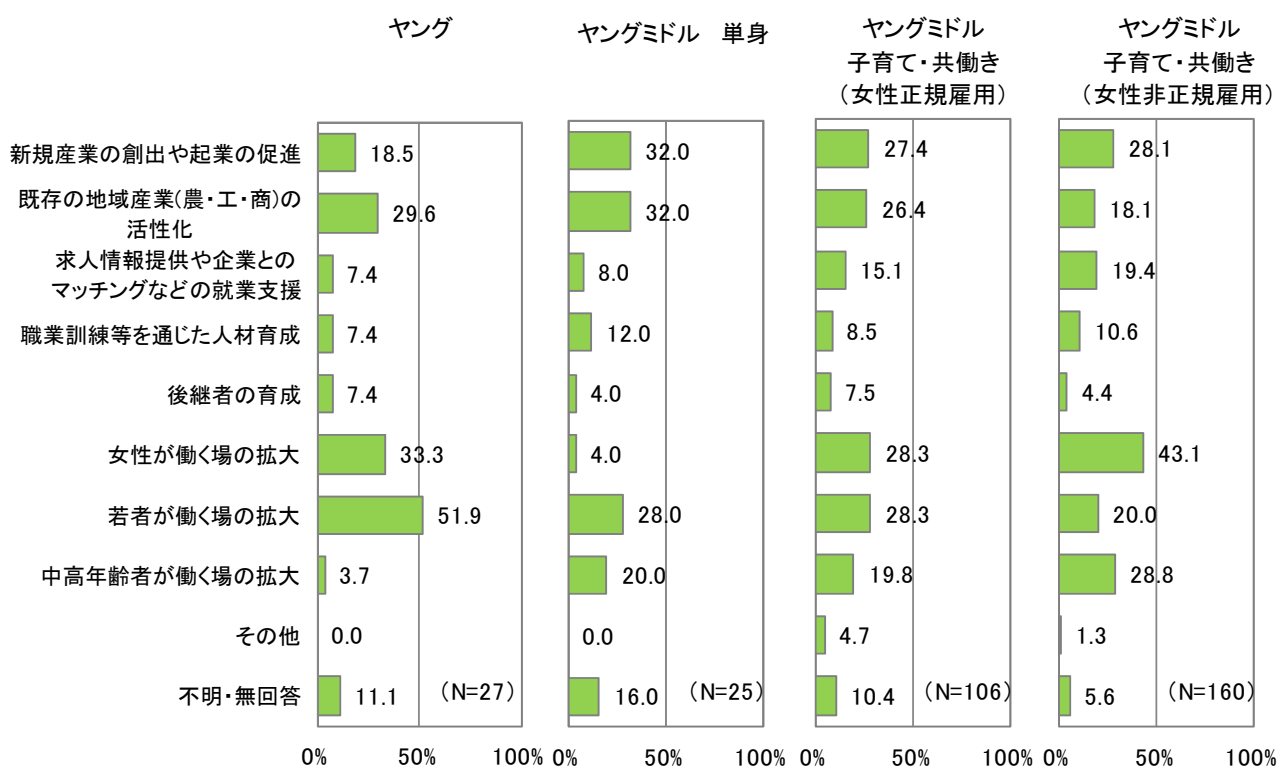


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	新規産業の創出や起業の促進	639	29.9
2	既存の地域産業(農・工・商)の活性化	508	23.8
3	求人情報提供や企業とのマッチングなどの就業支援	283	13.2
4	職業訓練等を通じた人材育成	105	4.9
5	後継者の育成	150	7.0
6	女性が働く場の拡大	412	19.3
7	若者が働く場の拡大	641	30.0
8	中高年齢者が働く場の拡大	565	26.4
9	その他	46	2.2
	不明・無回答	309	14.5
合 計		2,138	100.0

<地域別>

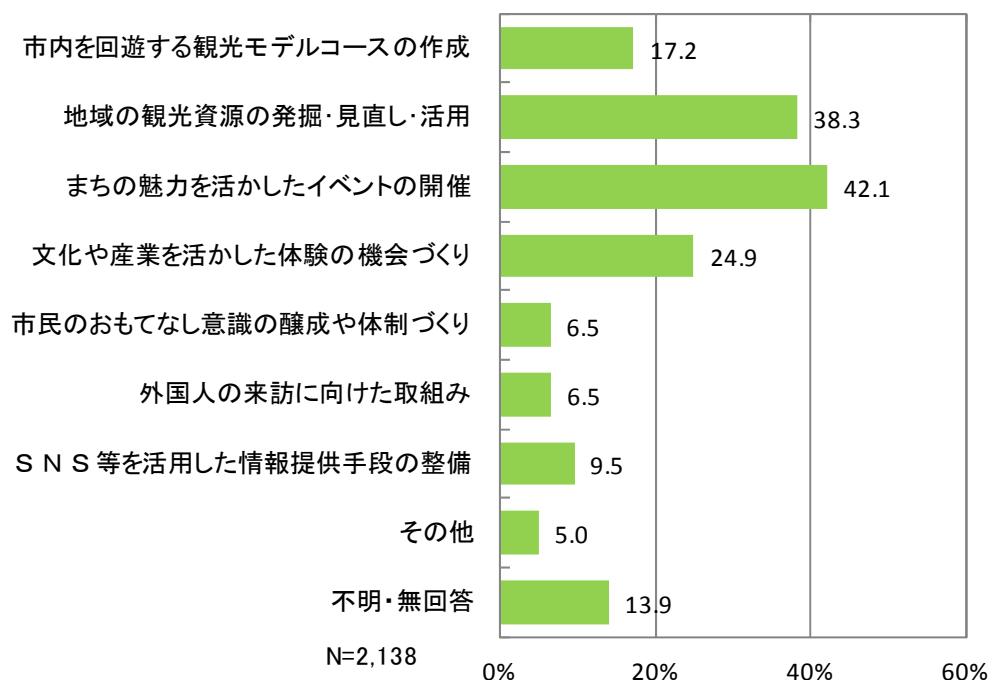


<ライフステージ別>



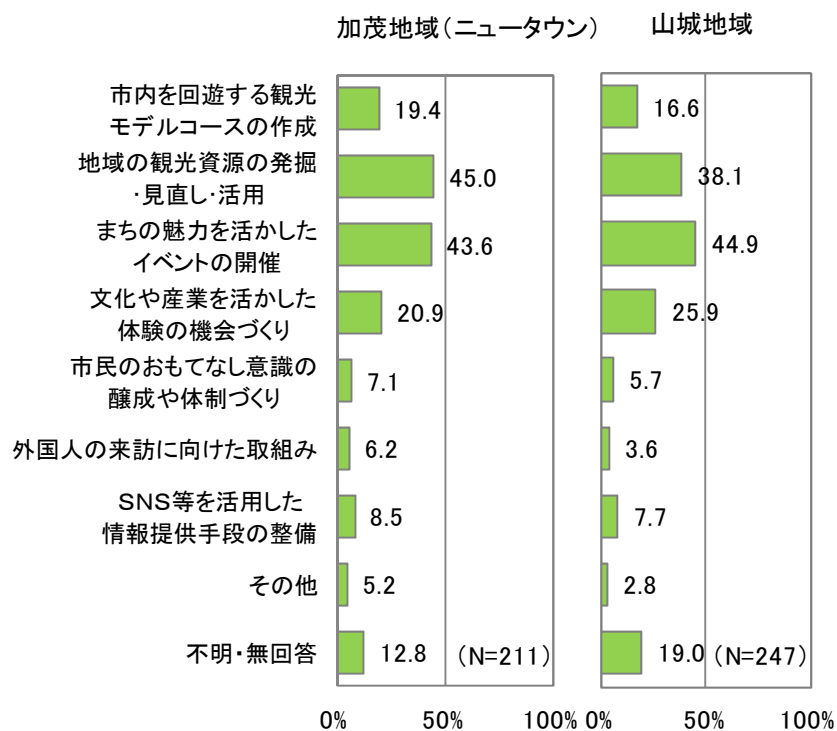
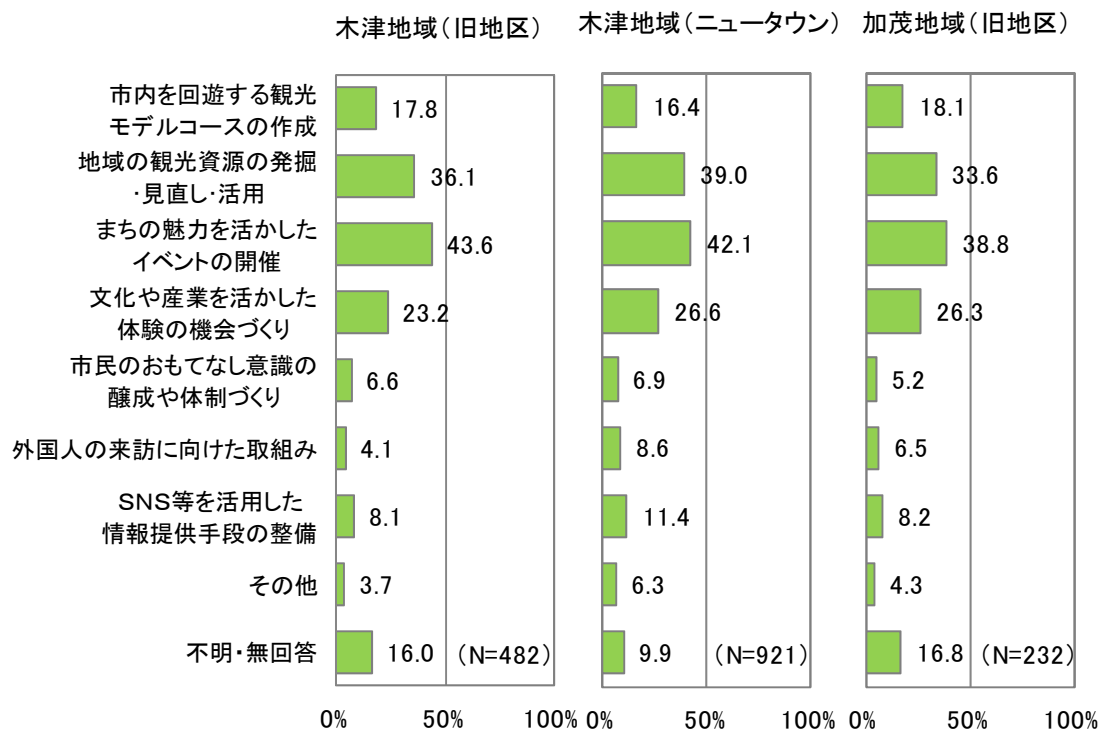
問 35 市内外の人が訪れ交流し、楽しむことのできるまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの2つまでに○)

- 「まちの魅力を活かしたイベントの開催」が 42.1%で最も多く、「地域の観光資源の発掘・見直し・活用」が 38.3%と続く。

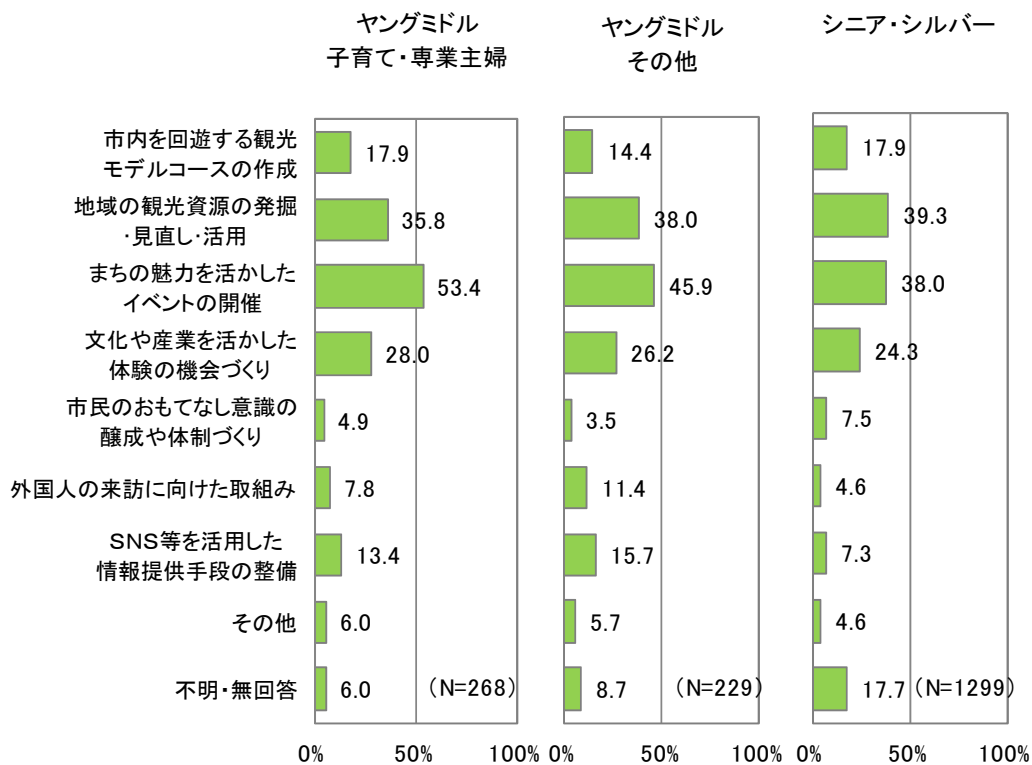
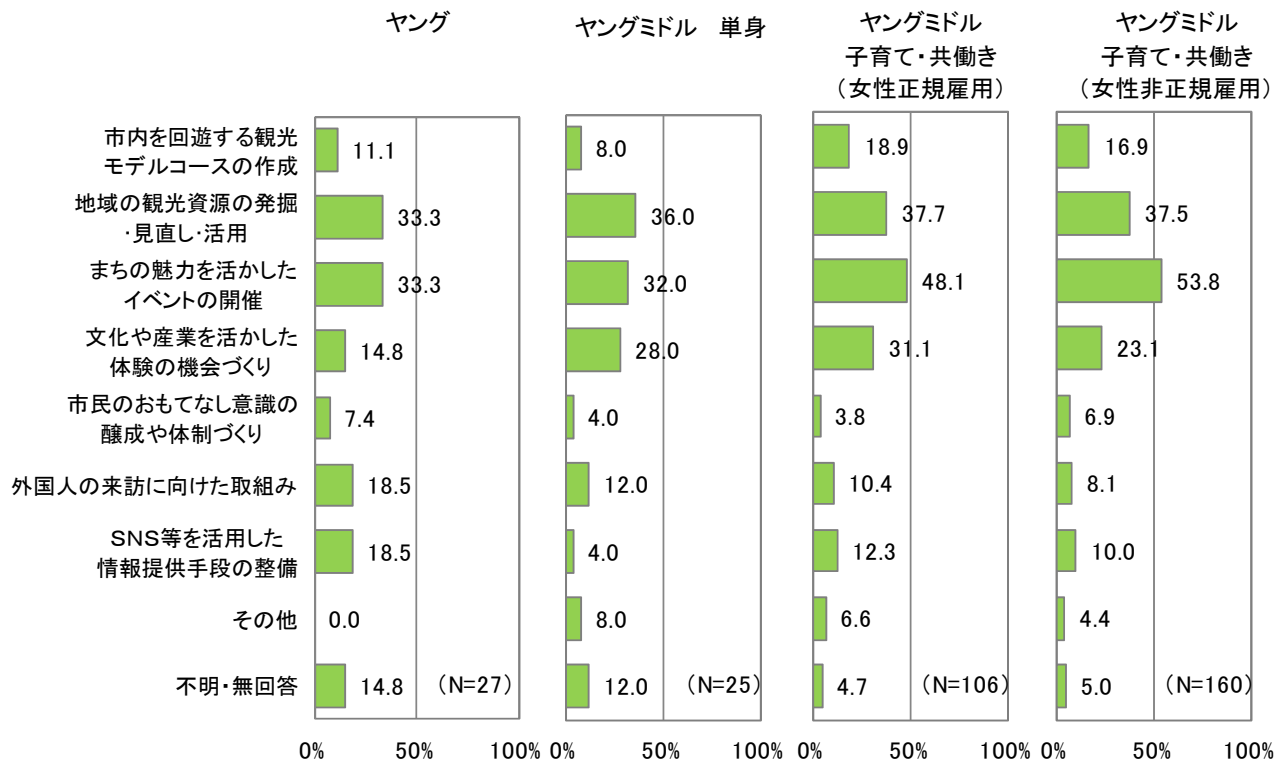


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	市内を回遊する観光モデルコースの作成	367	17.2
2	地域の観光資源の発掘・見直し・活用	818	38.3
3	まちの魅力を活かしたイベントの開催	901	42.1
4	文化や産業を活かした体験の機会づくり	533	24.9
5	市民のおもてなし意識の醸成や体制づくり	138	6.5
6	外国人の来訪に向けた取組み	140	6.5
7	SNS等を活用した情報提供手段の整備	204	9.5
8	その他	106	5.0
	不明・無回答	297	13.9
合 計		2,138	100.0

<地域別>

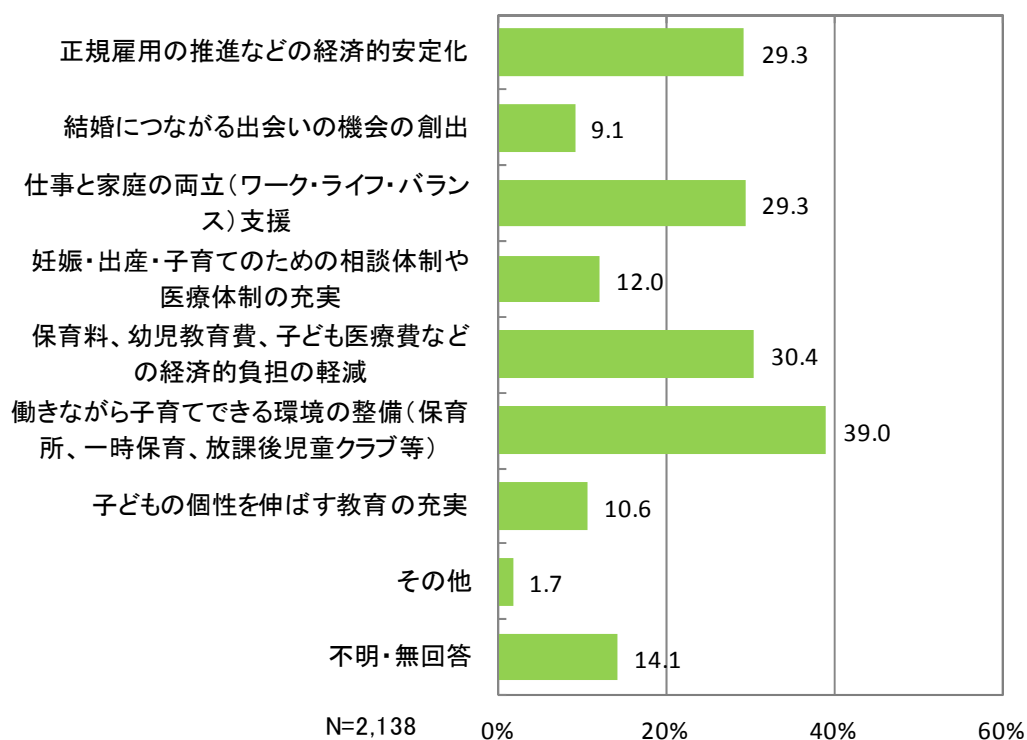


＜ライフステージ別＞



問 36 結婚・出産・子育てしやすいまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるもの2つまでに○）

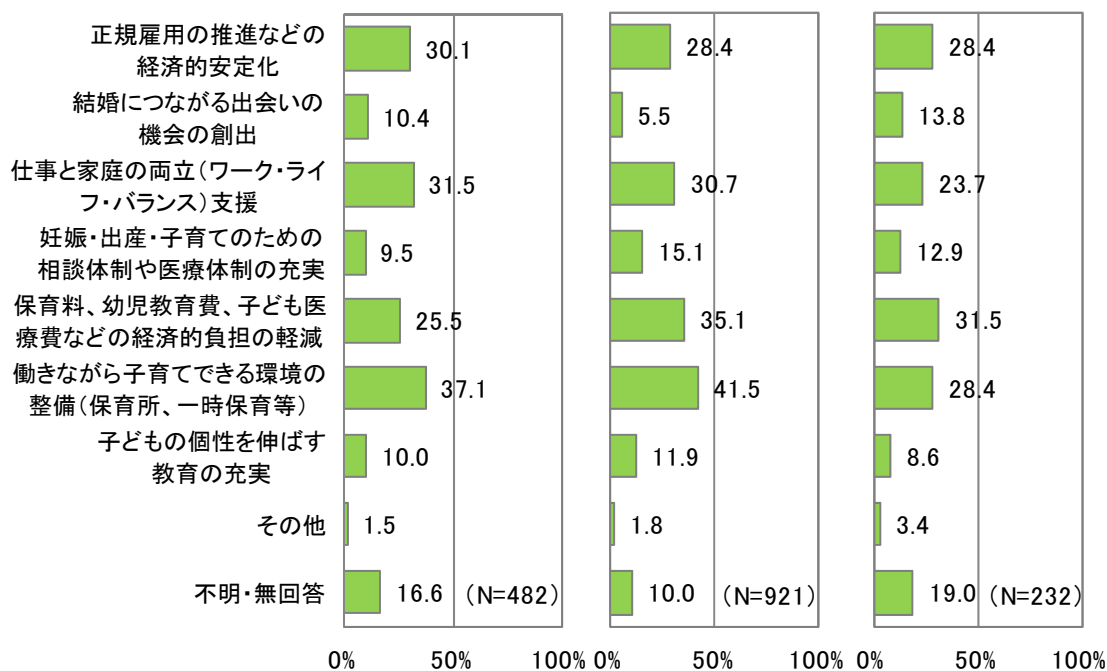
- 「働きながら子育てできる環境の整備」が39.0%と最も多い。
- ライフステージ別にみると、子育て世代では「保育料などの経済的負担の軽減」が多くなっている。



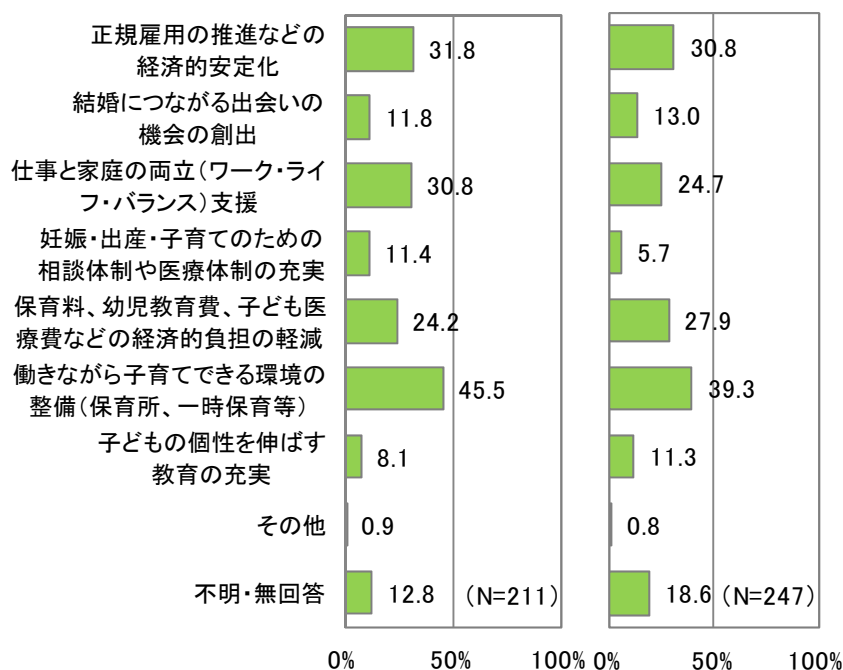
選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	正規雇用の推進などの経済的安定化	626	29.3
2	結婚につながる出会いの機会の創出	195	9.1
3	仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)支援	627	29.3
4	妊娠・出産・子育てのための相談体制や医療体制の充実	257	12.0
5	保育料、幼児教育費、子ども医療費などの経済的負担の軽減	650	30.4
6	働きながら子育てできる環境の整備(保育所、一時保育、放課後児童クラブ等)	834	39.0
7	子どもの個性を伸ばす教育の充実	226	10.6
8	その他	37	1.7
	不明・無回答	302	14.1
合 計		2,138	100.0

<地域別>

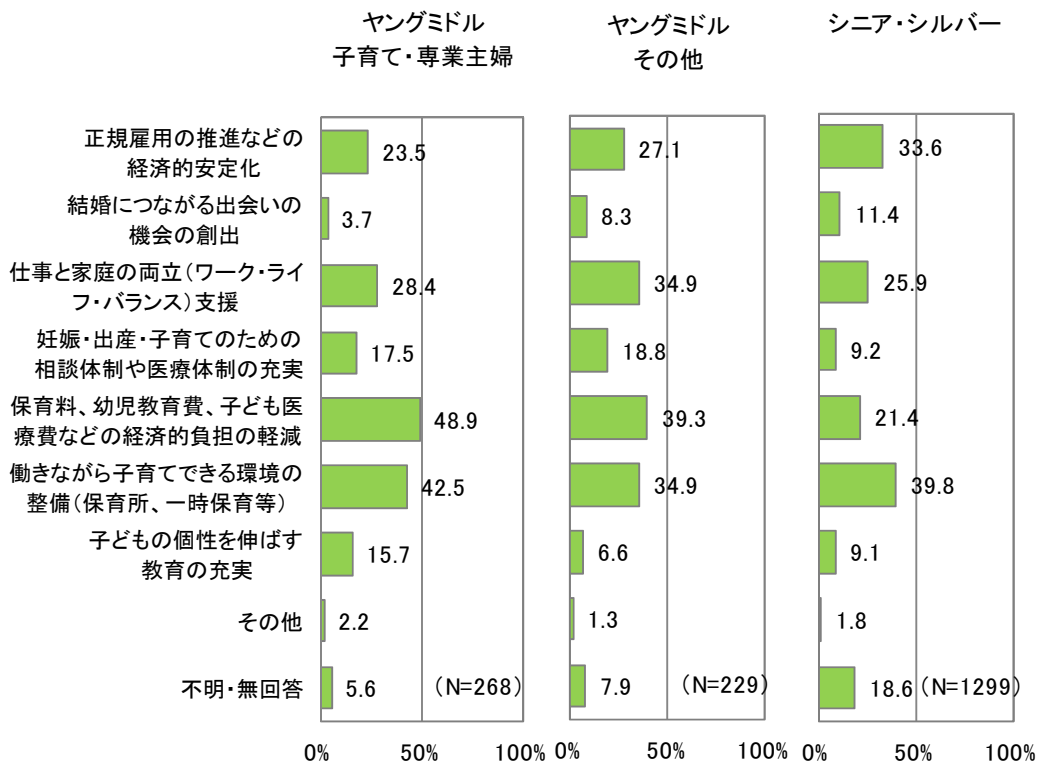
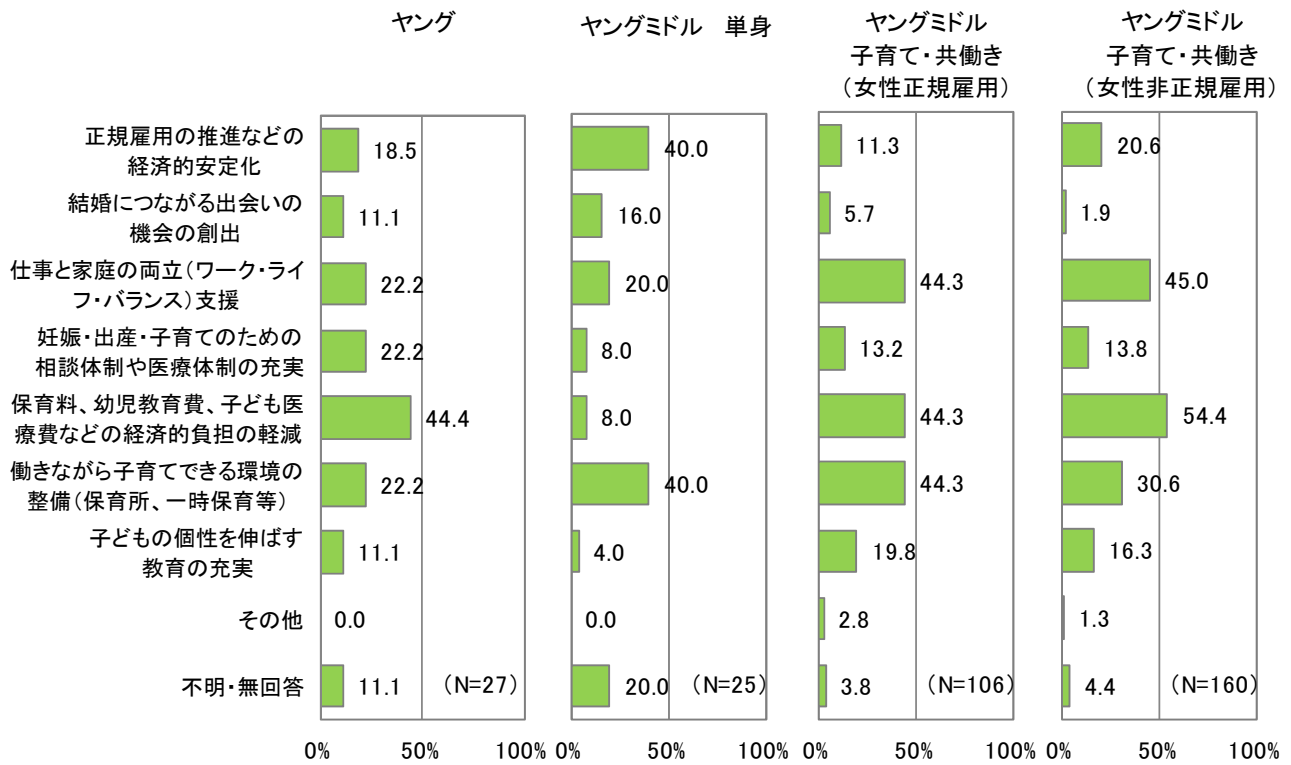
木津地域(旧地区) 木津地域(ニュータウン) 加茂地域(旧地区)



加茂地域(ニュータウン) 山城地域

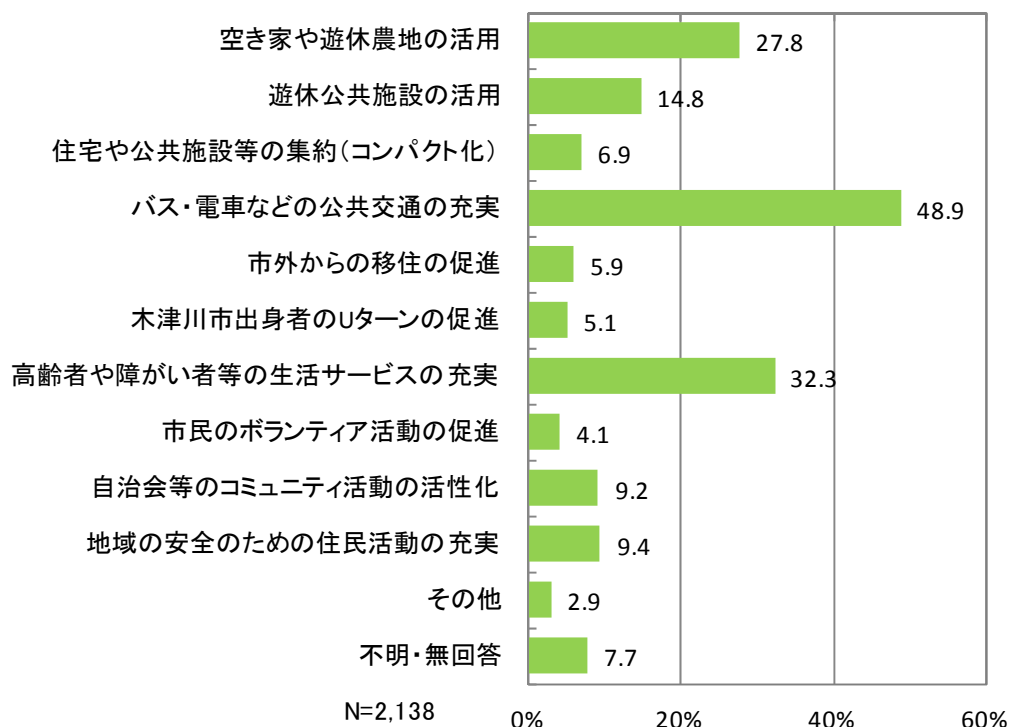


<ライフステージ別>



問 37 安心して定住しやすいまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。（あてはまるもの2つまでに○）

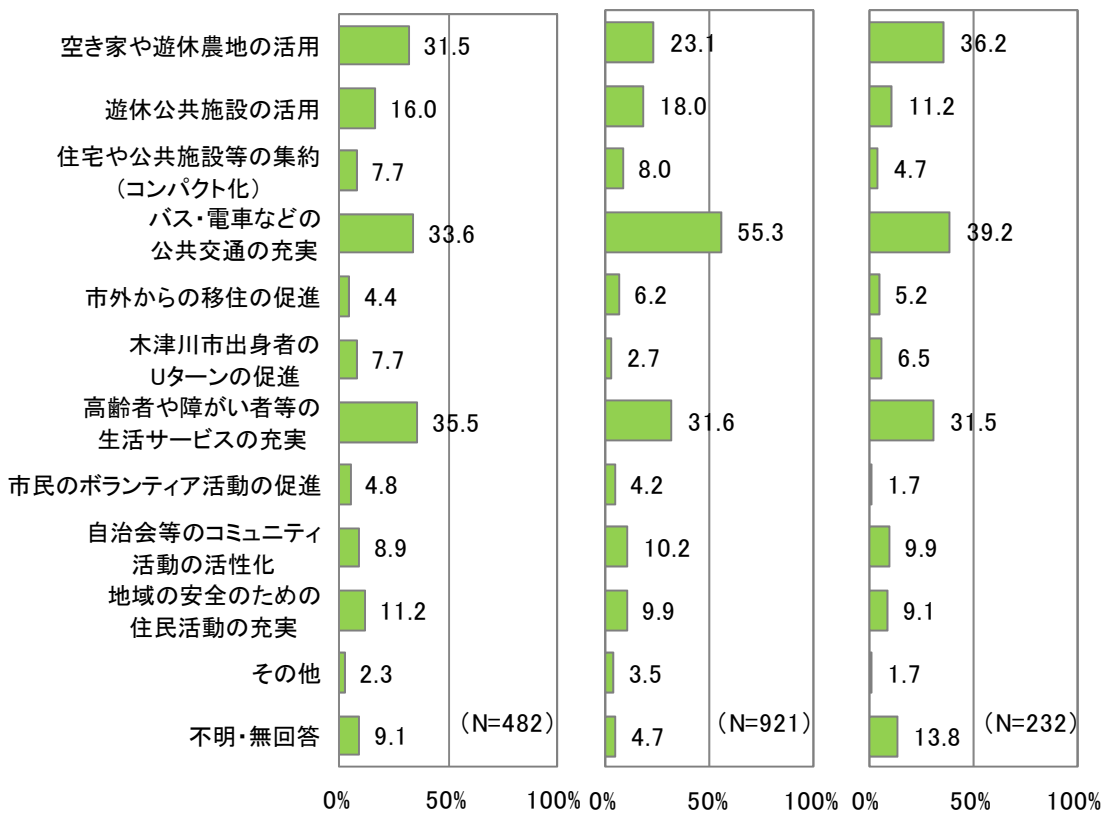
- 「バス・電車などの公共交通の充実」が48.9%と半数近くとなっている。
- 地域別では、木津地域（旧地区）では「高齢者や障がい者等の生活サービスの充実」が最も多いが、それ以外の地域では「バス・電車などの公共交通の充実」が多くなっている。



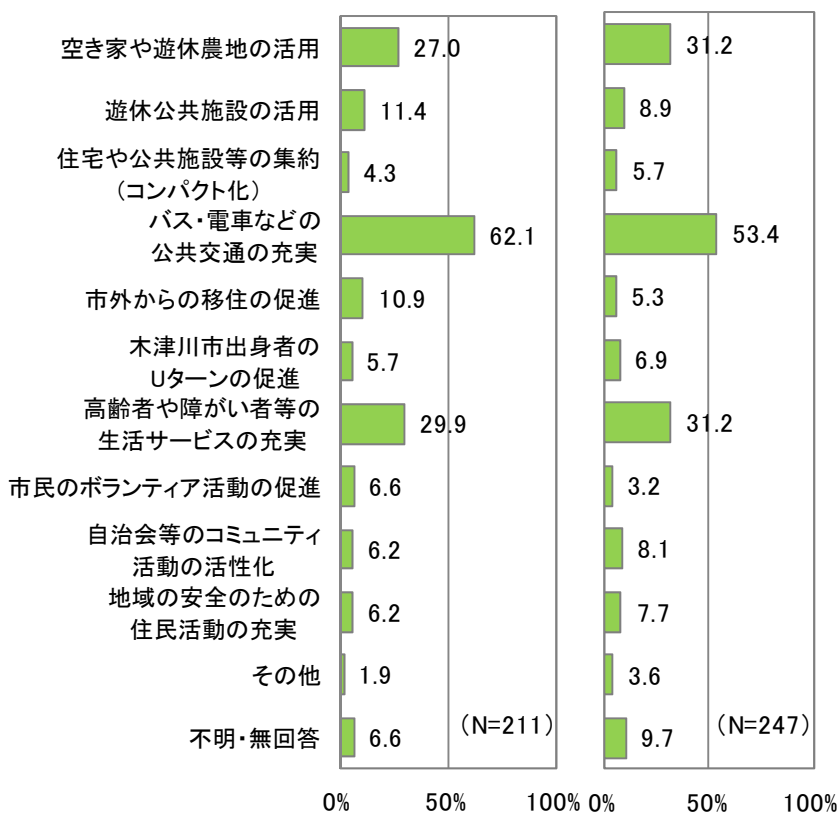
選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	空き家や遊休農地の活用	594	27.8
2	遊休公共施設の活用	317	14.8
3	住宅や公共施設等の集約(コンパクト化)	148	6.9
4	バス・電車などの公共交通の充実	1,045	48.9
5	市外からの移住の促進	127	5.9
6	木津川市出身者のUターンの促進	108	5.1
7	高齢者や障がい者等の生活サービスの充実	690	32.3
8	市民のボランティア活動の促進	88	4.1
9	自治会等のコミュニティ活動の活性化	197	9.2
10	地域の安全のための住民活動の充実	202	9.4
11	その他	63	2.9
	不明・無回答	165	7.7
合 計		2,138	100.0

<地域別>

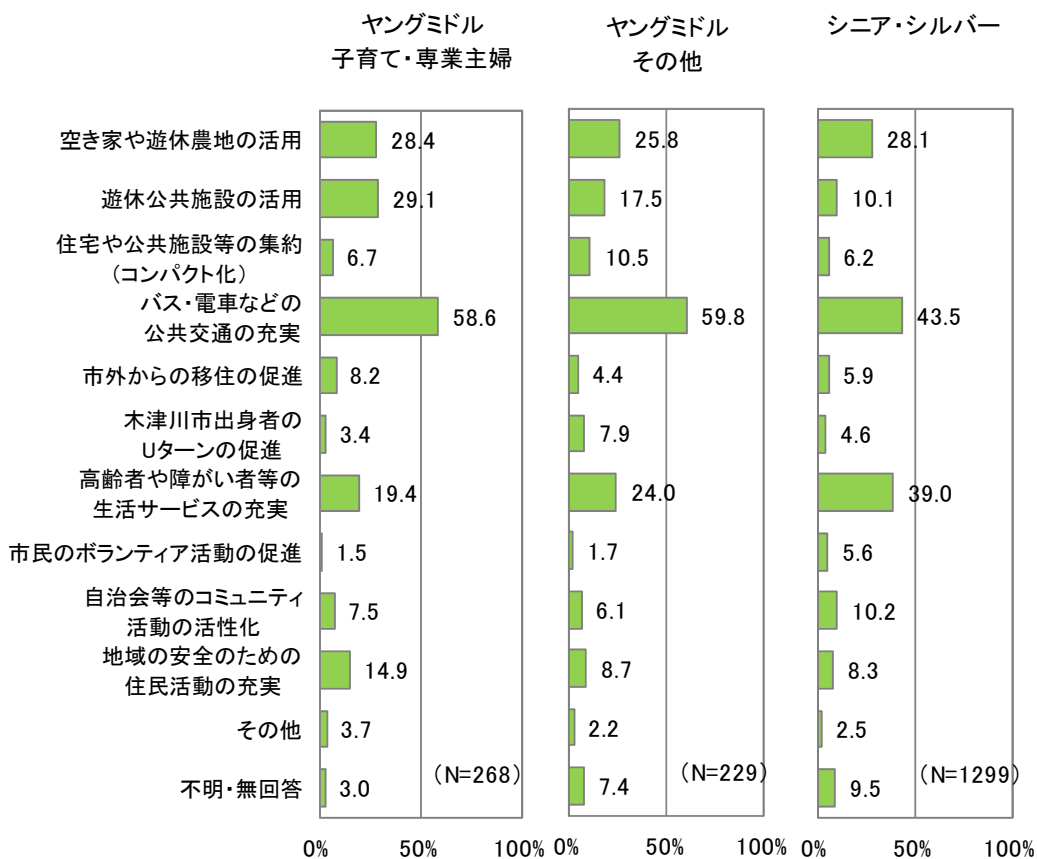
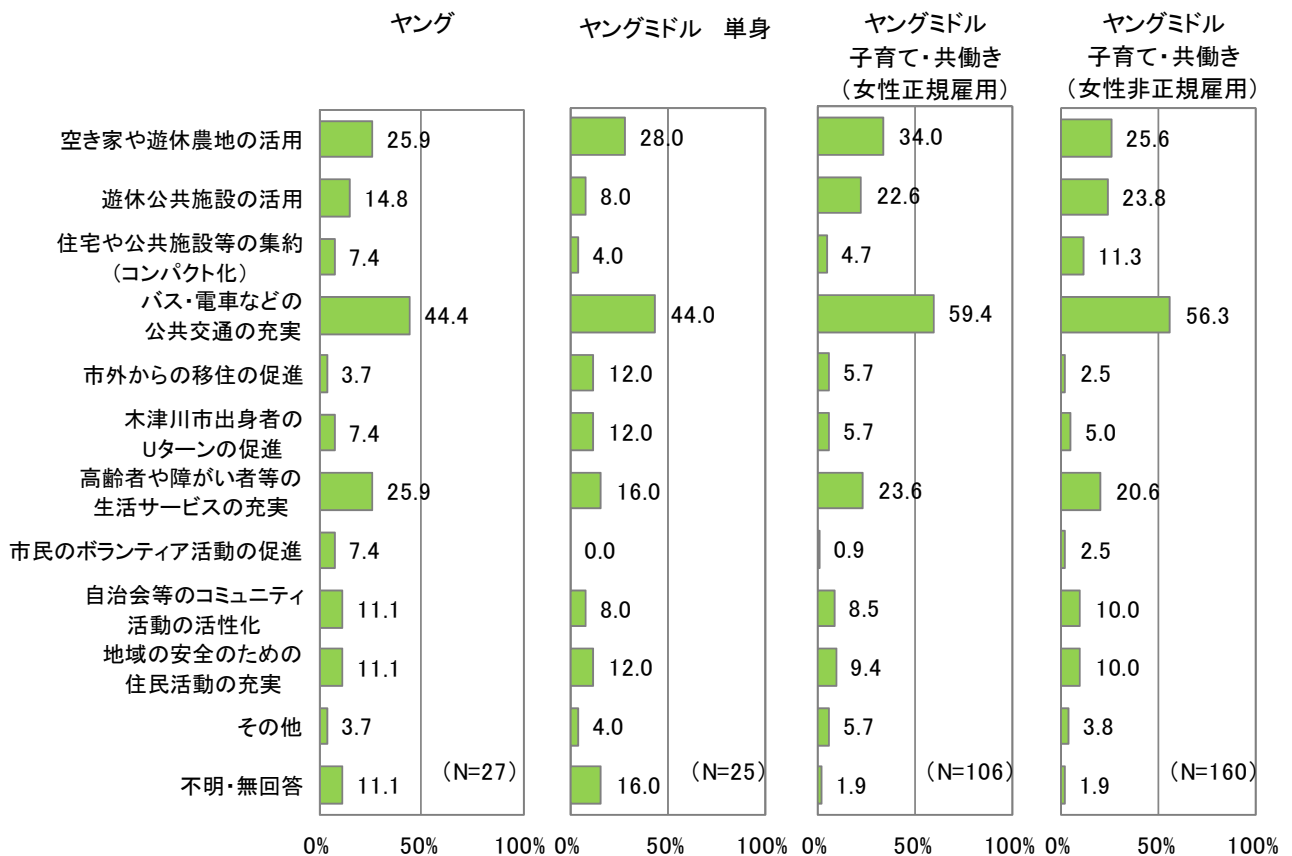
木津地域(旧地区) 木津地域(ニュータウン) 加茂地域(旧地区)



加茂地域(ニュータウン) 山城地域

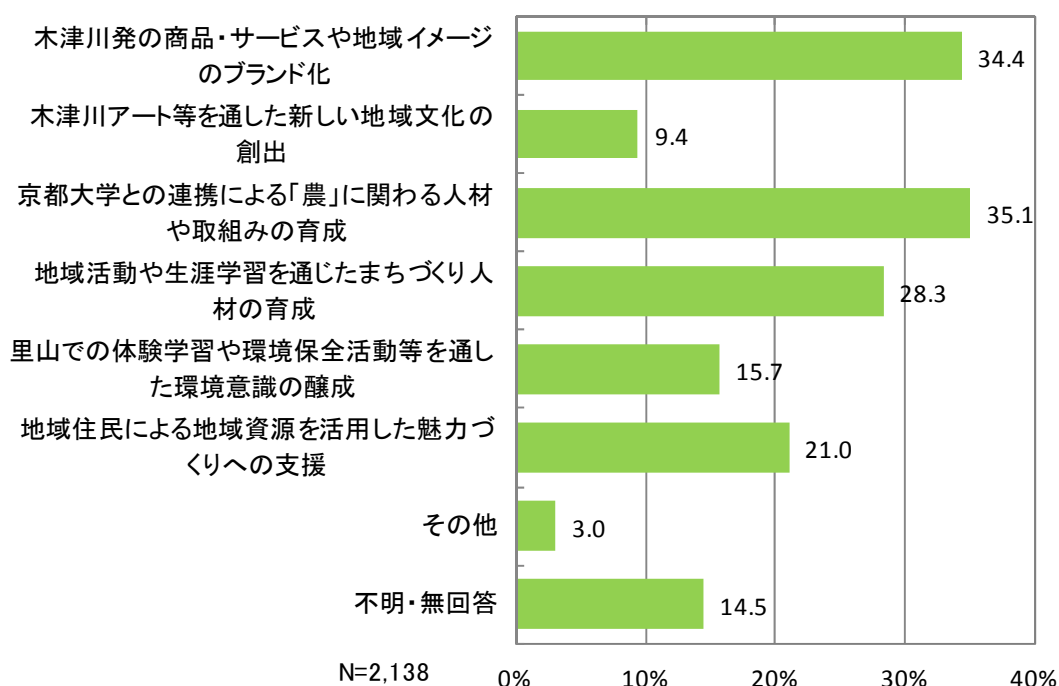


<ライフステージ別>



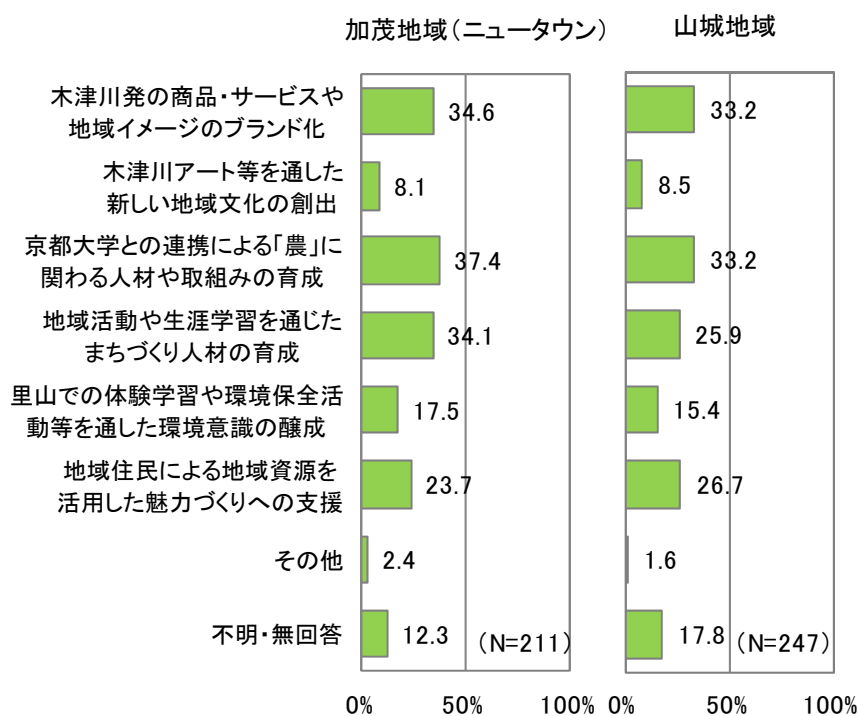
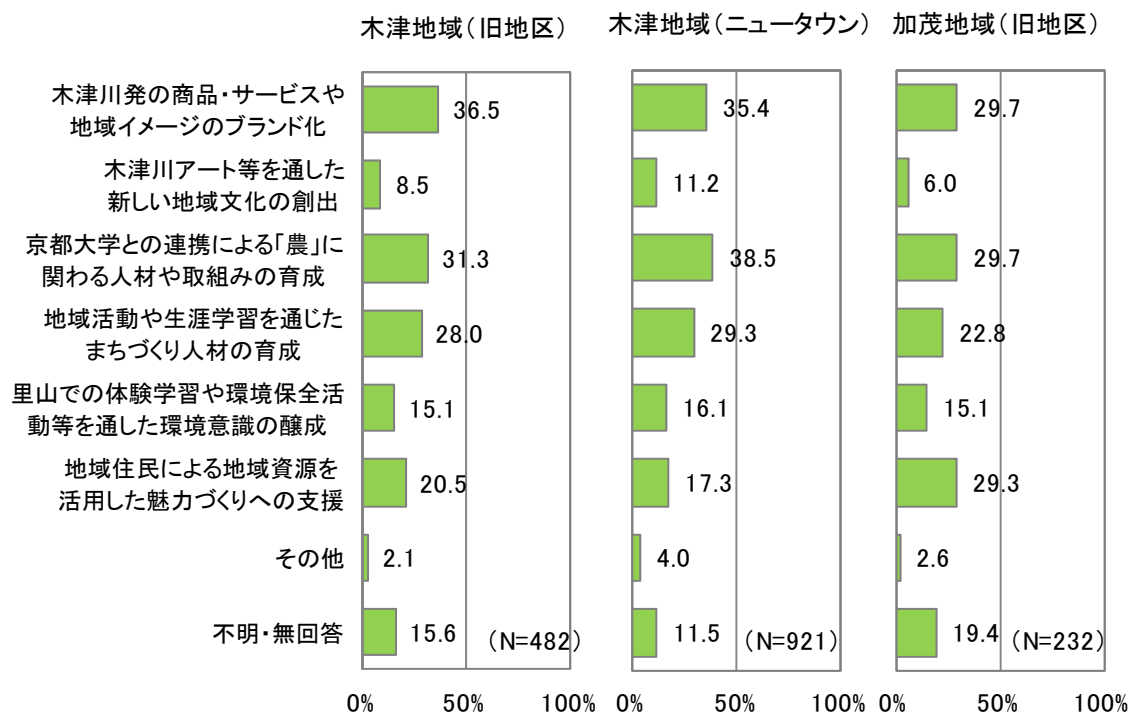
問 38 魅力が高く活力のあるまちづくりに取り組む人・地域を育てるために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの2つまでに○)

- 「京都大学との連携による「農」に関わる人材や取組みの育成」が 35.1%、「木津川発の商品・サービスや地域イメージのブランド化」34.4%の順となっている。

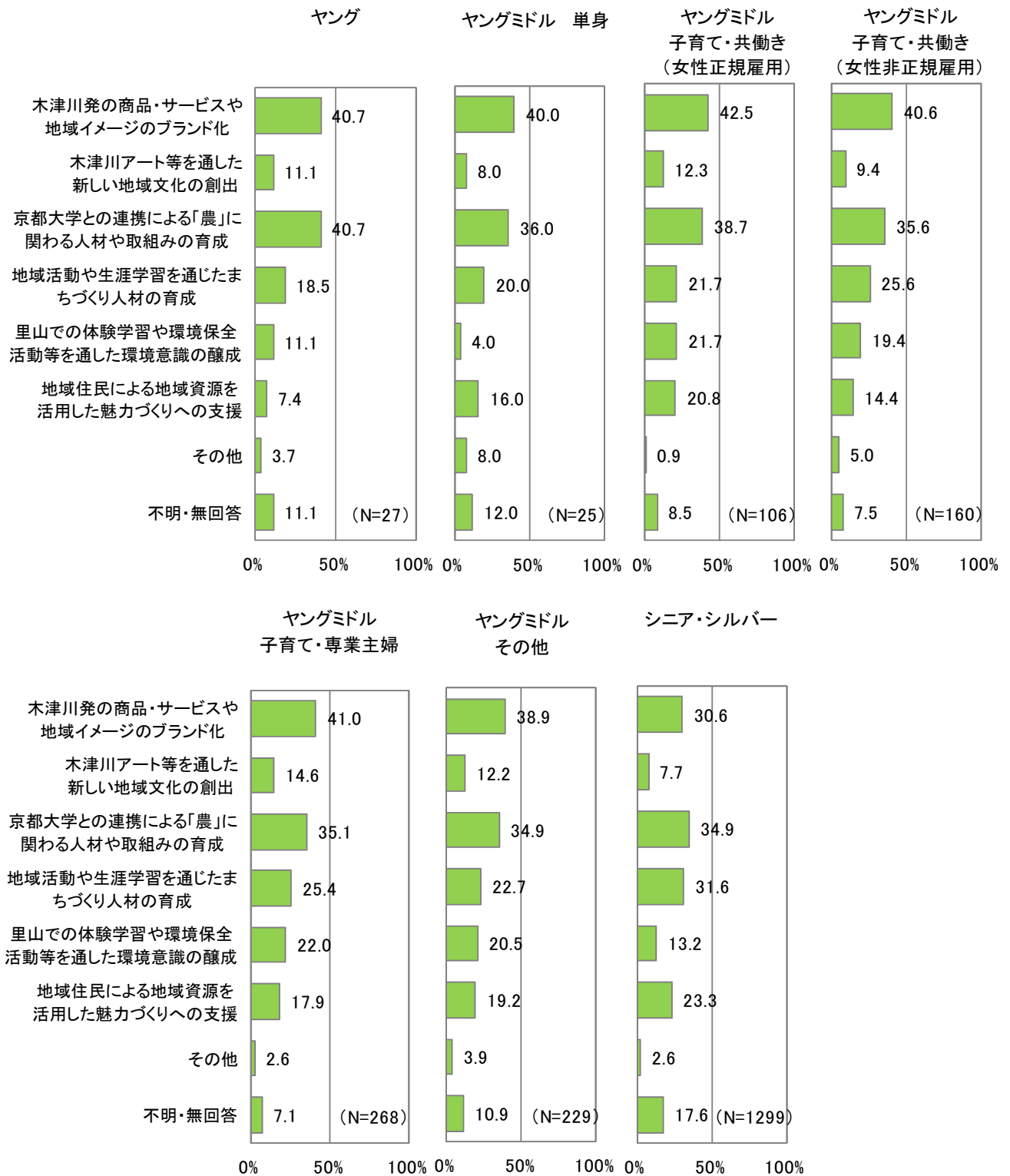


選択肢		回答数 (件)	割合 (%)
1	木津川発の商品・サービスや地域イメージのブランド化	735	34.4
2	木津川アート等を通じた新しい地域文化の創出	201	9.4
3	京都大学との連携による「農」に関わる人材や取組みの育成	750	35.1
4	地域活動や生涯学習を通じたまちづくり人材の育成	606	28.3
5	里山での体験学習や環境保全活動等を通じた環境意識の醸成	336	15.7
6	地域住民による地域資源を活用した魅力づくりへの支援	450	21.0
7	その他	64	3.0
	不明・無回答	310	14.5
合 計		2,138	100.0

<地域別>



<ライフステージ別>



問 39 木津川市が他都市に比べて誇れるところは何だと思われますか。【自由記述】

回答件数：971 件

※回答内容は、複数の分野にまたがっているため、件数の合計は回答件数と一致しない。

分 野	件数
自然環境	426
歴史・伝統・文化	176
交通利便性	83
生活利便性・住環境	70
子育て・教育環境	70
人口増加・若い世代が多い	68
まちなみ、まちの雰囲気	62
自然と都市との調和	59
行政サービスが充実	43
防犯安全性	42
農作物が豊富・地産地消	36
地域活動、市民気質	35
奈良・大阪・京都に近い	28
災害が少ない	27
学研都市	26
福祉サービスや医療体制	17
スポーツ観光イベント	10
その他	59

問 40 木津川市が他都市に比べて不足している点は何だと思えますか。【自由記述】

回答件数：1,153 件

※回答内容は、複数の分野にまたがっているため、件数の合計は回答件数と一致しない。

分 野	件数
公共交通	294
商業施設	175
公園、文化・スポーツ・公共施設	112
企業誘致、雇用の場の確保	106
行政サービス・施策	95
子育て・教育関連	86
福祉サービスや医療体制	66
道路整備	62
地域間交流、市民交流、一体感	57
知名度、アピール、シティブランド力	53
駅前整備、土地・住宅開発	48
ランドマーク、観光資源、イベント	43
メインとなるもの（産業、特産物等）	37
活力・活気	28
高齢者対策	28
インフラ整備（下水道等）	14
農業振興、農地活用	11
その他	156

問 41 木津川市の魅力を高めるアイデアなど、今後のまちづくりについて、ご意見等をお聞かせください。【自由記述】

回答件数：743 件

※回答内容は、複数の分野にまたがっているため、件数の合計は回答件数と一致しない。

分 野	件数
商業施設、集客施設、イベントの開催	143
行政の取組・施策、人材育成等	126
公共交通・道路整備	89
農業振興、特産物の産出	68
理想のまち、住みよいまちづくりについて	65
企業・大学誘致、雇用の確保、教育について	51
子育て・高齢者支援、福祉サービス	47
観光の促進	44
公共施設の充実	37
自然・木津川の活用、里山再生	36
駅前整備、土地・住宅開発	33
公園、キャンプ場、遊歩道等の整備	31
自治会活動、地域間交流	19
学研都市の活用	8
その他	71

1.11 調査に用いた調査票

木津川市のまち・ひと・しごと創生総合戦略に係る 市民アンケート調査

※該当する番号に○をつけ、()内には具体的数字や文字の記入をお願いします。

質問 A あなた自身について

問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢をお答えください。

() 歳

問3 あなたがお住まいの郵便番号(下4桁)をお答えください。

※郵便番号がわからない場合は、このアンケートの送付封筒の宛名に記載されていますので、その番号をお書きください。

619 - ()

問4 同居されている方をお答えください。(あてはまるもの すべて に○)

- | | | |
|----------------|----------|-----------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 配偶者 | 3. 子 |
| 4. 子の配偶者 | 5. 兄弟・姉妹 | 6. 父母・義父母 |
| 7. 祖父母 | 8. 孫 | |
| 9. その他(具体的に:) | | |

問5 あなたが最後に卒業した学校をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

※学生の方は、現在通っている学校をお答えください。

- | | | |
|----------------|---------|-----------|
| 1. 中学校 | 2. 高等学校 | 3. 高等専修学校 |
| 4. 高等専門学校・短期大学 | 5. 専門学校 | 6. 大学・大学院 |
| 7. その他(具体的に:) | | |

問6 あなたは現在、収入を伴う仕事をしていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

※現在、産休・育休・病休の方は「1. 仕事をしています」を選んでください。

※学生アルバイトは除きます。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 仕事をしています | 2. 家事専業 →質問 Bへ |
| 3. 学生 →質問 Bへ | 4. 無職 →質問 Bへ |

問7 あなたの現在の仕事内容をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | |
|--------------------------------------------------|
| 1. 農林漁業(農業、畜産、林業、漁業、植木職、造園師など) |
| 2. 保安職(警官、自衛官、守衛など) |
| 3. サービス職(料理人、理容師、クリーニング職、飲食店での接客、タクシー運転手、ヘルパーなど) |
| 4. 生産工程・労務職(大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など) |
| 5. 販売職(小売店主、販売店員、営業員、外交員など) |
| 6. 事務職(総務・企画事務、経理事務、営業事務、校正など) |
| 7. 管理職(会社役員、課長以上の管理職、駅長など) |
| 8. 専門職(医師、会計士、教員、看護師、保育士、社会福祉士など) |
| 9. その他(具体的に:) |

問 8 あなたの勤務地をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

1. 木津川市内
2. 京都府内の他市町村(市町村名:)
3. 京都府外(都道府県及び市町村名:)
4. 特定の勤務地はない

問 9 あなたの就業形態をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

1. 正社員・正職員 → 質問 C へ
2. アルバイト・パート → 副問 9-1 へ
3. 派遣社員 → 副問 9-1 へ
4. 嘱託、契約社員 → 副問 9-1 へ
5. 自営業主・自由業者 → 質問 C へ
6. その他(具体的に:) → 質問 C へ

副問 9-1 問 9 で「2」「3」「4」を選択された方に伺います。

正社員として就業しなかった理由は何ですか。(あてはまるもの 3 つまでに○)

1. 希望する企業や業種の正社員求人がなかった
2. 自分の資格や経験を活かせる正社員求人がなかった
3. 家事や育児・介護等と両立するため
4. 長期間働くつもりがない
5. 自分の都合のいい時間に働けるから
6. いきなり正社員として働くことに不安を感じるから
7. 仕事量や責任などの負担がちょうど良いから
8. 健康上の理由
9. その他(具体的に:)

→この質問に回答後は質問 C へ

質問 B 就職について

問 10 あなたは就職を希望していますか。(あてはまるもの 1 つに○)

1. 希望している
2. 希望していない → 質問 C へ

問 11 あなたは、木津川市内で就職したいと思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)

1. 木津川市内で就職したい
2. 木津川市内にこだわらないが、市内から通勤できる範囲で就職したい
(具体的に地名:)
3. 木津川市外へ引っ越しを伴う就職をしたい(具体的に地名:) → 副問 11-1 へ
4. 場所にはこだわらない
5. わからない

副問 11-1 問 11 で「3」を選択された方に伺います。

市外への引っ越しを伴う就職がしたい理由をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

1. 希望する企業や業種が多い
2. 賃金などの労働条件が良い
3. 大企業が多い
4. 視野を広げたい
5. 技術や能力を活かせる職場が多い
6. 都会で暮らしたい
7. 実家を離れて生活したい
8. 遊べる場所がある
9. その他(具体的に:)

問 12 あなたが、最も希望する仕事内容をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | |
|---------------------------------------------------|
| 1. 農林漁業 (農業、畜産、林業、漁業、植木職、造園師など) |
| 2. 保安職 (警官、自衛官、守衛など) |
| 3. サービス職 (料理人、理容師、クリーニング職、飲食店での接客、タクシー運転手、ヘルパーなど) |
| 4. 生産工程・労務職 (大工、家具職人、工場作業員、建築作業員、清掃員、トラック運転手など) |
| 5. 販売職 (小売店主、販売店員、営業員、外交員など) |
| 6. 事務職 (総務・企画事務、経理事務、営業事務、校正など) |
| 7. 専門職 (医師、会計士、教員、看護師、保育士、社会福祉士など) |
| 8. その他 (具体的に：) |

問 13 あなたが就職を考える際に重視する点をお答えください。(あてはまるもの 3 つまでに○)

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 希望の職種 | 2. 希望の業種 |
| 3. 勤務地 | 4. 賃金 |
| 5. 労働条件 (休日、勤務時間) | 6. 雇用形態 |
| 7. 自分に向いているか | 8. やりがい |
| 9. 会社の安定性・将来性 | |
| 10. その他 (具体的に：) | |

問 14 木津川市内での就職を増やすために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの 3 つまでに○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 企業誘致による雇用の場の創出 | 2. 求人拡大のための支援 |
| 3. 賃金等の労働条件改善の働きかけ | 4. 就職情報の提供 |
| 5. 職業訓練機会の充実 | 6. 就労体験、インターンシップの充実 |
| 7. 合同就職説明会の開催 | 8. 就職活動に関する講座やセミナーの開催 |
| 9. その他 (具体的に：) | |

質問 C 結婚について

問 15 あなたは、現在結婚していますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 結婚している →副問 15-1 へ | 2. 結婚していない |
|----------------------|------------|

副問 15-1 問 15 で「1」を選択された方に伺います。

あなたの配偶者の就業形態をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. アルバイト・パート |
| 3. 派遣社員 | 4. 嘱託、契約社員 |
| 5. 自営業主・自由業者 | 6. 主夫・主婦 |
| 7. 無職 | |
| 8. その他 (具体的に：) | |

→この質問に回答後は質問 D へ

問 16 あなたは、将来結婚したいと思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|---------------|----------------------------|
| 1. すぐにでも結婚したい | 2. 2～3 年以内に結婚したい |
| 3. いずれは結婚したい | 4. 一生結婚するつもりはない →副問 16-1 へ |
| 5. 現時点ではわからない | |

副問 16-1 問 16 で「4」を選択された方に伺います。

あなたが、一生結婚するつもりがない理由をお答えください。(あてはまるもの 3 つまでに○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 経済的負担が大きくなる | 2. 結婚相手として適当な人がいない |
| 3. 恋愛が面倒、うまく付き合えない | 4. 経済的なこと以外の責任が重くなる |
| 5. 自分の時間を失いたくない | 6. 仕事との両立が難しい |
| 7. 雇用が不安定 | 8. 親や周囲の同意 |
| 9. 姓を変えるのに抵抗がある | 10. 子育てが大変そう |
| 11. その他(具体的に： |) |

→この質問に回答後は質問 D へ

問 17 あなたは、何歳くらいで結婚したいと思いますか。

() 歳

問 18 結婚をする際に障害となると思われることをお答えください。(あてはまるもの 3 つまでに○)

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. 経済的に余裕がない | 2. 職業や仕事上の問題 |
| 3. 希望の条件を満たす相手にめぐり会うこと | 4. 親との同居や扶養 |
| 5. 親や周囲の承諾 | 6. 年齢上的こと |
| 7. 健康上的こと | 8. 結婚のための住居 |
| 9. その他(具体的に： |) |
| 10. 特にない | |

問 19 結婚を促進するために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。
(あてはまるもの 3 つまでに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 出会いの場・婚活イベントの提供 | 2. 新婚夫婦を対象とした住宅情報の提供 |
| 3. 結婚相談窓口の設置 | 4. 交際術、ファッション、マナー講座の開催 |
| 5. 結婚観・人生観等についての講座等の開催 | |
| 6. その他(具体的に： |) |
| 7. 特にない | |

質問 D 出産・子育てについて

問 20 あなたには、現在何人のお子さんがいますか。

※お子さんがいない方は、「0」とお答えください。

() 人

問 21 あなたは、最終的に何人のお子さんを持つ予定ですか。現在いるお子さんも含めた数をお答えください。

※子どもを持つつもりがない方は、「0」とお答えください。

() 人

問 22 問 21 でお答えになったお子さんの数は、理想の数ですか。

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 1. 理想の子ども的人数と同じ | 2. 理想の人数よりも少ない →副問 22-1、22-2 へ |
| 3. 理想の人数よりも多い | |

副問 22-1 問 22 で「2」を選ばれた方に伺います。
あなたが考える理想的なお子さんの数をお答えください。

() 人

副問 22-2 問 22 で「2」を選ばれた方に伺います。
実際に予定するお子さんの数（問 21）が、理想的なお子さんの数（副問 22-1）よりも少ない原因として近いものをお答えください。（あてはまるもの 3 つまでに○）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 収入が不安定 | 2. 子育てや教育にお金がかかる |
| 3. 家が狭い | 4. 自分の仕事に差し支える |
| 5. 家事・育児の協力者がいない | 6. 保育所など子どもの預け先がない |
| 7. 今いる子どもに手がかかる | 8. 自分や夫婦の生活を大切にしたい |
| 9. 年齢上の理由 | 10. 健康上の理由 |
| 11. その他（具体的に：) | |

問 23 木津川市は一般的に子育てがしやすい環境だと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とてもそう思う | 2. ややそう思う |
| 3. あまりそう思わない | 4. まったくそう思わない |
| 5. どちらともいえない | |

問 24 妊娠・出産や子育てのために、あなたが行政に望む支援策をお答えください。（あてはまるもの 3 つまでに○）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 若い世代の経済的安定化 | 2. 子育てと仕事を両立できる職場環境 |
| 3. 不妊治療に対する支援 | 4. 妊娠・出産、子育てのための医療体制 |
| 5. 乳幼児検診などの保健サービスの充実 | 6. 子育てに関する経済的支援 |
| 7. 保育所、幼稚園の充実 | 8. 一時預かりの充実 |
| 9. 子育てに関する情報提供 | 10. 子育て世帯の住宅面の支援 |
| 11. 子育てに関する相談支援 | 12. 学力向上に向けた支援の充実 |
| 13. その他（具体的に：) | |

問 25 妊娠・出産や子育てのために、あなたが困っていることがありましたら、お書きください。
【自由記述】

質問 E お住まいについて

問 26 あなたは、木津川市にお住まいになって何年になりますか。（あてはまるもの 1 つに○）

- | | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1 年以上 5 年未満 | 3. 5 年以上 10 年未満 |
| 4. 10 年以上 20 年未満 | 5. 20 年以上 | |

問 27 現在のお住まいの形態をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 持ち家（一戸建て） | 2. 持ち家（集合住宅） |
| 3. 民間賃貸住宅（一戸建て） | 4. 民間賃貸住宅（集合住宅） |
| 5. 市営・府営住宅 | 6. 社宅・官舎・寮 |
| 7. その他（具体的に： | ） |

問 28 現在のお住まいに生活されて何年になりますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1 年以上 5 年未満 | 3. 5 年以上 10 年未満 |
| 4. 10 年以上 20 年未満 | 5. 20 年以上 | |

問 29 現在のお住まいについてお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 生まれた時からずっと住んでいる | |
| 2. 木津川市内の他の場所から転居した | →副問 29-1、29-2 へ |
| 3. 市外から転入した（市町村名： | ） →副問 29-1、29-2 へ |

副問 29-1 問 29 で「2」「3」を選ばれた方に伺います。

現在のお住まいに転居された理由は何ですか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------|
| 1. 入学・進学 | 2. 就職 | 3. 転職 |
| 4. 仕事の都合（転勤・退職） | 5. 住宅事情 | 6. 結婚 |
| 7. 離婚 | 8. 健康上の理由 | 9. 親族との同居のため |
| 10. 親族の近くに住むため | 11. その他（具体的に： | ） |

副問 29-2 問 29 で「2」「3」を選ばれた方に伺います。

現在のお住まいに住まわれることを決めた要因は何ですか。(あてはまるもの 3 つまでに○)

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| 1. 通勤・通学に便利 | 2. 職場や学校が近い | 3. 交通の便が良い |
| 4. 不動産や家賃の価格が手頃 | 5. 自然環境が良い | 6. 子育て環境が充実 |
| 7. 教育環境が充実 | 8. 医療施設が充実 | 9. 福祉施策が充実 |
| 10. 買い物が便利 | 11. 治安が良い | 12. 地域の雰囲気が良い |
| 13. 同世代が多い | 14. 親族や知人が近くにいる | 15. わからない |
| 16. その他（具体的に： | | ） |

質問 F 市内での定住意向について

問 30 あなたは、今後のお住まいについてどのようにお考えですか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. 現在の住まいに住み続けたい | →副問 30-1 へ |
| 2. 木津川市内の他の場所に引っ越したい（引っ越す予定） | →副問 30-1 へ |
| 3. 市外に引っ越したい（引っ越す予定） | →副問 30-1 へ |
| 4. 一旦市外に引っ越すが、いずれは戻りたい | →副問 30-1 へ |
| 5. わからない | |

副問 30-1 問 30 で「1」～「4」を選ばれた方に伺います。

その理由をできるだけ詳しくお答えください。【自由記述】

質問 G 老後の暮らし方について ※65 歳以上の方は、現在の暮らし方についてお答えください

問 31 あなたが理想とする老後 (65 歳以降) の暮らし方をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1. 仕事をせずに、趣味や習い事を楽しみ、悠々自適に過ごす | |
| 2. できるだけ長く、現役で働く | 3. 家族と一緒に時間を大切に過ごす |
| 4. 地域活動やボランティアなど、社会の役に立つ | 5. わからない |
| 6. その他 (具体的に : |) |

問 32 あなたは、老後の暮らしに不安を感じていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

※65 歳以上の方は、今後の暮らしの不安についてお答えください。

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. とても不安 | 2. 不安を感じる |
| 3. 少しだけ不安 | 4. 不安を感じない →質問 Hへ |

問 33 あなたが、老後の暮らしで不安に感じることは何ですか。(あてはまるもの 3 つまでに○)

※65 歳以上の方は、今後の暮らしで不安に感じることにについてお答えください。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 公的年金だけでは生活できない | 2. 生活できるだけの貯蓄 (見込み) がない |
| 3. 働ける場所がない | 4. 病気・健康面が心配 |
| 5. 自分自身の介護 | 6. 親・その他親族の介護 |
| 7. 子ども・孫の面倒 | |
| 8. その他 (具体的に : |) |

質問 H 木津川市の将来について

問 34 安定した仕事につくことのできるまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの 2 つまでに○)

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 新規産業の創出や起業の促進 | 2. 既存の地域産業 (農・工・商) の活性化 |
| 3. 求人情報提供や企業とのマッチングなどの就業支援 | 4. 職業訓練等を通じた人材育成 |
| 5. 後継者の育成 | 6. 女性が働く場の拡大 |
| 7. 若者が働く場の拡大 | 8. 中高年齢者が働く場の拡大 |
| 9. その他 (具体的に : |) |

問 35 市内外の人が訪れ交流し、楽しむことのできるまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの 2 つまでに○)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 市内を回遊する観光モデルコースの作成 | 2. 地域の観光資源の発掘・見直し・活用 |
| 3. まちの魅力を活かしたイベントの開催 | 4. 文化や産業を活かした体験の機会づくり |
| 5. 市民のおもてなし意識の醸成や体制づくり | 6. 外国人の来訪に向けた取組み |
| 7. SNS等を活用した情報提供手段の整備 | |
| 8. その他 (具体的に : |) |

問 36 結婚・出産・子育てしやすいまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの 2 つまでに○)

- | |
|------------------------------------------|
| 1. 正規雇用の推進などの経済的安定化 |
| 2. 結婚につながる出会いの機会の創出 |
| 3. 仕事と家庭の両立 (ワーク・ライフ・バランス) 支援 |
| 4. 妊娠・出産・子育てのための相談体制や医療体制の充実 |
| 5. 保育料、幼児教育費、子ども医療費などの経済的負担の軽減 |
| 6. 働きながら子育てできる環境の整備 (保育所、一時保育、放課後児童クラブ等) |
| 7. 子どもの個性を伸ばす教育の充実 |
| 8. その他 (具体的に : |

問 37 安心して定住しやすいまちづくりのために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの2つまでに○)

1. 空き家や遊休農地の活用
2. 遊休公共施設の活用
3. 住宅や公共施設等の集約（コンパクト化）
4. バス・電車などの公共交通の充実
5. 市外からの移住の促進
6. 木津川市出身者のＵターンの促進
7. 高齢者や障がい者等の生活サービスの充実
8. 市民のボランティア活動の促進
9. 自治会等のコミュニティ活動の活性化
10. 地域の安全のための住民活動の充実
11. その他（具体的に：

問 38 魅力が高く活力のあるまちづくりに取り組む人・地域を育てるために、今後どのようなことを重視した支援策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるもの2つまでに○)

1. 木津川発の商品・サービスや地域イメージのブランド化
2. 木津川アート等を通じた新しい地域文化の創出
3. 京都大学との連携による「農」に関わる人材や取り組みの育成
※平成 28 年に京都大学大学院農学研究科附属農場が城山台へ移転予定
4. 地域活動や生涯学習を通じたまちづくり人材の育成
5. 里山での体験学習や環境保全活動等を通じた環境意識の醸成
6. 地域住民による地域資源を活用した魅力づくりへの支援
7. その他（具体的に：

問 39 木津川市が他都市に比べて誇れるところは何だと思いますか。【自由記述】

--

問 40 木津川市が他都市に比べて不足している点は何だと思いますか。【自由記述】

問 41 木津川市の魅力を高めるアイデアなど、今後のまちづくりについて、ご意見等をお聞かせください。【自由記述】

--

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、6月16日（火）までに、
同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函（切手不要）をお願いします。

2. まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るワークショップ

2.1 ワークショップ実施概要

2.1.1 ワークショップの目的

○木津川市創生総合戦略作成におけるこれまでの経過の説明を行うとともに、まちづくりや事業で活躍している参加者から、まちの現状や課題について、また、まち・ひと・しごとの創生に係る取組みアイデアについての意見交換を行うため、そして意見交換を通じて多様な分野で活躍する参加者の分野間交流を行うために実施しました。

2.1.2 ワークショップ実施概要

表 2-1 ワークショップの実施概要

項目	詳細
名称	木津川市まち・まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るワークショップ
目的	第1回：(1)木津川市創生総合戦略作成におけるこれまでの経過の説明 (2)まちづくりや事業で活躍している参加者から、まちの現状や課題について、まち・ひと・しごとの創生に係る取組みアイデアの提案についての意見交換 (3)多様な分野で活躍する参加者の分野間交流 第2回：第1回ワークショップで出た意見に対して、 (1)あなたのデブール（グループ）でできる取組み (2)一人ひとりがどのように関わっていただけるか
実施日時	第1回：平成27年7月7日 第2回：平成27年8月7日
参加者	農業、商工業、地場産業、子育て・教育、子育てサロン経営者、観光、郷土史、魅力発信、金融機関、学研企業の各分野から計31人

2.2 ワークショップからの意見

2.2.1 第1回のまとめ

表 2-2 参加者からの主な意見（要約・抜粋）

分野	意見
市の現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○京都・大阪・奈良に近いポテンシャルを活かせていない ○観光関連の PR、行政情報の市内発信が課題 ○観光や市民活動の「面白さ」が伝わっていない ○未活用の空き家や農地が残っている
拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○市外からの観光客と市内の各地を結ぶ拠点機能が不足 ○地域活動拠点（若者が集える場所、子育て活動の拠点等）が必要 ○地場産業の PR や特産品の販売拠点（道の駅など）が必要
観光・PR	<ul style="list-style-type: none"> ○豊富な観光資源の間の連携と PR が不足している・わかりにくい ○宿泊施設など、市外からの来訪者の受入体制が無い ○観光用途にもコミュニティバスを活用してはどうか
雇用創出	<ul style="list-style-type: none"> ○進出可能な土地が少ない。企業の進出が容易となるよう都市計画や規制・誘導の仕組みの見直しが必要 ○荒廃農地等の活用を推進するとともに、特産品の多品目化が必要
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○地域活動にかかるプロセス（確認→予約→活動）のワンストップ化 ○HP 等を活用し、民間も含めた分野別情報のわかりやすい一元化を
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ○市民は、初めから行政に頼らず、自力で頑張ることが重要 ○行政は、取組みがしやすい土壌を作り、活動を支援することが重要 ○どのような工夫をすれば実現できるかを考えることが重要

2.2.2 第1回ワークショップでの全意見

A	拠点作り	イベントする場所がない 若者たちが参加できる環境 道の駅のような販売場所 地域・行政・企業が連携 木津川を芝生公園化 みんなが集えるイベントの開催
	子育て	子育て支援アプリ 情報を受ける・得るための手段 情報の一本化 市の情報にまとまりがない
	情報	SNS発信 広報の配布等の手伝い（子育て） 発信場所の拡充 補助金・助成金の拡充 市内で知らないところがある 旧3町それぞれつながりがある 転入者に市政や様々な便利な取組の情報提供
	魅力発信	おいしい野菜や産物を転入者にプレゼント 転出者にも最後のプレゼント おいしい野菜を食べたい、食べられる農業
	雇用創出	地元雇用をすすめている（7割） 市に住む 税金を納める 事業を拡大するにあたり 市内に土地がない 線引きを見直す 荒廃農地 市外の人が所有する農地が多い 農業を拡大したい 雇用が必要 助成金を受けたいが制限が厳しい

B	空家対策⇒カフェ⇒女性・ゆとり時間 農業で地域に住む⇒子供と娘に良いまち 各会社はしっかりと方針がある！！ 住む人を増やす⇒人を呼ぶ 木津とは、何があるのか浮かばない！ 外から見るのが大切！ 観光バスで相楽神社 駐車場問題⇒お金を落とすシステム ハワイは人によって造られた観光地 学研都市 市境を超えた取組を！！ 人を呼ぶ ⇒ ないものを求める ⇒ メイン（カフェ・レストラン） ⇒ 空家の利用 ⇒ 行政のサポート 市内をうろうろしてもらおう大切さ 情報発信 福寿園が市内にあるとは思わなかった 女性を呼べば多くの人が来る ターゲットは女性 ふすま紙と観光 女性の口コミの大切さ 金融⇒地場産業を 地域に根ざす金融 歴史資源をどのようにつなぐのかが大切！！ 公共施設で観光でお茶も出せない まちづくりのプロを呼ぶ いつもとは違った目で見られる人が必要！ 「当尾の里」もっと自由な放送で市が考えるべき！ 横の連絡ができるシステムが必要！ 全体をつなぐキャッチコピーが必要！ 農業と空家の対策 税と斡旋（仲介） 文化資源をどう守っているか 草刈など今後維持できない 瓶原地区には観光地という意識がない 交通インフラを整備（道） できないと考えるので…どうしたらできるのか考えることが必要 行政が行う取組は面白くない 木津川市はどんなまち？ 文化財は地域特性である 何かするときは法的な規制が出る 市民が動くことが一番大切←行政が動く！！
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

C	市の特性	織物壁紙 現状大半はビニール（安価） ふすま紙（織物） ベースは全国8割シェア 中国ですごく売れている 日本生活文化の取り込み
		農業 スーパーも地元野菜を扱ってほしい（地産地消） 売場がないと六次産業化も困難 客に来てもらうため道の駅 木津川を知ってもらおうブランド
		和束茶ブランド 人気が上がっている 外国人にアピールできるのでは 日本人も多い（こだわりの人） シェアハウス山水で暮らすetc お茶屋の通りを活用
		ブランド化 京都の山城を 「山城ネギ」京野菜九条ネギに負けないもの タケノコ焼徳島ではあまり売れない、京都の強み 「和束茶」は成功？
		ブランド発信 地域づくりに取り組む人の顔合わせ、マッチング 重要←行政の役割
	農工商・ 生産物の 発信と確立	異業種の出会い イベント マスコミ
		京都銀行 ビジネスマッチング 海外でもやっている 京都ブランドの育成
	市の課題	道の駅（にぎわい市場）実現は？ 類似店あったが閉めた 個人では持続無理 専門（ex.ネギ）だけでは魅力不足 少量多品種が必要←木津川は多い 農家にすれば道の駅は商品の納入、回収が手間 →集荷場のような拠点があれば良い→運営母体が課題
		商品を作れるが売場がない 売り出すためにイベント、マスコミを活用するために →個人発信だけでなく行政からの発信、場の提供等が重要
		立地は良いのに歴史・文化財多くPR不足 当尾でも資源はあるが未活用 当尾小跡地を地元野菜販売等で活用できないか
	国際化・ 観光化	強み 災害無 ローカルさ 広島、長崎のように逆手にとって売り出せないか
		空家増加（木津川で） 3町合併で地域差 山城は高齢化が進んでいる →大手スーパーで活性化 住民増加期待 閉店もあり年寄りには困っている
		国際交流協会 国際交流の観点不足 インバウンド観光 都会より田舎を好む外国人が多い（日本の生活） 木津川には見るべきところが多い（お茶、京大農園etc） 空家を活用 外国人住民実績あり
		外国都市との連携が木津川市はゼロ 現状はサンタモニカ市（中学生交流） →民間ベース 行政ベースとできないか？ 人口の5～6倍観光客 ノウハウを学べるが
		サンタモニカ中学生 滞在：加茂山の家（3日）＋ホームステイ（3日） 木津川市内、京都、奈良etc巡る 布団生活を喜ぶ

D		宿泊施設がない
		当尾地区の観光整備
		昼食店がない
		恭仁京の認知度が低い
		土産がない
		付加価値
		キャッチコピー
		木津←気づいた、気づけるか
		「京都」の名称を活用
		「奈良」の名称を活用
		京都⇄奈良
		→観光客にPR
		災害が少ない（国宝が多い）
		山城国一揆の歴史活用
		おにぎり
		野菜スイーツ
		健康を売りにしたスイーツ
		ソフトクリーム、ワイン
		サツマイモ、お茶、柿、ぶどう、こぼろ、大根

E	めざす姿	面白いことを面白いと伝えられる、わかるまちがまず目標
	PR	観光地のPR 通りすぎりではなく、お金が落ちる国宝級がたくさんあるのに 木津川アート 観光協会 各々が個別にPRしても効果薄い わかりやすい広報媒体がない 頑張っている人の顔がわからない もっと知りたい 駅は高価、掲示板 書類は住所ばかりでマップがほしい わかりにくい 分野別情報の一元化 ここを見れば時間がなくてもすぐわかるよう 子育て関係がワンストップでわかるHP 民間の情報もすぐわかるよう 子育て関連の空き状況、活用内容の一元化 もっと活用しやすく 支援活動スペースとして活用 情報の集約 ドキドキできる場所 農協はなやか市 夏休みは森林公園（バンガローなど） 市外の人には人気 市内の人は知らない
	拠点	拠点となる施設など 公園など 道の駅新設 古民家が活用されていない 耐震問題がネックで取組困難 旧商工会館が活用されていない（ストックの活用） 若い人にリノベーションして活用してもらおう 見本市として活用 観光協会を設置 cafeランタナ 客の心を掴んでいる 周辺エリアの活用 藤原さんの倉庫 アジアンテイストで怪しい・面白そう Bガーデンとして活用できないか 子育てママさんの集いの場として 市民が手作りで形作っていけるように 地元で支えてきた小さな祭りを受け継いでいく 小さなコミュニティを盛り上げ、地域の住民が体感しに行く 個々それぞれの魅力を育てる 土壌づくり→行政がやる→市民、自分たち 行政を頼らない 自分たちで面白くすれば行政は後からついてくる 木津川アートのように
	こんなこと したい	農業のまちなのに 地産地消・市場などの場 ごみ減量推進が大変、人手不足 分別も面白いが伝わっていない 婚活 花嫁行列を最終的にはやりたい 復活 行政巻き込み 河川レンジャー バードウォッチング 木津川の魅力
	まちづくり	将来、山城・加茂の自然が宝物となる時代が必ず来る メリハリのある景観形成・都市計画ができれば

2.2.3 第2回のまとめ

表 2-3 参加者からの主な意見（要約・抜粋）

分野	意見
婚活	<ul style="list-style-type: none"> ○「婚活」の名称イメージが良くないので変えたい。 ○サバイバルゲーム、断食パーティ、山登りなどの婚活事業の開催 →阪神淡路大震災の年に子どもの数が多くなった。命の危険が迫ると子どもの数が増える傾向にある。 【花嫁行例の復活】 ○ブライダル業界と連携し、前撮りの撮影場所の提供。 例：茶畑、桜、あじさい、恭仁宮跡、恭仁小など ○抽選で募集し、成果をPRすれば人が増える。
生きがい	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者のパートナー探し、お茶友達グループづくり。 →高齢者を孤立させないことが大切。
農業	<ul style="list-style-type: none"> ○農家仲間に声をかければ色々な野菜が揃う。パンやラスクを作られている方と連携し、ねぎラスクやお茶ラスクの開発・販売ができる。また、子育てサークルとも連携することで、活性化が図ることができる。 ○農産物をブランド化して、流通を図ることも良いが、地産地消が大切と考えている。適正価格で地元流通したい。 ○食育の取組み。 →嫌いな食べ物を皆で楽しく食べれば、食べられるようになるのでは。 ○休耕地の活用。 →若い人に来ていただく。 ○観光と農産物のコラボによる活性化。 →実行するための人材育成が大切。
観光・PR	<ul style="list-style-type: none"> ○「道の駅」を福祉施設として運営できないか。 →就労支援、雇用支援となる。 ○当尾地域の活性化 →空き家カフェで、特産物などを販売できる。 吊り店の再生。漬物づくりなど。 ○子育て世代を対象とした観光イベントの開催。 →当尾のゴボウ、梅谷のダイコン、鹿背山の柿などを販売する横で、食べられるようにする取組み（マルシェ）をしたい。また、子育てサロンも併設する。 ○木津川で遊べるようなイベント・整備。 ○テーマを選定。【No.1 よりオンリーワン】 →歴史的文化遺産は真似が出来ない。 恭仁京：風水が良い（天皇がいたところ）。星が綺麗。 ○浄瑠璃寺、岩船寺など個々ではなく、面で繋いでPR。 →パワースポットのものをアピール。歴史物語などの制作。 神秘的なもの（〇〇から見て△△は日の出の方向…など）
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもにとって良い環境である。 →田舎を感じることができる。奈良市と連携も可能。通勤・通学に便利。 ○住み続けられるまちである。 ○田舎過ぎず、都会過ぎずちょうど良いことをアピール。 ○子どもたちに、歴史・文化を教え、まちの愛着を深める。
情報発信	○体験学習などでリーダーを育成する。
創業支援	○クラウドファンディング、金融機関による支援。
空き家	<ul style="list-style-type: none"> ○人と人との絆 →空き家に魅力を感じて来られる年配の方も多い。 ○若い世代と年配の世代との交流、新旧住民の交流が大切。 →アスパの前に人が集まってきている。 宅地開発された場所であるため、住みやすい。集落が形成されている地域には、後から入りづらい点もある。

2.2.4 第2回ワークショップでの全意見

班	分野	意見
A (子育て環境 / 観光PR)	子育て環境	木津川市は田舎すぎず都会すぎず調度良い
	観光PR/木津川ブランド	観光バスツアーの開催
		観光イベントの開催
		当尾の牛蒡、梅谷の代行、鹿背山の柿
		販売する横でたべることができるようにする
		マルシェ
		地産地消/適正価格で地元に通流して欲しい
	食育	嫌いな食べ物をみんなで楽しく克服できる仕組み
		SNSを活用した情報発信と広報
		小さなイベントをコーディネートして大きく！
	楽しんで学ぶ	スタンプラリー
		子ども勉強会（地理や歴史などを教える） 木津川で遊べる

班	分野	意見
B (子育て・産業 / 雇用)	資金提供	クラウドファンディング
		創業支援
		資金
	元気な農業	農家仲間に声をかければ色々な野菜が揃う
		青ネギを作っている
		たけのこが採れる
		土地はある
		六次産業化を進めている
		草木染めができる
		パンやラスクが作れる
		働き手がいる
		野菜を作れる・売る/子どもたちの面倒
		農産物の加工
		リサイクル（古布を使って）
		ねぎラスク/お茶ラスク
	戦略	道の駅を福祉施設で運営を
		お寺とのコラボ
		リサイクルで商品開発
		空き家カフェ（特産物を売る）
		ラスクづくり（働く場づくり）
		漬物づくり+つり店再生
		今は農業に取組んでいる/当尾地域で販売できるような漬物を作りたいと考えています
	情報発信	情報発信の施設
		口コミPR
		体験学習でリーダー育成
	まちの特色	このまちは子どもにとって良い環境
		奈良市とのつながり/（教育・文化）
		田舎を楽しむ
		子どもを通学させられる環境 子どもが住み続けていくまち

班	分野	意見
D (子育て)	婚活	孫育てがしたい
		「婚活」の名称イメージが良くないので代える
		命の危険が迫ると子どもが増える
		震災の年に子どもが多くなった
		男女共学はダメ
	取組みアイデア	山登り/ロッククライミング
		サバイバルゲーム
		断食パーティ
		木津川アートとドッキング
	花嫁行列	住民を表にアピールする
		地域を巻き込む
		プライダル業界と連携
		あられまき
		前撮り
		場所/茶畑、桜、あじさい、恭仁京、恭仁小
		抽選で募集し成果をPRすれば人が増える
	生きがい	高齢者のパートナー探し
		お茶友達グループづくり
		孤立化させない工夫

班	分野	意見
C (観光 / 農業 / 住)	観光	色々な人が集まる
		浄瑠璃寺/岩船寺
		恭仁京/薪焚いてコンサート
		夜の星が綺麗
		観光より勉強/紫香楽宮よりPRが苦手
		プロのプロデューサーの雇用が必要
		踊り・歌など1つのフラッグを作る
		観光=知恵の集まり
		恭仁京で盆踊り/芝生は柔らかで足に優しく涼しい
		恭仁京(歴史)+フィクション
		恭仁京というものを知ってもらえずに帰られる
		現地に恭仁京の表示板がない/ミニチュアがあれば
		恭仁京祭りのような何かができることがある
		琉球舞踊等のタレント育成
		市レベルでなら、大規模に
		恭仁京の魅力/玉座があった場所などがわかるもの
		外国人にとって一番訪れたい地「京都」
		都があった条件が合うことはすごいこと/天皇が来る
		1回目は少人数、2回目はもっと増やして/徐々に増やす
		大規模になると批判もある
		沖縄の海は世界一キレイ!!/言い切ることも必要
		岩船寺～浄瑠璃寺の車道・歩道の整備/二車線化
		当尾を開発特区に
		「瑠璃」/ちょうど良い喫茶店
		岩船寺や浄瑠璃寺近辺にお店があれば
		電車一本で京都駅から来れる/「京都」のネームバリューを活かす
		木津川市=京都/世界中から羨ましがられる
		浄瑠璃寺の周りはもっと人を呼べる/寺だけでなく周りの古民家の活用
		面でストーリーを考える/観光バスも良いが歩く道の整備を
		サイクリングロード/加茂駅でレンタル&乗り捨て
		神秘的なもの/〇〇から見て△△は日の出の方向…など
		観光において点は×/面でこそ活きる
		夏休みなのに観光客が少ない
	農	お店に行きたくないと思う/若者に貸せばどうか
		農産物は市全体でブランド化/恭仁京ブランド
		筍/京たけのこ、山城たけのこは強み
		当尾は土が良い
		休耕地や古民家は個人間でのやりとりが難しく、調整役や仲介が要る
		市ブランドを少しずつ作っていく
		休耕地を活用/若い人に来てもらう
		恭仁京ブランド/農・食べ物～観光
		観るもの・食べるもの・歴史・道をシンプルにつなげる
		空き家(古民家)を活用して、地場のものを食べてもらう
	住/空き家	観光と農産物のコラボ
		実行するための人材育成
		木津川市は田舎でもなく都会でもない/ちょうど良い
		明るいまち/子どもがいるだけで元気があるまちに見える
		城山台ニュータウンへたくさん来てもらえるよう税金投入が必要
		古い街に転入したがない/旧の人との付き合い
		アスピアの前の大きな1区画に人が集まってきている・入りやすい
		新旧交流の場が必要
		人と人との絆/空き家に魅力を感じて来られる方は年配の方も多い
		若い世代と年配の世代との交流
		加茂は空き家が多い/空き家対策を人口増加に活用できれば
		空き家は倒壊の可能性もありお金が必要
		内装もビニールクロスではなく、昔からの技術を使えば

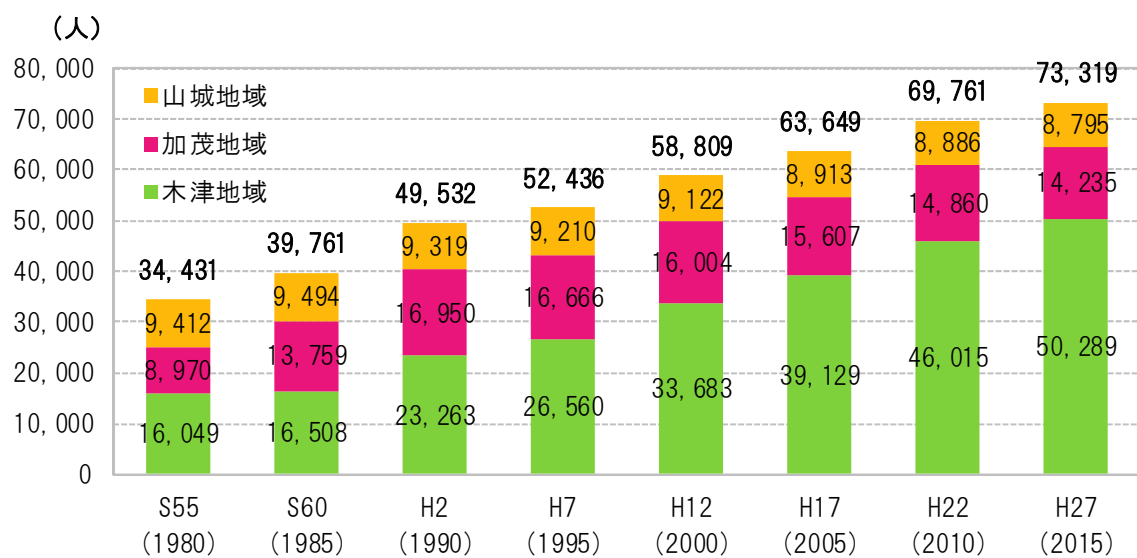
3. 本市の社会経済の状況

3.1 人口

3.1.1 地域別人口の推移

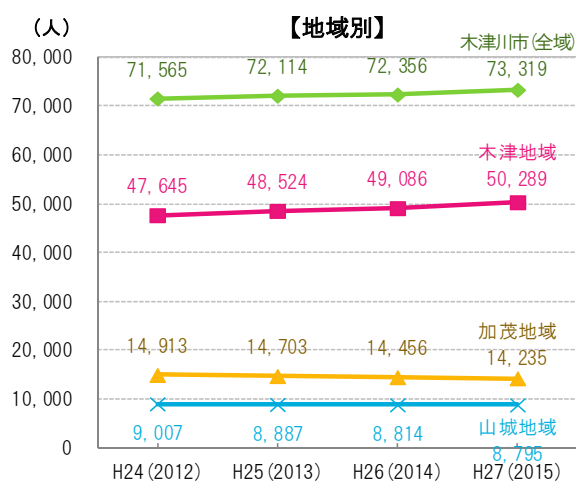
○平成 27 年における、木津川市の人口の約 6 割以上を木津地域が占めています。

○なお、木津地域の人口は増加傾向にありますが、加茂地域及び山城地域の人口は減少傾向にあります。

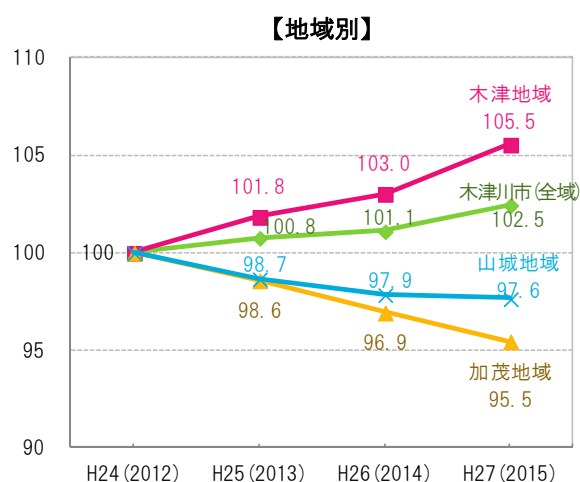


【出典】 S55-H22:総務省「国勢調査」, H27: 木津川市調べ (4月1日現在)

図 3-1 地域別人口の推移



【資料】 木津川市調べ (各年 4月 1 日現在)



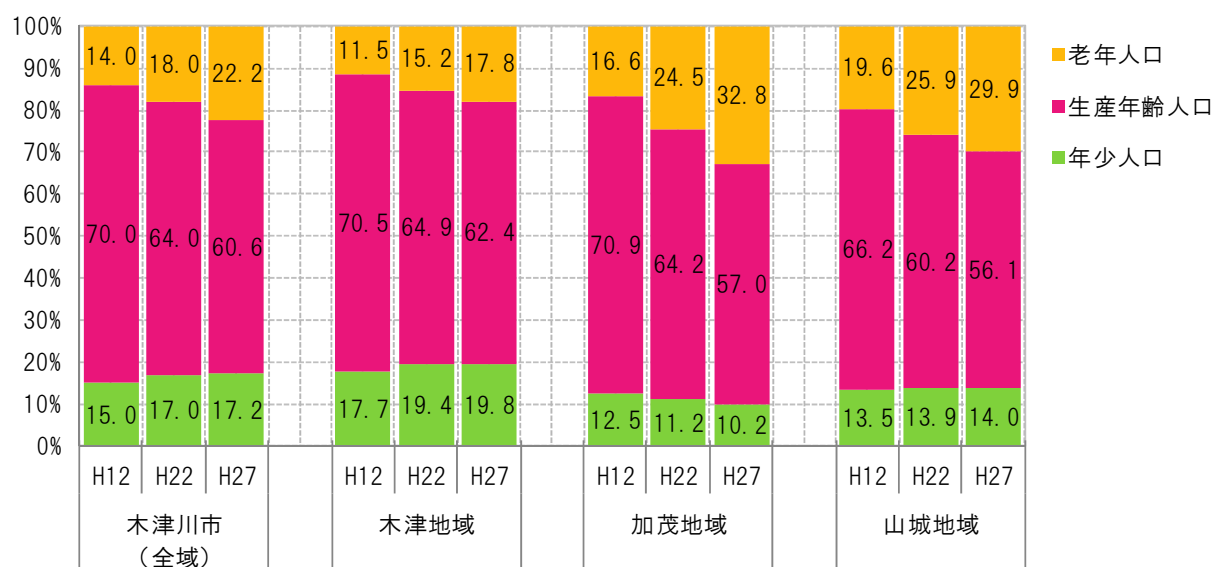
【資料】 木津川市調べ (各年 4月 1 日現在)

図 3-2 地域別人口及び伸び率 (H24 を 100 とした場合) の推移

3.1.2 地域別年齢3区分別人口

○年少人口比率が最も高いのは木津地域となっています。また、木津地域でも高齢化が進行しているものの、他の地域と比べると大きな伸びは見られません。

○加茂地域及び山城地域は高齢化率の伸びが大きく、平成 27 年には、両地域とも約 3 割の状況となっています。



【出典】 H12, H22総務省「国勢調査」、H27：木津川市調べ（4月1日現在）

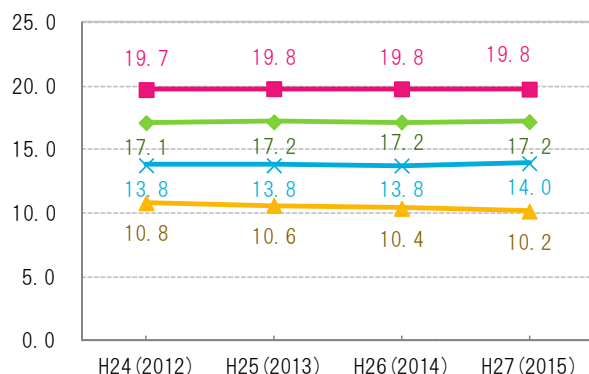
図 3-3 地域別年齢3区分別人口の推移

○年少人口は、加茂地域において減少傾向にあり、それ以外の地域では横ばいとなっています。

○生産年齢人口は、すべての地域において減少傾向にあります。また、高齢者人口は、すべての地域において増加傾向にあり、なかでも加茂地域は極めて伸びが大きくなっています。

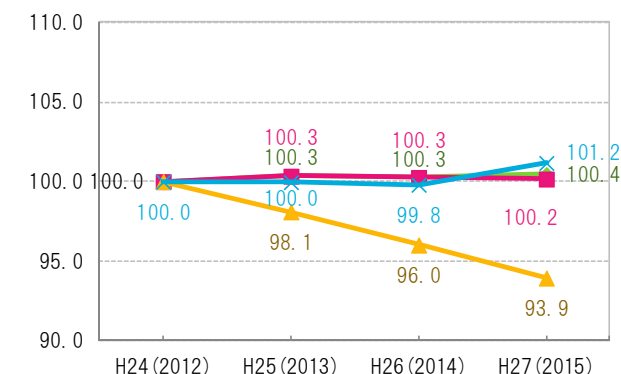
■地域別年齢3区分別人口の推移（年少人口比率）

年少人口
(%)



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

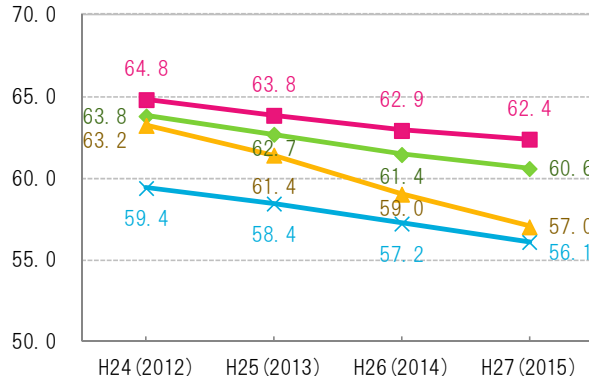
年少人口



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

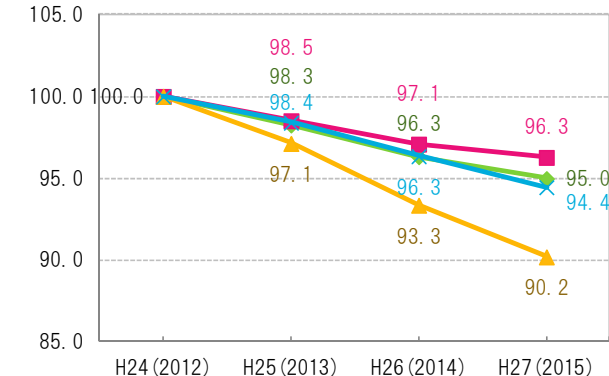
■地域別年齢3区分別人口の推移（生産年齢人口比率）

生産年齢人口
(%)



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

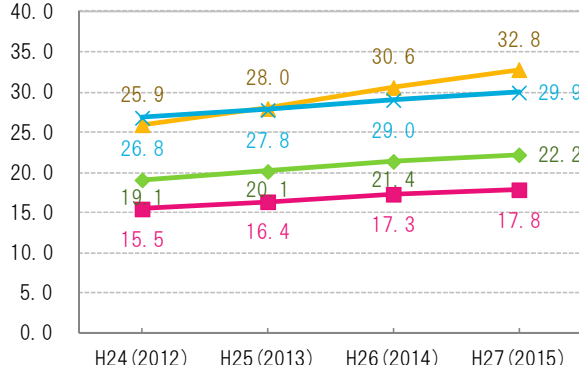
生産年齢人口



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

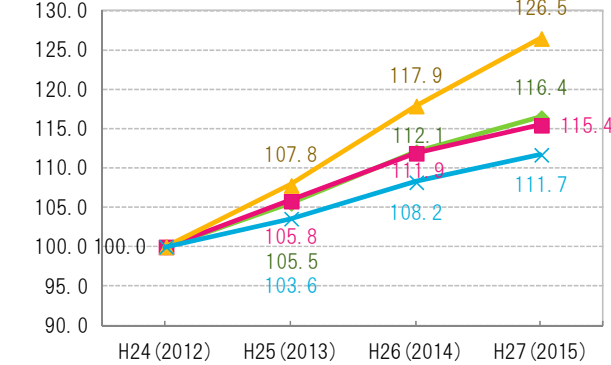
■地域別年齢3区分別人口の推移（老年人口比率）

老年人口
(%)



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

老年人口



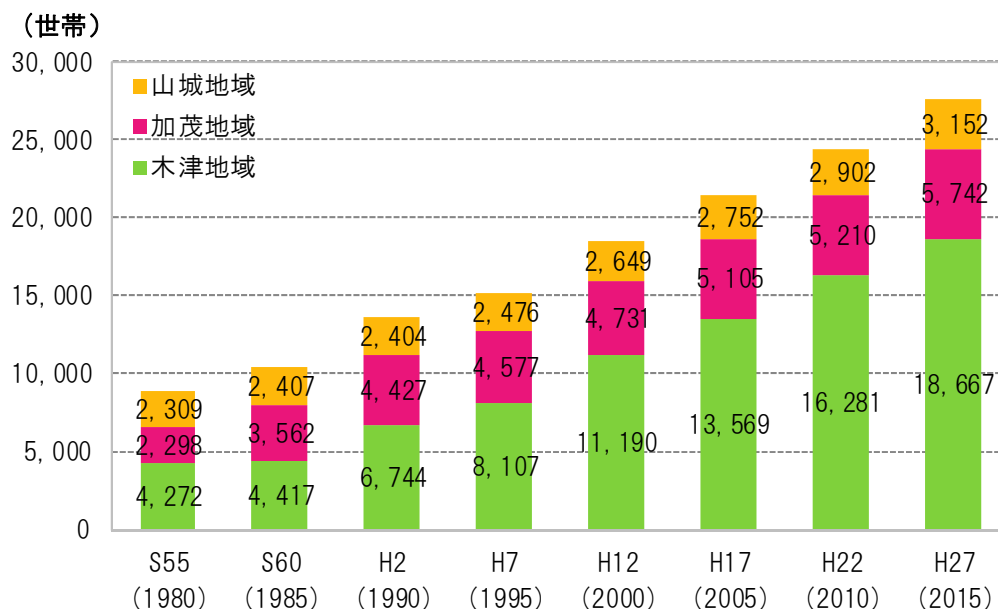
【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

図 3-4 地域別年齢3区分別人口及び伸び率（H24 を 100 とした場合）の推移

3.1.3 地域別世帯数の推移

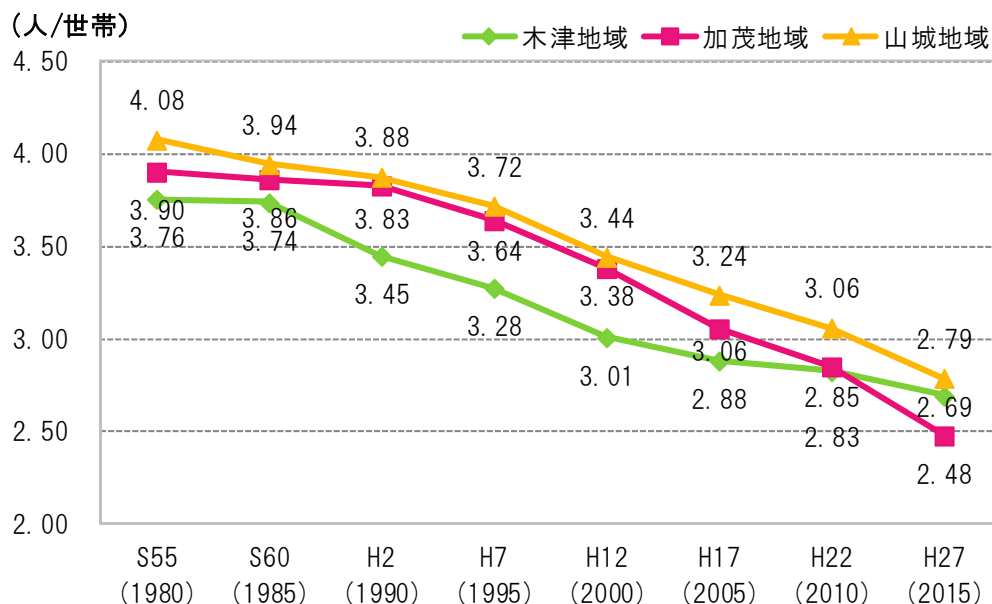
○世帯数は、すべての地域において増加傾向にあります。世帯あたり人員数は減少し続けています。特に、加茂地域・山城地域で、減少傾向が強くなっています。

○平成 27 年時点における木津川市の世帯数は、6 割以上を木津地域が占めています。



【出典】 S55～H22：総務省「国勢調査」、H27：木津川市調べ（4月1日現在）

図 3-5 地域別世帯数の推移



【出典】 S55～H22：総務省「国勢調査」、H27：木津川市調べ（4月1日現在）

図 3-6 世帯あたり人員数の推移

3.1.4 学校区別人口の推移

○学校区別人口をみると、最も人口が多いのは木津であり、次に高の原、州見台と木津地域の学校区が続きます。反対に人口が最も少ないのは恭仁であり、上狹、相楽台、棚倉と続き、加茂地域や山城地域の学区が続いています（平成24年にまちびらきをした城山台は除いています）。

○人口の伸び率をみると、城山台は、他の学校区と比べて非常に高く、次いで梅美台、州見台が増加傾向にあります。一方で、恭仁や30年前に宅地開発された南加茂台は、減少傾向にあります。

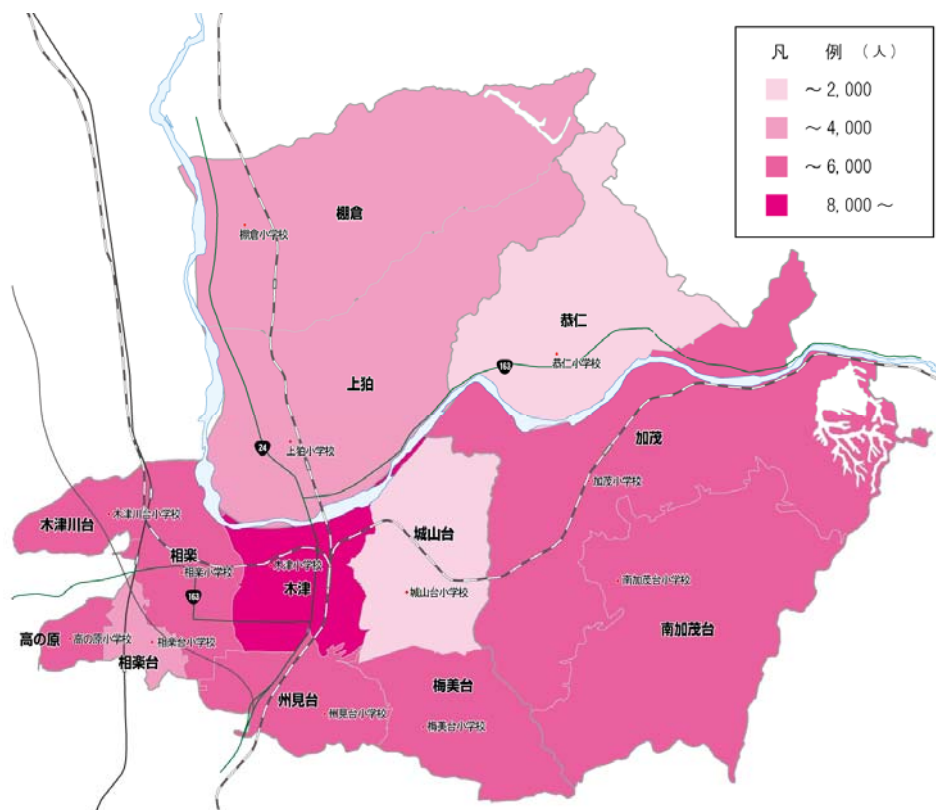


図 3-7 学校区別人口分布

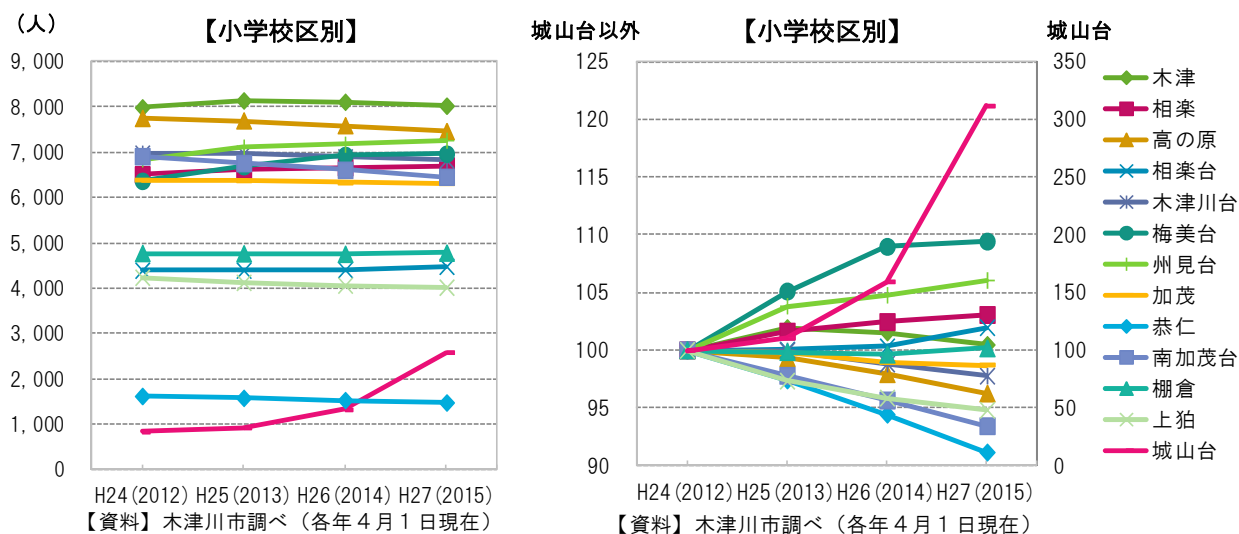


図 3-8 学校区別人口及び伸び率（H24 を 100 とした場合）の推移

3.1.5 学校区別年齢3区分別人口

○木津地域の州見台、梅美台及び城山台は、平成になってまちびらきをした地域であり、子育て世代の転入が多いことから、年少人口比率が高くなっています。

○それ以外の学校区においては高齢化が進んでおり、特に加茂地域や山城地域の学校区において、その傾向が強くなっています。

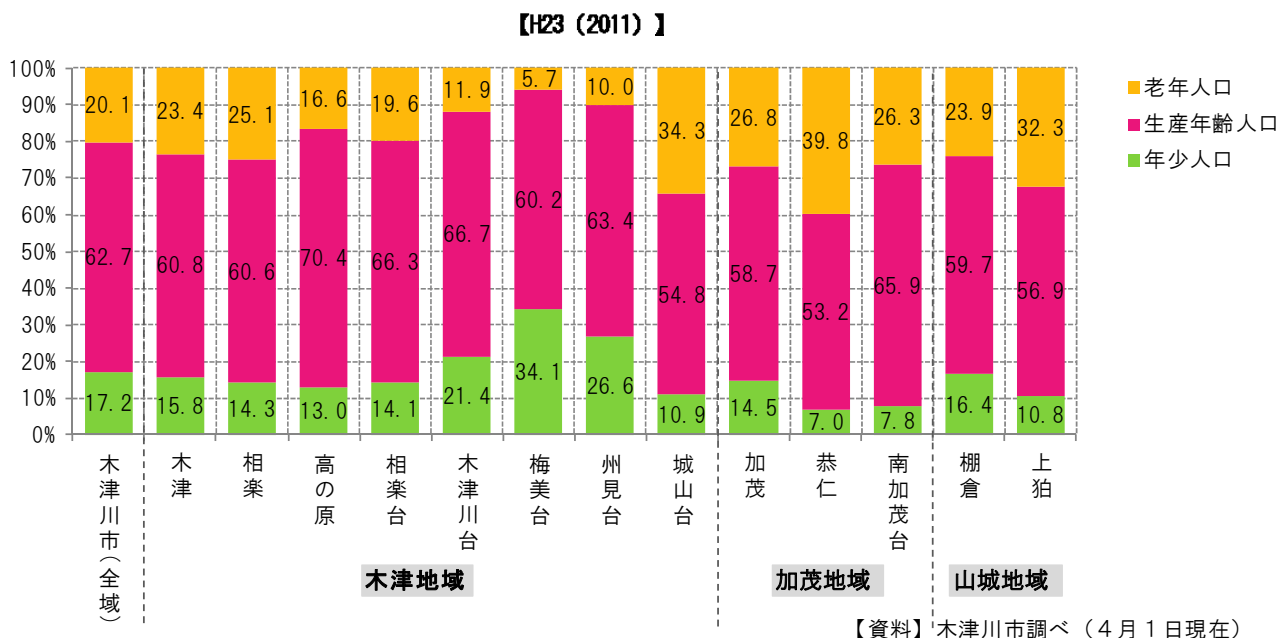
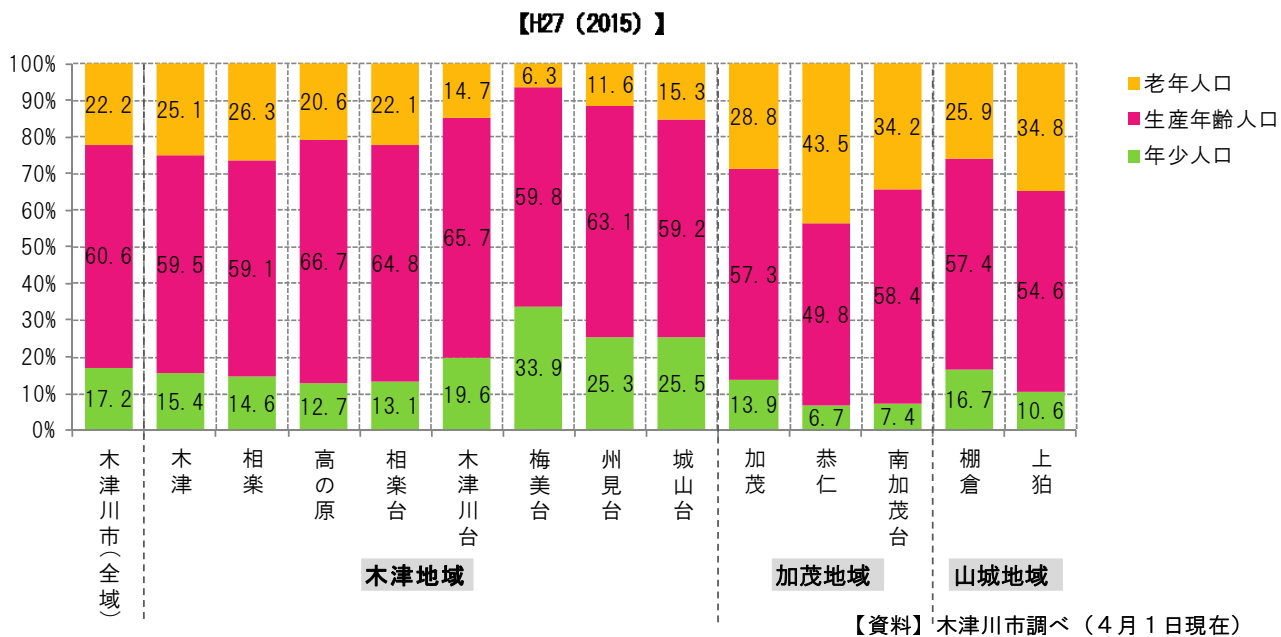


図 3-9 学校区別年齢3区分人口の推移

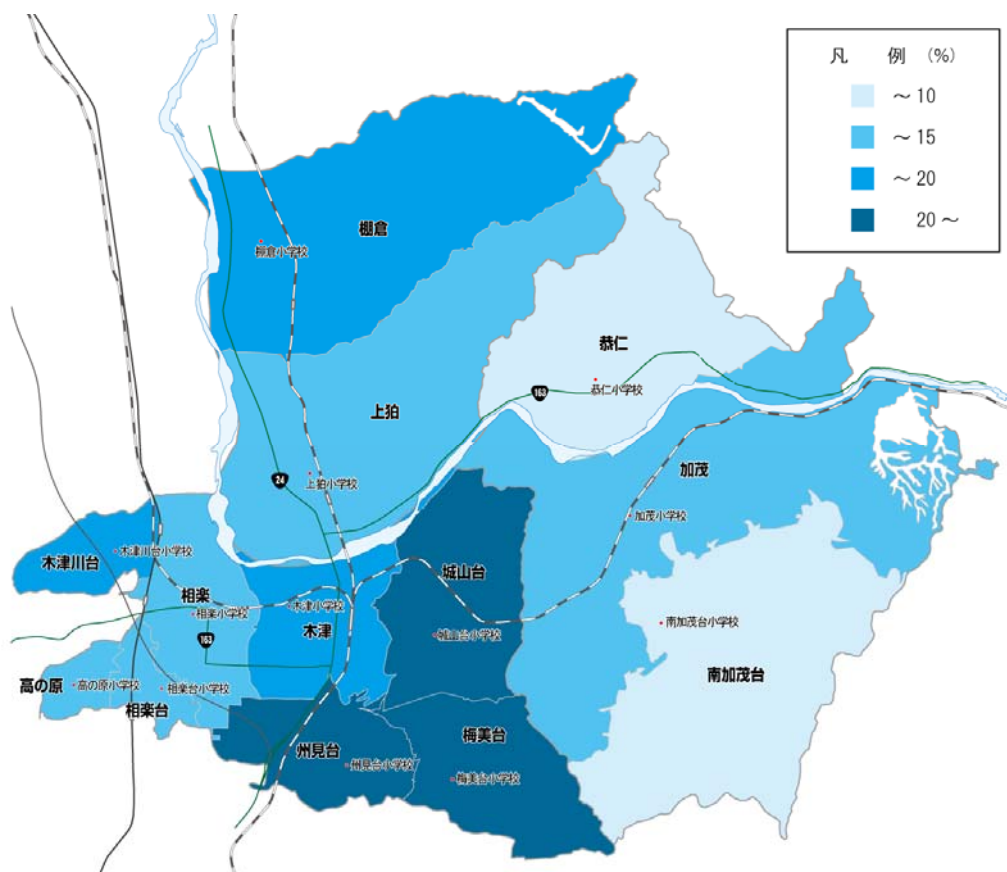


図 3-10 学校区別年少人口分布

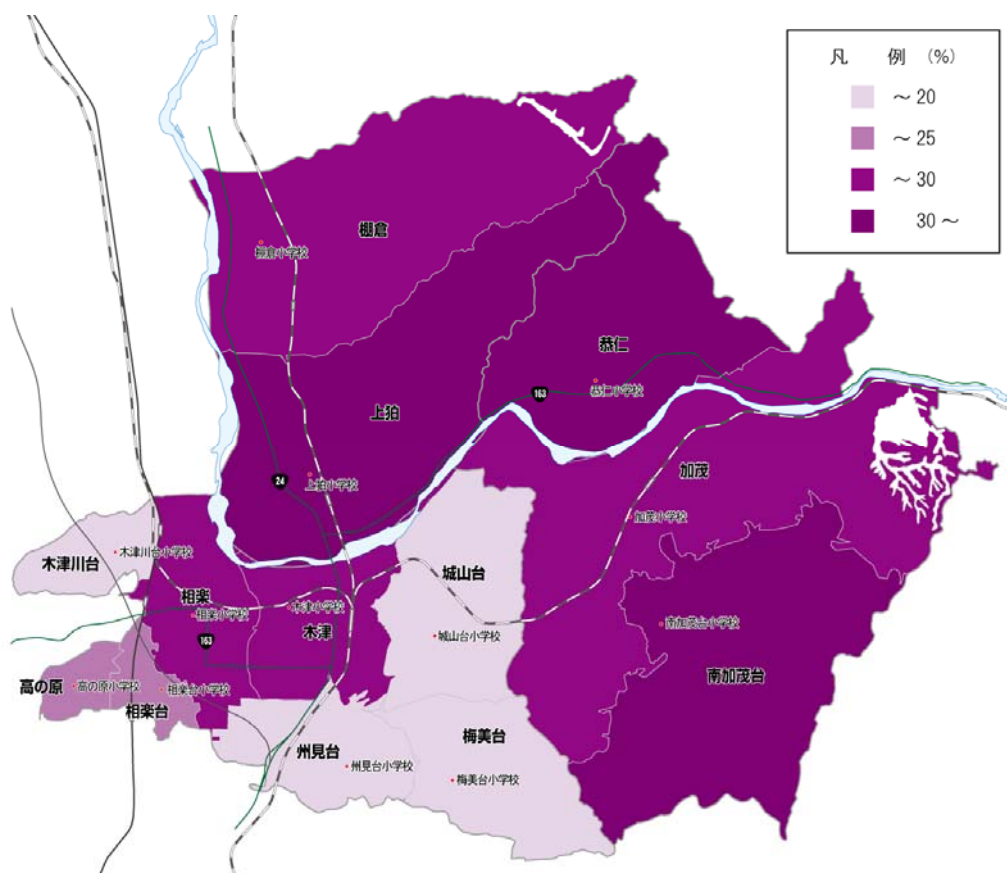
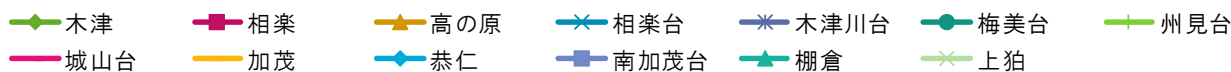
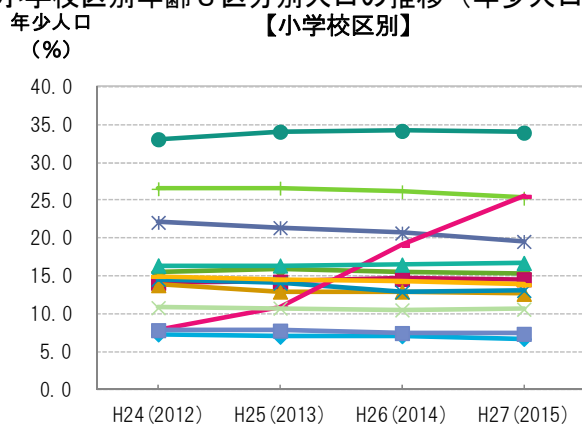


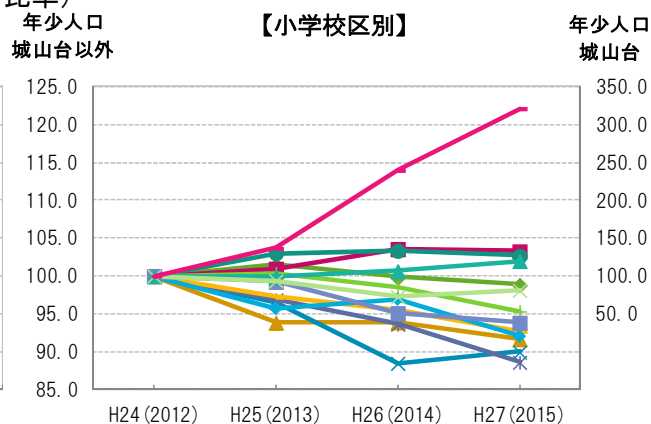
図 3-11 学校区別老年人口分布



■ 小学校区別年齢3区分人口の推移（年少人口比率）

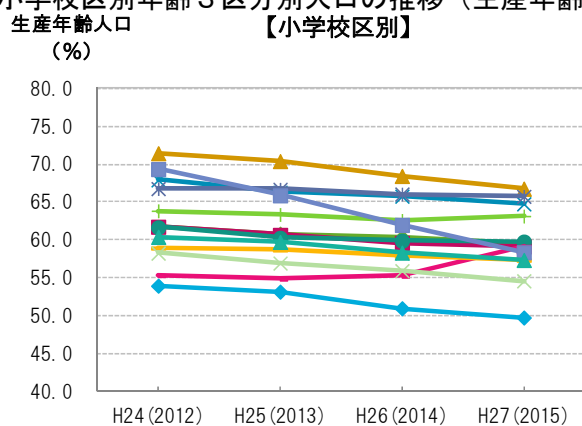


【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

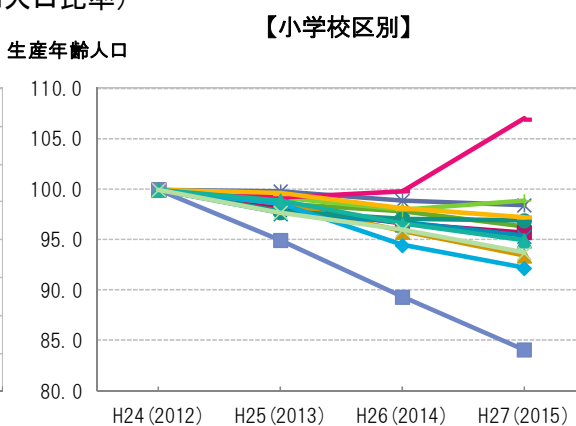


【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

■ 小学校区別年齢3区分人口の推移（生産年齢人口比率）

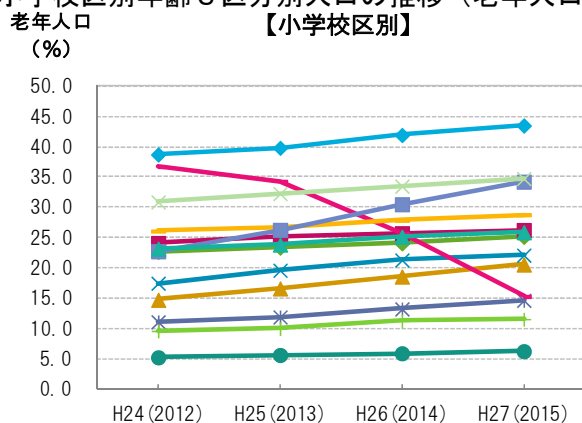


【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

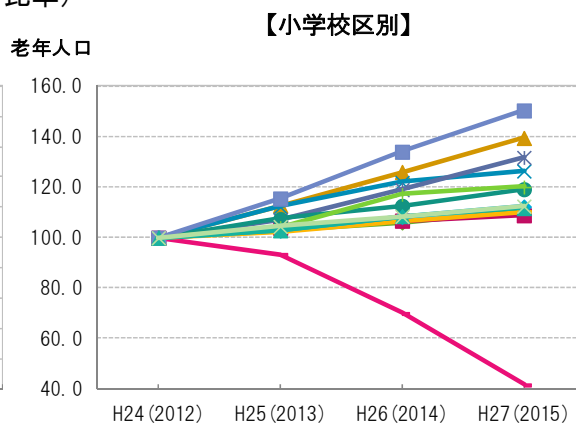


【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

■ 小学校区別年齢3区分人口の推移（老年人口比率）



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）



【資料】木津川市調べ（各年4月1日現在）

図 3-12 学校区別年齢3区分人口及び伸び率（H24 を 100 とした場合）の推移

3.1.6 学校区別の人口及び高齢化率の状況

○ほとんどの学校区が 6,000～7,000 人の人口規模を有しており、近年、住宅開発が行われている学校区ほど高齢化率が低い傾向にあります。

○人口及び高齢化率の変化をみると、住宅開発が行われた学校区ほど高齢化の進展が急速に進むことが考えられます。これは、まちびらき以降、居住者の住み変わりが少ないことが要因の一つとして考えられます。対して、近隣集落地域等は、人口減少が進みながらも高齢化の進展は緩やかな状況にあります。

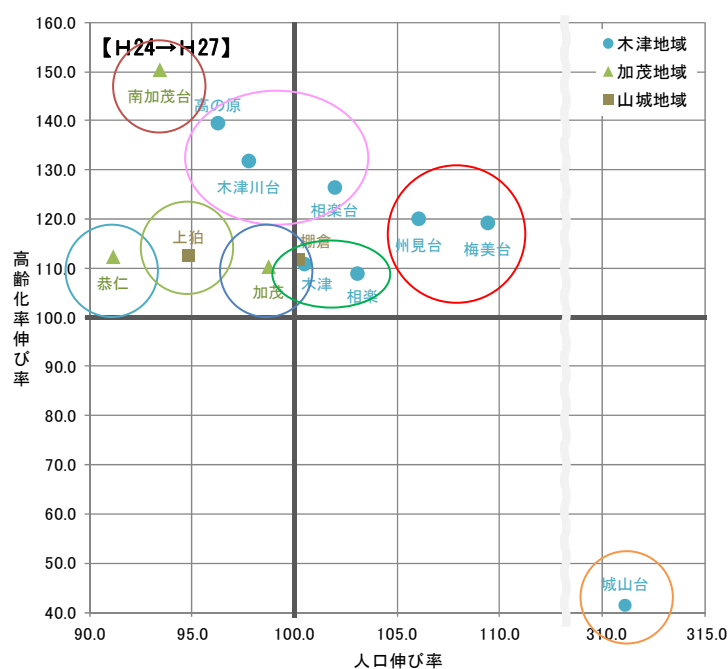
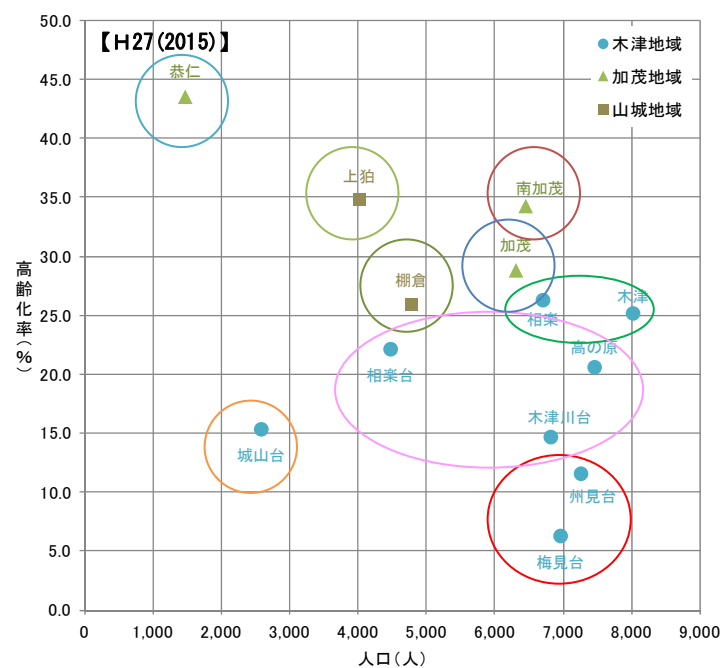


図 3-13 学区別人口及び高齢化率の変化 (H24→H27 伸び率)

3.2 周辺市町との比較

3.2.1 人口

- 周辺市町と比較すると、15歳未満の若年層割合が高く、65歳以上の高齢者割合が低くなっています。また、人口に占める15~45歳女性人口の割合が高く、出生率も高い傾向にあります。
- また、周辺市町の多くが転出超過のなか、本市は、転入超過の状況にあり、市外からの流入が多くなっています。
- 一方で、昼間人口比率が低く、京都・大阪・奈良等周辺都市のベッドタウンとなっておりとも考えられます。

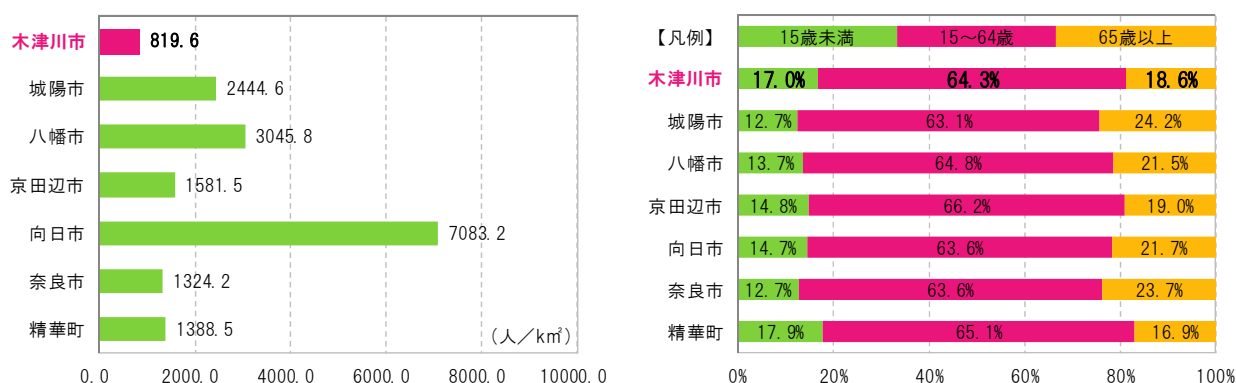


図 3-14 km²あたりの人口密度（左）、年齢別人口構成比（右）

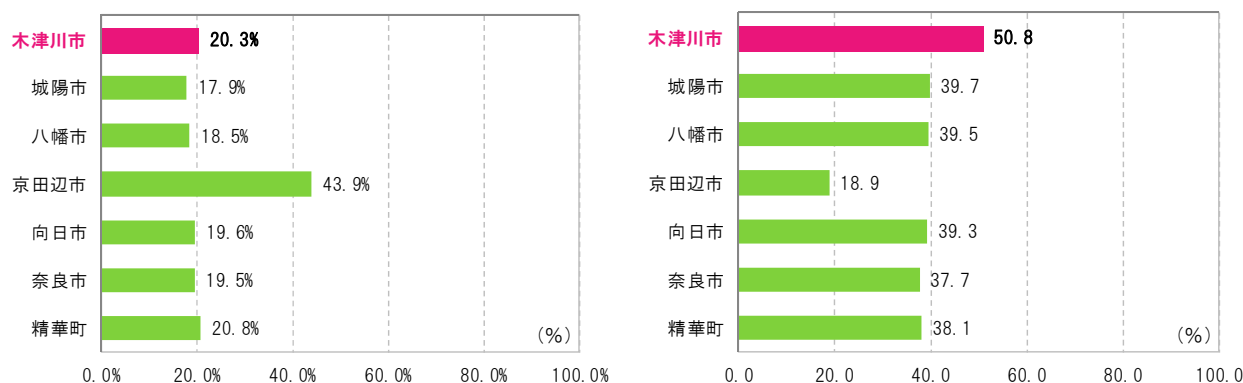


図 3-15 15~45歳女性人口構成比（左）、総出生率（右）

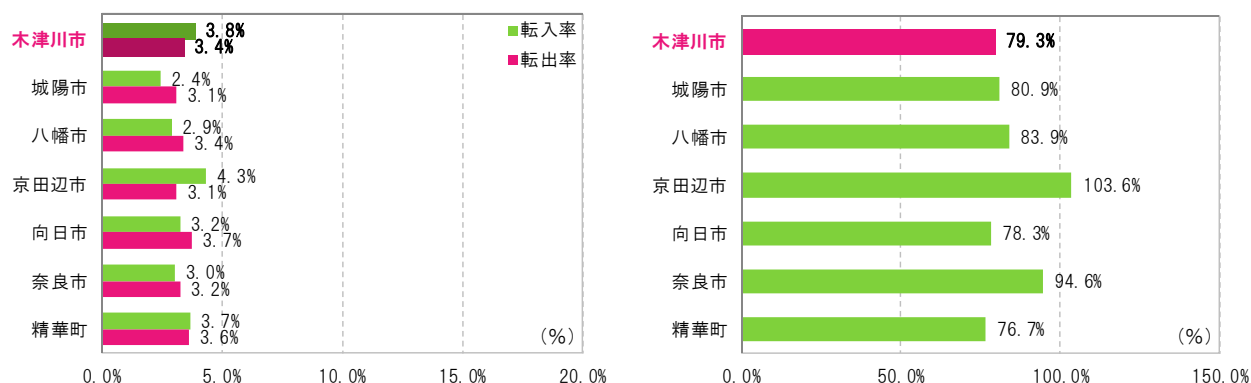


図 3-16 転入者数及び転出者数（左）、昼間人口比率（右）

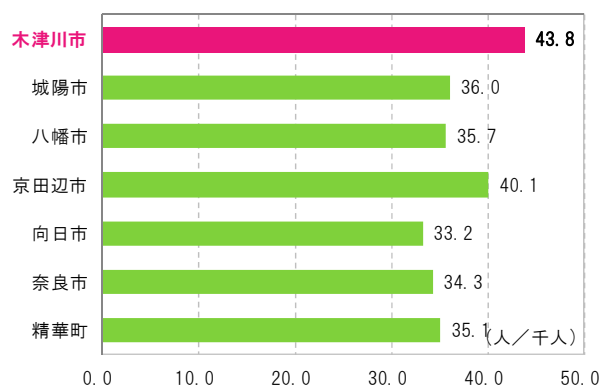


図 3-17 出生数

3.2.2 住宅

○周辺市町と比較すると、平成以降に建築された新しい住宅が多く、また空き家も少ない状況にあります。

○医療機関やデイサービスセンター、郵便局や銀行、交通機関など、生活の基盤となる各施設までの距離については、長距離となる割合が多くなっています。

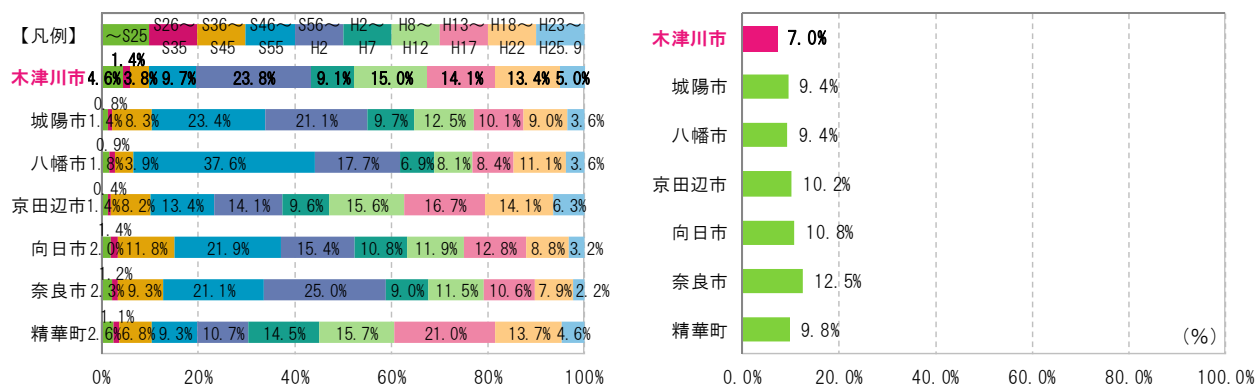


図 3-18 住宅建築の時期 (左)、空き家率 (右)

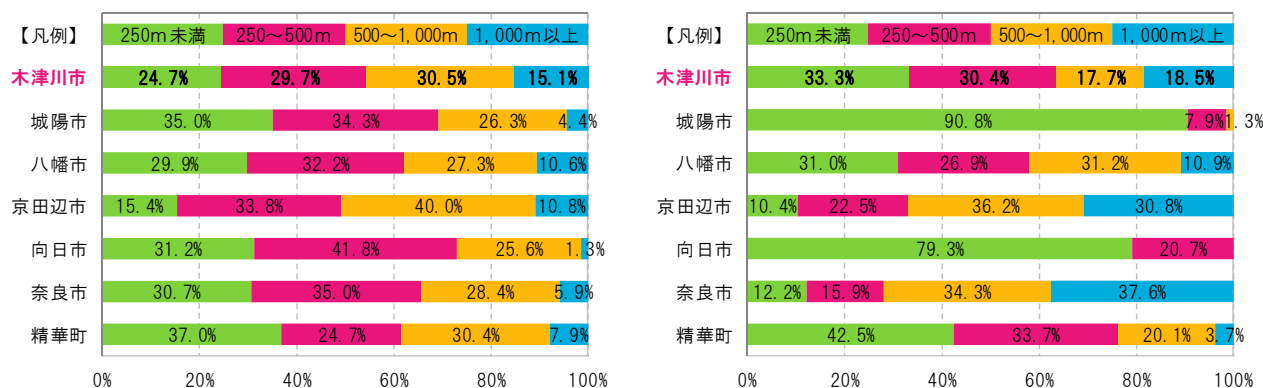


図 3-19 最寄りの医療機関までの距離 (左)、最寄りの公園までの距離 (右)

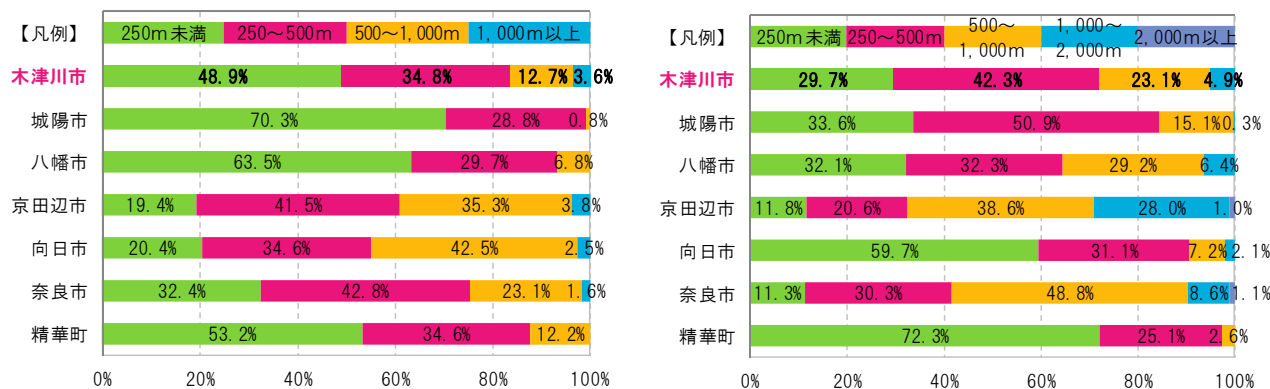


図 3-20 最寄りの公民館・集会所までの距離 (左)、最寄りの緊急避難場所までの距離 (右)

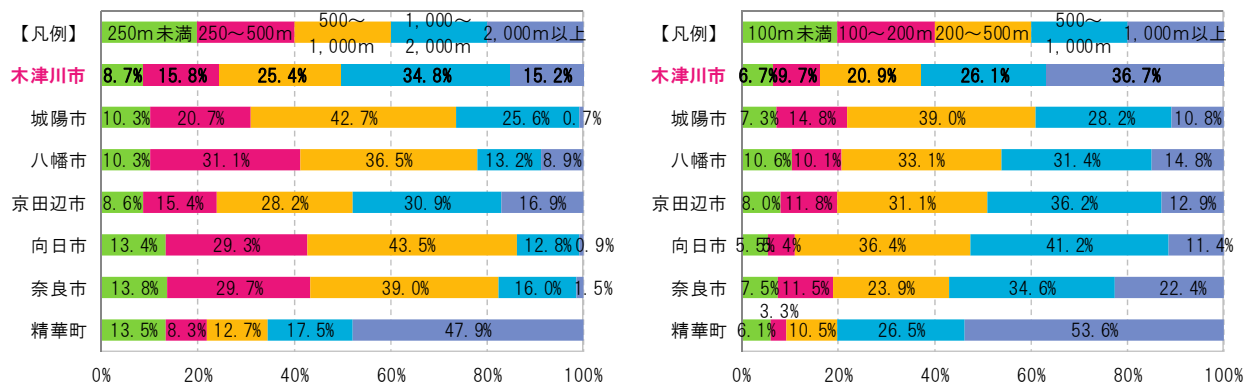


図 3-21 最寄りのデイサービスセンターまでの距離 (左)、最寄りの郵便局・銀行までの距離 (右)

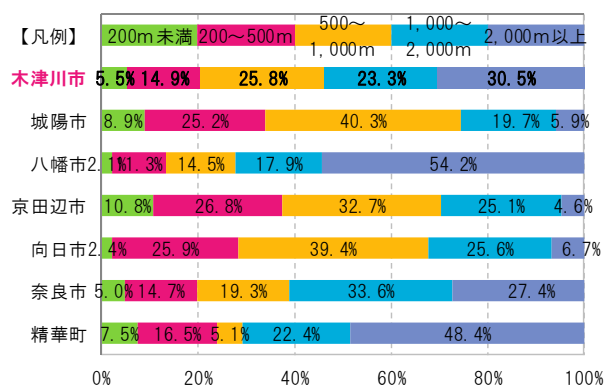


図 3-22 最寄りの交通機関 (駅) までの距離

3.2.3 教育

○周辺市町と比較すると、幼稚園 1 箇所あたりの 3~5 歳人口が多い状況にあります。一方で、小・中学校 1 箇所あたりの児童・生徒人口は少なくなっています。

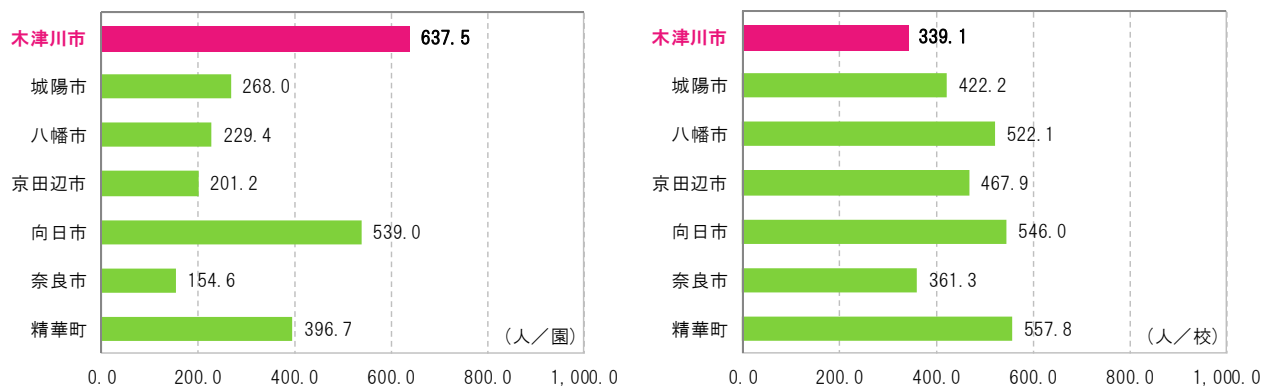


図 3-23 幼稚園あたりの 3~5 歳人口 (左)、小学校あたりの 6~11 歳人口 (右)

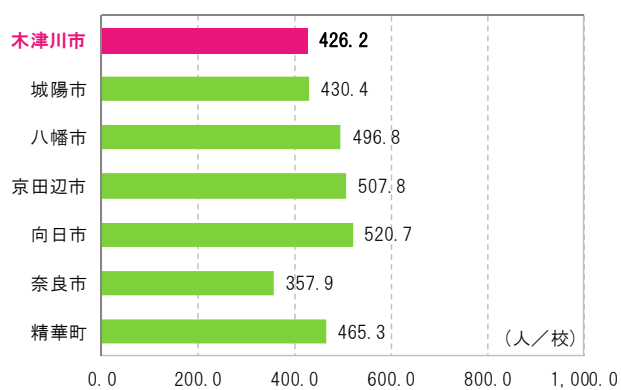


図 3-24 中学校数あたりの 12~14 歳人口

3.2.4 福祉

○周辺市町と比較すると、0~5 歳人口に対する保育所数は、周辺市町の中では平均的となっています。

○65 歳以上人口に対する介護老人保健施設数は、多い状況にあります。

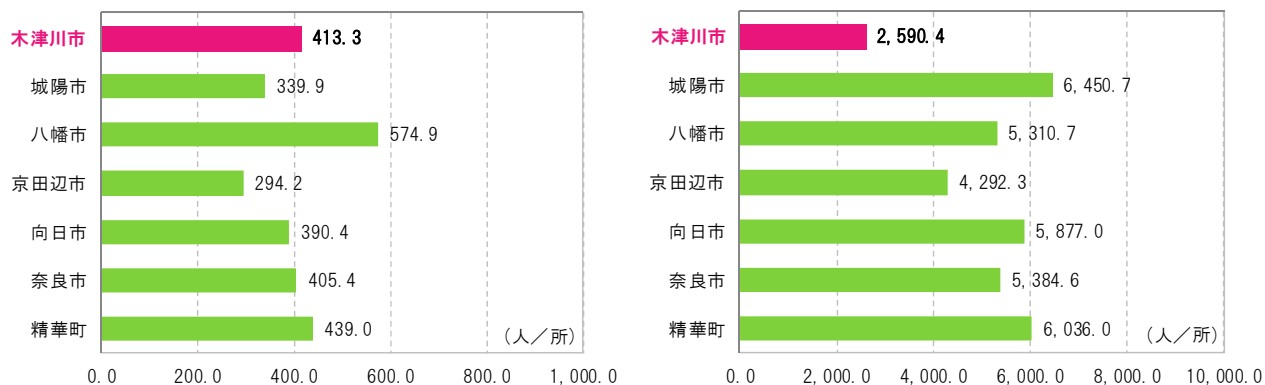


図 3-25 保育所数あたりの 0~5 歳人口（左）、介護老人保健施設あたりの 65 歳以上人口（右）

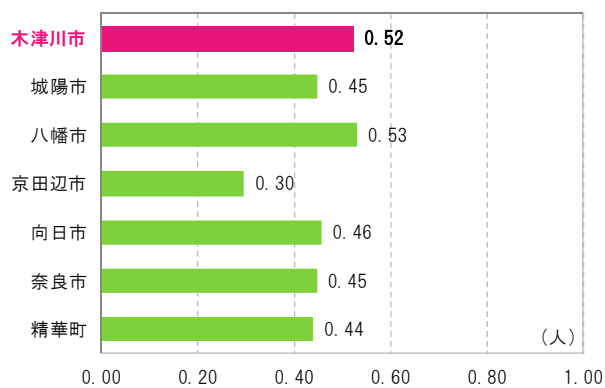


図 3-26 0~4 歳人口あたりの保育所定員数

3.2.5 生活

○周辺市町と比較すると、大型小売店舗数あたりの人口がやや多く、また、人口あたりの店舗面積も多いことから、核となる少数の大規模店舗による展開が行われている状況にあります。

○1,000 人あたりの病院・一般診療所病床数は、周辺市町に比べ少ない状況となっていることから、病床 1 床あたりの 65 歳以上人口は多くなっています。

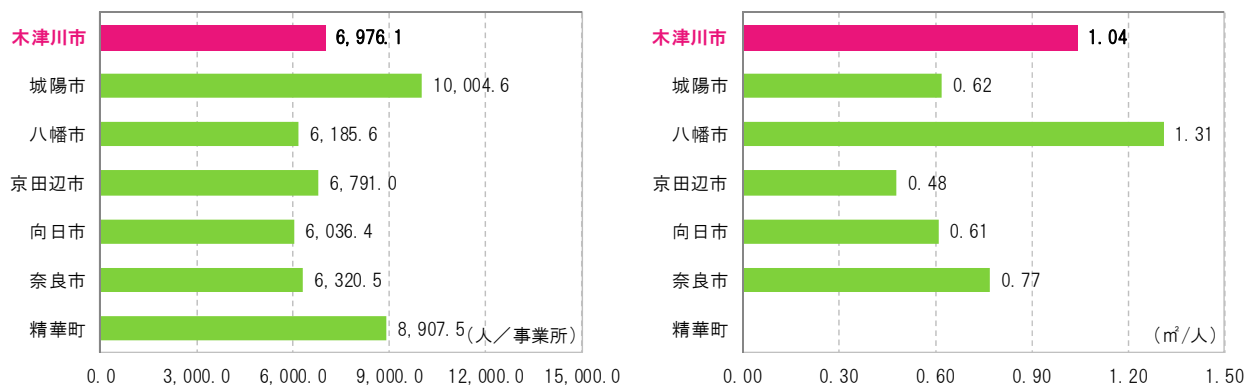


図 3-27 大型小売店舗数あたりの人口(左)、人口あたりの大型小売店店舗面積(右)

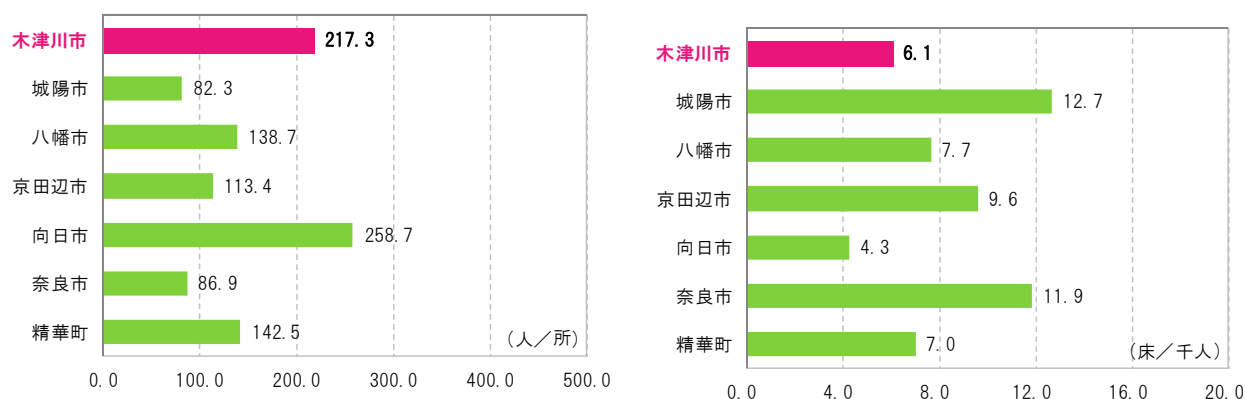


図 3-28 病床 1 床あたりの 65 歳以上人口 (左)、病院・一般診療所病床数 (右)

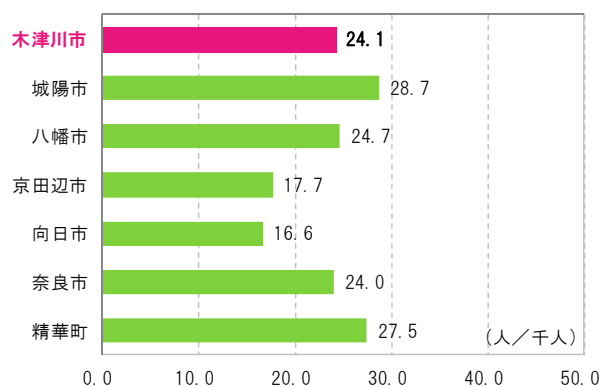


図 3-29 介護老人福祉施設・介護老人保健施設定員数

3.2.6 労働

○周辺市町と比較すると、第二次及び第三次産業就業者の割合が多く、第一次産業就業者の割合が少ない状況にあります。

○市内で従業する割合が低く、他の都市への従業が多くなっています。

○女性就業率は、周辺市町の中では平均的となっています。

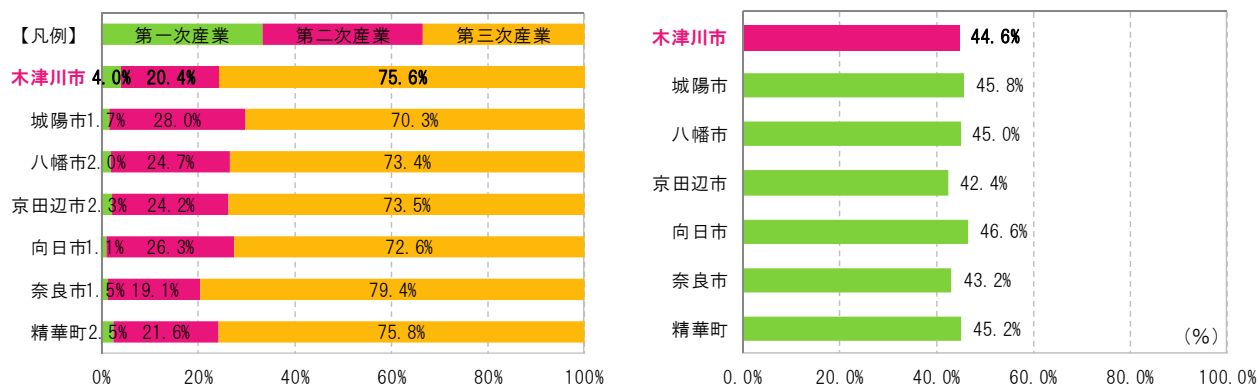


図 3-30 産業別就業者数構成比（左）、就業比率（右）

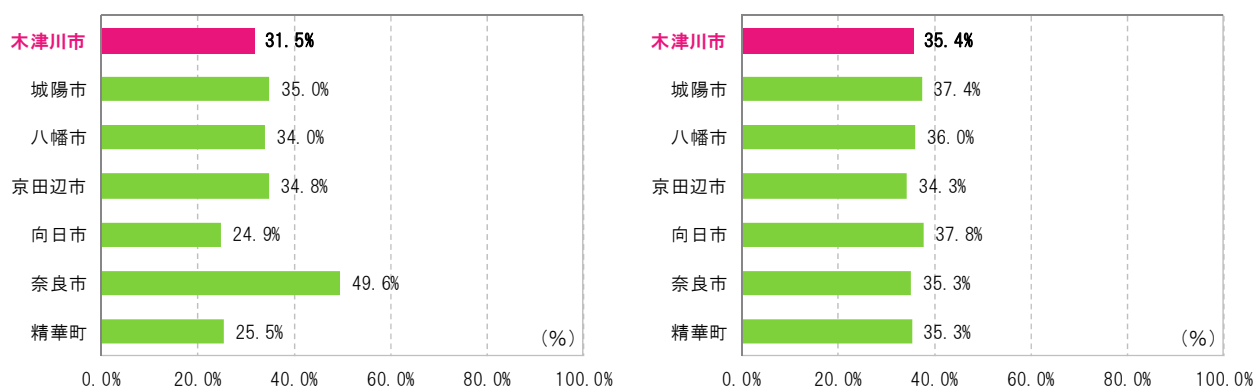


図 3-31 自市区町村で従業する就業者比率（左）、女性就業率（右）

3.2.7 産業

○周辺市町と比較すると、事業所数、従業者数ともに少なく、また、製造品出荷額等や年間商品販売額も規模は小さくなっています。しかし、人口あたり小売業年間販売額は、やや高い値にあり、付加価値の高い小売業が多いと考えられます。

○観光客 1 人あたりの観光消費額は、やや高い状況にあります。

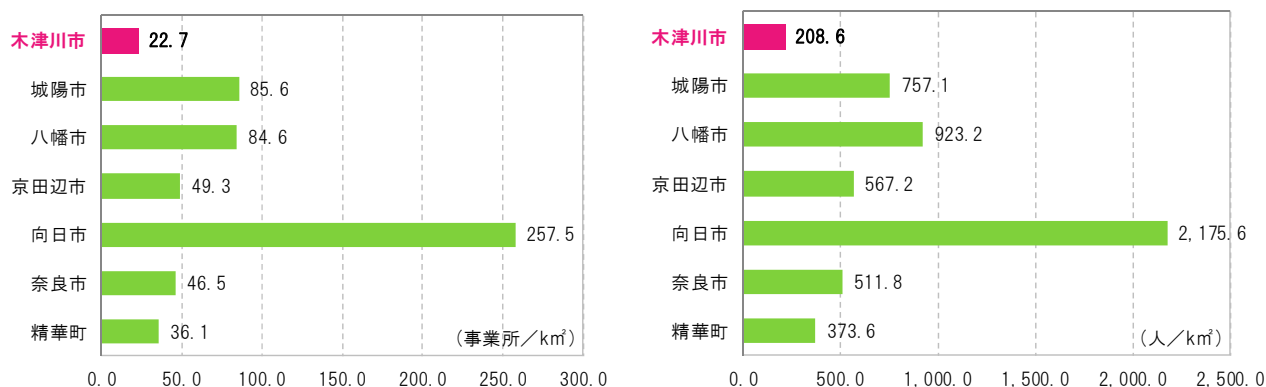


図 3-32 ㎢あたりの事業所数（左）、㎢あたりの従業者数（右）

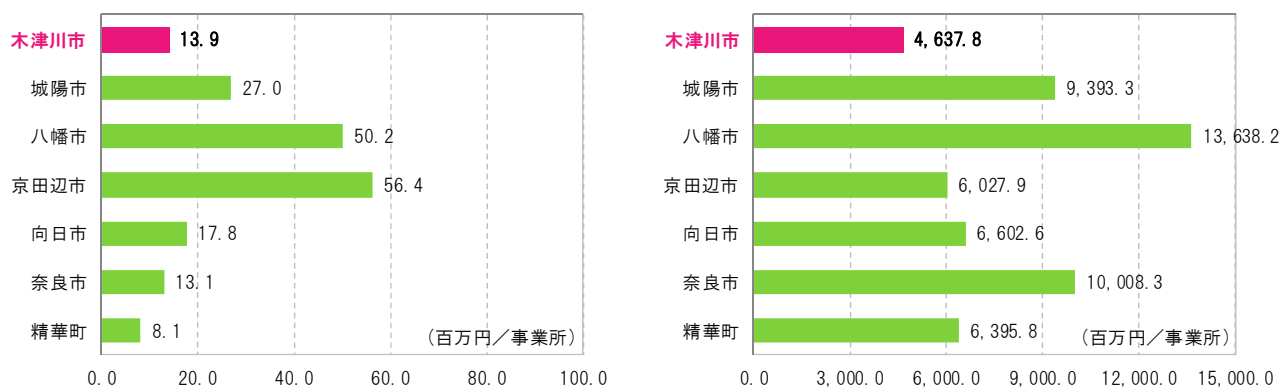


図 3-33 事業所あたりの製造品出荷額等（左）、事業所あたりの年間商品販売額（右）

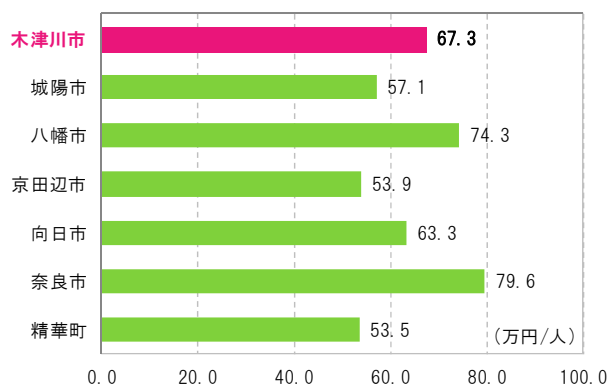
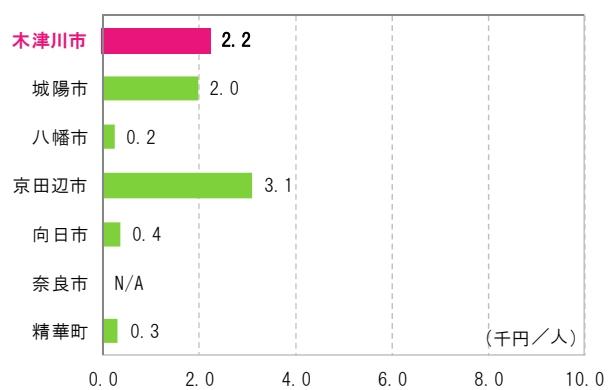
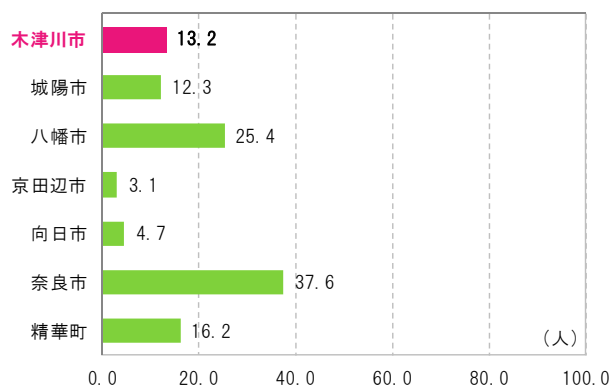


図 3-34 人口あたりの小売業年間販売額



※奈良市は統計書に数値未記載

図 3-35 人口あたりの観光入込客数（左）、観光客一人あたりの観光消費額（右）

3.2.8 財政力

- 周辺市町と比較すると、財政力指数はわずかに低い水準にあります。
- 人口あたりの課税対象所得は、周辺市町の中ではやや高めの水準にあります。
- また、人口あたりの地方税収入額はやや低く、人口あたりの歳出決算総額はやや高い状況にあります。

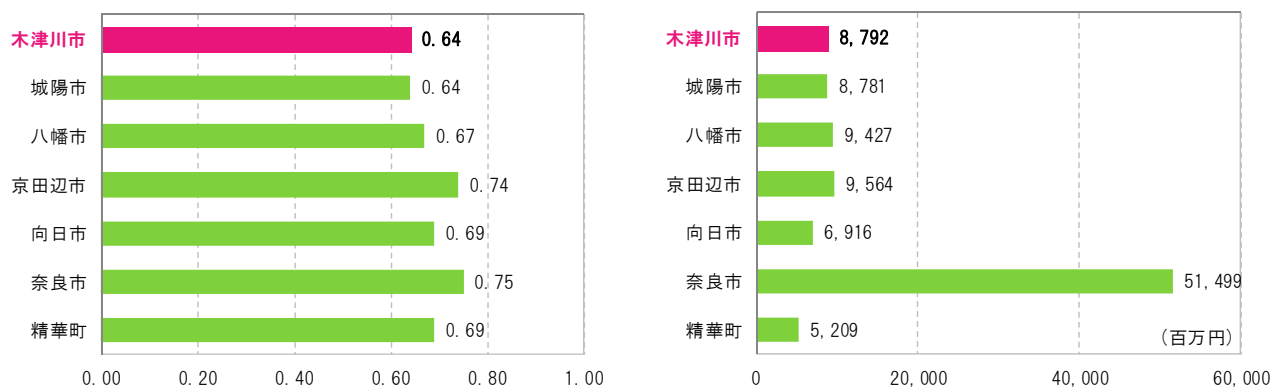


図 3-36 財政力指数（左）、地方税収入額（右）

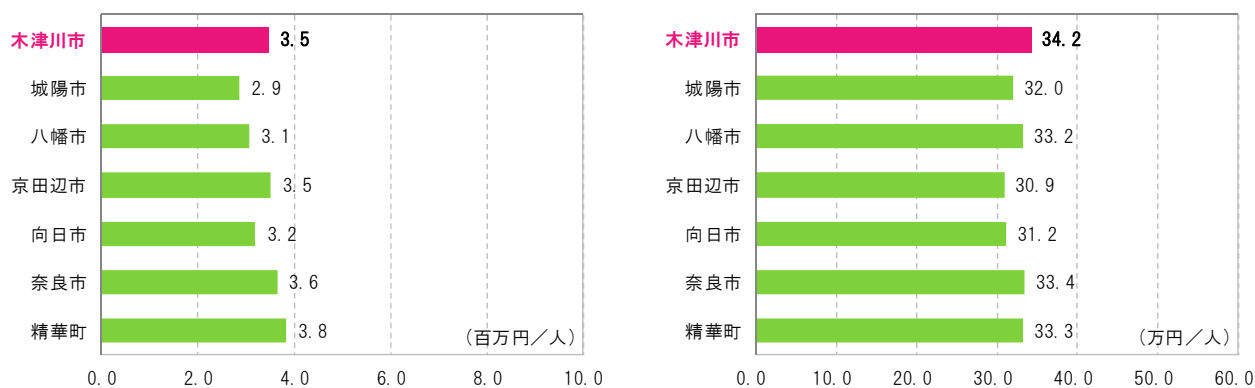


図 3-37 人口あたりの課税対象所得（左）、人口あたりの歳出決算総額（右）

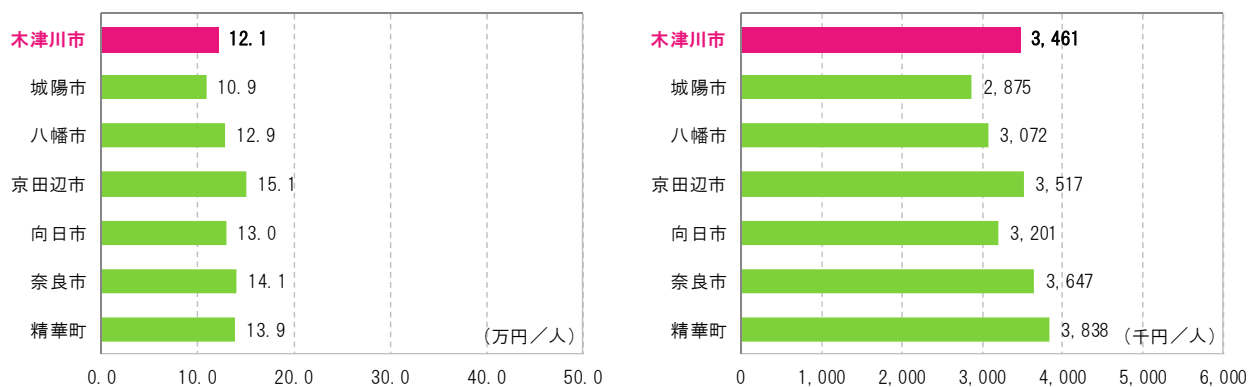


図 3-38 人口あたりの地方税収入額（左）納税者人口あたりの課税対象所得（右）

■周辺市町との比較における資料出典

章	図名		主な出典・参考資料	採用年次
3.2.1 人口	図 3-14	k m ² あたりの人口密度	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
		年齢別人口構成比	総務省「H22 国勢調査」	H22
	図 3-15	15～45 歳女性人口構成比	総務省「H22 国勢調査」	H22
		総出生率	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
	図 3-16	転入者数及び転出者数	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
		昼間人口比率	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H22
	図 3-17	出生数	住民基本台帳	H24
3.2.2 住宅	図 3-18	住宅建築の時期	H25 住宅土地統計調査	H25
		空き家率	H25 住宅土地統計調査	H25
	図 3-19	最寄りの医療機関までの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
		最寄りの公園までの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
	図 3-20	最寄りの公民館・集会所までの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
		最寄りの緊急避難場所までの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
	図 3-21	最寄りのデイサービスセンターまでの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
		最寄りの郵便局・銀行までの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
	図 3-22	最寄りの交通機関（駅）までの距離	H25 住宅土地統計調査	H25
3.2.3 教育	図 3-23	幼稚園あたりの 3～5 歳人口	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
		小学校あたりの 6～11 歳人口	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
	図 3-24	中学校あたりの 12～14 歳人口	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
3.2.4 福祉	図 3-25	保育所あたりの 0～5 歳人口	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
		介護老人施設あたりの 65 歳以上人口	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
	図 3-26	0～4 歳人口あたりの保育所定員数	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
3.2.5 生活	図 3-27	大型小売店舗数あたりの人口	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H21
		人口あたりの大型小売店舗面積	都市データパック 2014	H25
	図 3-28	病床 1 床あたりの 65 歳以上人口	厚生労働省 医療施設調査	H25
		病院・一般診療所病床数	都市データパック 2014	H24
	図 3-29	介護老人福祉施設・介護老人保健施設定員数	都市データパック 2014	H24
3.2.6 労働	図 3-30	産業別就業者数構成比	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H22
		就業比率	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H22
	図 3-31	自市区町村で従業する就業者比率	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H22
		女性就業率	総務省「H22 国勢調査」	H22
3.2.7 産業	図 3-32	K m ² あたりの事業所数	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H21
		K m ² あたりの従業者数	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H21
	図 3-33	事業所あたりの製造品出荷額等	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H23
		事業所あたりの年間商品販売額	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H18
	図 3-34	人口あたりの小売業年間販売額	都市データパック 2014	H24
	図 3-35	人口あたりの観光入込客数	京都府統計書、奈良市統計書	H25
		観光客一人あたりの観光消費額	京都府統計書	H25
3.2.8 財政力	図 3-36	財政力指数	都市データパック 2014	H24
		地方税収入額	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H23
	図 3-37	人口あたりの課税対象所得	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H24
		人口あたりの歳出決算総額	総務省「統計でみる市町村のすがた 2014」	H23
	図 3-38	人口あたりの地方税収入額	全市町村の主要財政指標	H24
		納税者人口あたりの課税対象所得	市町村税課税状況等の調	H24

4. まち・ひと・しごと創生法の概要

まち・ひと・しごと創生法の概要

目的（第1条）

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生（※）に関する施策を総合的かつ計画的に実施する。

※まち・ひと・しごと創生：以下を一体的に推進すること。

まち…国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成

ひと…地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保

しごと…地域における魅力ある多様な就業の機会の創出

基本理念（第2条）

①国民が個性豊かで魅力ある地域社会で潤いのある豊かな生活を営めよう、それぞれの地域の実情に応じた環境を整備

②日常生活・社会生活の基盤となるサービスについて、需要・供給を長期的に見通しつつ、住民負担の程度を考慮して、事業者・住民の理解・協力を得ながら、現在・将来における提供を確保

③結婚・出産は個人の決定に基づくものであることを基本としつつ、結婚・出産・育児について希望を持てる社会が形成されるよう環境を整備

④仕事と生活の調和を図れるよう環境を整備

⑤地域の特性を生かした創業の促進・事業活動の活性化により、魅力ある就業の機会を創出

⑥地域の実情に応じ、地方公共団体相互の連携協力による効率的かつ効果的な行政運営の確保を図る

⑦国・地方公共団体・事業者が相互に連携を図りながら協力するよう努める

まち・ひと・しごと創生本部（第11条～第20条）

本部長：内閣総理大臣
副本部長（予定）：内閣官房長官
地方創生担当大臣
本部長：上記以外の全閣僚

案の作成
実施の推進

実施状況の
総合的な検証

まち・ひと・しごと創生総合戦略（閣議決定）（第8条）

内容：まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向等
※人口の現状・将来見通しを踏まえるとともに、客観的指標を設定

助案

助案

都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略（努力義務）（第9条）

内容：まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向等

助案

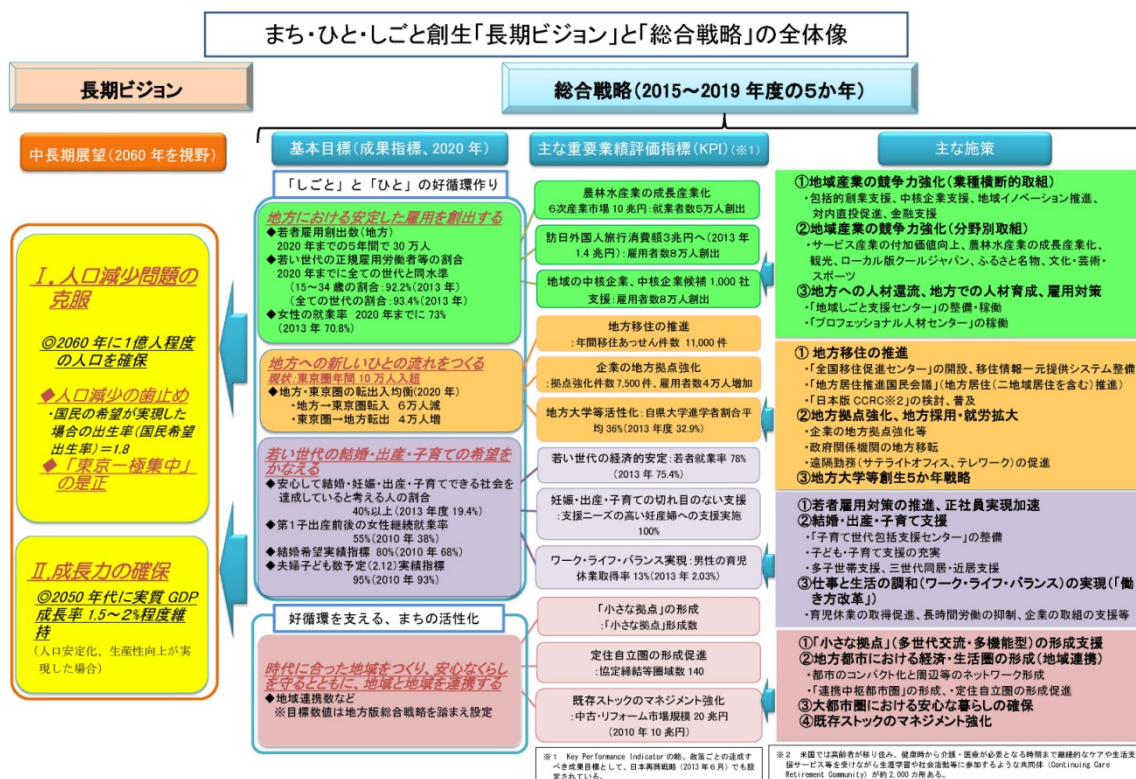
市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（努力義務）（第10条）

内容：まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向等

施行期日：公布日（平成26年11月28日）。ただし、創生本部・総合戦略に関する規定は、平成26年12月2日。

出典：まち・ひと・しごと創生本部作成資料

5. まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像



出典：まち・ひと・しごと創生本部作成資料

6. 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会条例

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）の作成及び推進するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 総合戦略の作成に関する事項
- (2) 前号に定めるもののほか、総合戦略の効果検証及び推進に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織する。

- 2 委員会の委員（以下「委員」という。）は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 公募により選出された住民
- (2) 識見を有する者
- (3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から2年とする。

- 2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を委嘱することができる。この場合において、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、市長は、特別の理由が生じた場合は、委嘱を解くことができる。
- 4 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長は当該会議の議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。
- 3 会議において議決すべき案件があるときは、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員に事故があるときは、当該委員があらかじめ指名する者が当該委員に代わって会議に出席し、議事に参与し、議決に加わることができる。
- 5 会長は、必要があると認めるときは、関係人その他の委員以外の者に対し、会議への出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(専門部会)

第7条 委員会は、第2条各号に掲げる事項について専門的な調査及び検討を行うため、必要に応じて専門部会を設置することができる。

2 専門部会の組織、運営その他必要な事項は、市長が別に定める。

(事務局)

第8条 委員会の庶務を処理するため、委員会に事務局を置く。

2 事務局は、総合戦略担当課に置く。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

(会議の特例)

2 第5条第2項の規定にかかわらず、会長が選出されるまでの間、第8条の庶務を処理する担当課長がその職務を代理する。